

# 薄氷堂掲示板過去ログ

2010年1月4日～2020年4月20日

これまで利用してきた teacup 掲示板サービスが 2022 年 3 月 1 日をもって終了となったため、過去の投稿記事をまとめて記録いたしました。以下はこの掲示板最初の記事です。

---

**ご縁が倍？** 投稿者:薄氷堂 投稿日:2006年10月21日(土)21時54分32秒 返信・引用  
これまで利用していた NIFTY のテキスト専用掲示板と OBBS の画像掲示板を廃止し、こちらに統合いたします。

使い勝手がよければ有料版に移行するつもりですが、当面は試験的に利用してみます。

この画像は 469×700 ピクセル、156.4 KB ですが、どうなりますか？ EXIF のデータも残るのかな？ お賽銭の額からみて、ご縁がダブルであるんじゃないかと思えます。



(2006-10-21 春採湖畔にて。Nikon D200 + Ai Micro 55mm F2.8S)

---

以来 2010 年代までは多くの方にご投稿いただき、投稿総数は 954 件に達しましたが、近年は Twitter などに押されて利用が低迷していたことは否定できません。時代が変わったということなのでしょう。

すべての記事を整形保存するのは時間的にも無理なので、時期を 2010 年 1 月 4 日～2020 年 4 月 20 日に限定しましたが、投稿された写真も収録しましたので、掲示板の雰囲気は十分伝わるかと信じます。

収録された記事を引用される場合は、<http://hakuhyodo.my.coocan.jp/hakuhyodo%20bbs.pdf> または「薄氷堂掲示板過去ログ」中のどの記事と、出所を明記されますようお願いいたします。

なお管理者の判断によって、一部収録しなかった記事のあることをお断りしておきます。これまでご投稿くださったみなさまには厚く御礼申し上げます。

2022年3月7日 薄氷堂掲示板管理人

■Re: 議員税の提案 投稿者:薄氷堂 投稿日:2020年4月20日(月)18時20分1秒 返信・引用

> No.963[元記事へ]

> 麦穂亭さん

消費税は天下の悪税だから廃止すべしと、ぼくはずいぶん前から主張しています。消費税の税率だけを取り上げて諸外国と比較する人もいますが、だまされてはいけません。最低賃金はどうか？ 消費税以外の税金はどうか？ 消費税の使い途はどうか？ などなど問題は多く、日本の場合、健康保険料などを含む庶民の高負担+消費税+福祉の低下がセットになっているからダメなんです。税率を上げるたびに内需が低下するのは当然で、まるで不景気製造エンジンですよ。

国会議員は一種の特権階級だから、野党もすでに「職業野党」に墮落しています。自分さえ当選できれば十分で、政権交代などする気はないんじゃないかと思っています。ぼくは数年前から、国会議員選出システムを裁判員制度に近くしてはどうかと提案しています。理由その一、ろくに読み書きできなくとも、たとえ必要な専門知識がなくとも、首相や大臣は務まる(実際務まっていますよね)。理由その二、統計学的にいて、非常識なクズばかりが集中することはありえないし、むしろ全体の質が向上する可能性さえある。理由その三、給与を今の三分の一にしても、なりたがる人は多いはずである。理由その四、貧富、学歴、性別などによる有利・不利が一切なく、平等を絵に描いたような(笑)制度である。

でも、いろいろ問題があるんじゃないか？ そのとおりです。そのとおりですが、世に完璧なシステムはありえないし、問題なら今でも十分すぎるほどありますからね。

■議員税の提案 投稿者:麦穂亭 投稿日:2020年4月20日(月)14時12分24秒 返信・引用  
昭和20年の焼け野原から、全国民の血の出るような努力にて素晴らしい復興をとげました。スポーツ、学術、技術、経済など、多くの分野では一流です。しかし政治家では、三流以下しかいません。特に平成元年以降の国会議員には、毎年500万の国会議員税をさかのぼって、払う義務があります。与党の議員は、1000万です。物故者は、残っている家族がその義務を負います。議員税の提案です。赤字国債お解消、消費税の低減へつなげなくてはなりません。今年の閣僚は、この5倍位は当然でしょう。この必要性について、全国民が気が付いてほしいものです。

■老舗の蕎麦屋 投稿者:麦穂亭 投稿日:2020年2月6日(木)15時43分9秒 返信・引用  
麻布十番のヒルズに向かう坂道の途中に  
総本家更科堀井があった。ここは老舗で  
著名人がよく来て遭遇することがある。  
2018年で更科堀井は 創業230年  
これもひとえに来店くださった皆様の  
おかげです 今後とも多くのお客様に

口福を感じて頂けるよう精進して  
参ります と書いてあった！  
ちなみに、熱々のかき揚げと蕎麦食す  
〒106-0046  
東京都港区元麻布3-11-4

■Re: 28という数字 投稿者:薄氷堂 投稿日:2020年2月4日(火)17時42分30秒 返信・引用  
> No.960[元記事へ]

> 麦穂亭さん

おや、いらっしゃい。

28という数字にそんな意味があるとは、うかつにも知りませんでした。

> それはごく自然な生き延びる法則なんです。

そういえば、ぼくの誕生日は某月28日。案外しぶとく生き延びられるかもしれませんね(笑)。

■28という数字 投稿者:麦穂亭 投稿日:2020年2月3日(月)13時33分11秒 返信・引用  
一ヶ月に満たない28日という数字は、生命を育む自然のリズム。太陽系の自転が約28日、月の公転周期は約27日、月の満ち欠けは約29日でこれらの平均が28日。細胞のターンオーバーも28日というのは再生のリズムである。大手の製パン工場へ行くと、サイロが数個必ずある。弊社のような中小企業は製粉メーカーから、25kg単位の粉袋だが、大手はあの大きなサイロにバキュームで注入する。必ず28日以前に空っぽになるように、しています。製粉した小麦粉から、虫の卵が孵化しない為に。あらゆる生物は、穀物に卵を産み付けています。それはごく自然な生き延びる法則なんです。

■Re: 寒い句 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年7月21日(日)22時30分48秒 返信・引用  
> No.957[元記事へ]

minoruさん

> 冷や水を 柄杓で撒きたし 京の街

あつという間に蒸発してしまうにせよ、打ち水の音は涼しげでうれしい  
ものです。

縁側ではチリンと風鈴が鳴って、太郎君がうまそうに冷えたスイカにかぶりついている。

う～ん、どうやら松竹大船調が体にしみついているようです(笑)。

■寒い句 投稿者:minoru 投稿日:2019年7月21日(日)08時07分40秒 返信・引用  
冷や水を 柄杓で撒きたし 京の街

■Re: こんばんわ☆? 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年7月20日(土)22時49分39秒 返信・引用

> No.955[元記事へ]

> minoru さん

> 山鉾巡行見物、まさに年寄りの冷や水でした。

冷水もぬるくなりけり京の夏 薄氷堂

相変わらず駄句で申し訳ありません(笑)。

■こんばんわ☆? 投稿者:minoru 投稿日:2019年7月20日(土)22時27分12秒 返信・引用  
山鉾巡行見物、まさに年寄りの冷や水でした。

お付き合いもほどほどにしませんと、命にかかわるということが分りました。

明日の投票には参ります。

では。

■Re: おはようございます 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年7月17日(水)23時24分39秒 返信・引用

> No.953[元記事へ]

> minoru さん

> 今日は祇園祭の山鉾巡行。

> 東京からのお客様に付き添います。

祇園祭のおつきあいですか。それはたいへん。

ぼくなんぞは一度も祇園祭を見物したことがありません。あの蒸し暑さの中、しかも中心街の雑踏の中へ出かけると想像しただけで気が狂いそうになりますね(笑)。

> この年齢になりますと、酷暑の京都、厳寒の京都を案内するのは、きついです。

若くたってしんどいですよ。ほんとうにお疲れさまです。

> ゴシック文学から「ガルガンチュア物語」を連想した途端、

ああ、ラブレーはむちゃくちゃおもしろいですよね！ ぼくは中学校の図書館にあったのを借りて読みましたが、びっくり仰天したことを忘れません。つまらない授業を受けるのが心底いやになりました。ぼくが扱いつらい生徒になったら、それはラブレーのせいです(笑)。

> 夫はバフチンに興味を持ち、確か本も買っているはず、そう思って、

> 本箱を探しますと、出て来ました。

寝転がって『悪霊』をお読みになるほどのお方ですから、只者ではないと思っていましたら、やはり……

ぼくみたいにオーソドックスな学問のない酔っ払いは、『悪霊』で申しますと、Varvara の客間にまぎれこんだ Captain Lebyadkin みたいなものだとお考えください。ただし彼ほどむちゃな呑み方はしませんけれど。

> それにしても、本を読むのは独身時代に限ります。

> 夫のように朝から昼に寝転んで本など読んではいられません。

minoru さんのおっしゃることはごもっともだと思いながら、ぼくはご主人にも同情を禁じえないのです(笑)。どうかゴミといっしょに箒で掃き出すようなことはなさないでください。

> それでも、読みたい本は、家事や雑用をかいぐって読みますね。

そうです、そうです、その意気ですとも。ついでにフライパンの底にいるような京都の夏を乗り切ってください。

信・引用 編集済

>いえいえ、どうして、今もなお……(笑)

って、そう見えますか。

だいふ世慣れてきましたけど(笑)

今日は祇園祭の山鉦巡行。

東京からのお客様に付き添います。

京都に住んでおりますと、四季折々に知人が観光で訪れ、

そのまま素通りしてくれれば助かるのですが、

連絡があれば知らぬ顔はできませんので、京都の穴場を案内し、

食事も一緒にします。

若い頃は「朋あり遠方より来る……」の心境でしたが、

この年齢になりますと、酷暑の京都、厳寒の京都を案内するのは、きついです。

薄氷堂さんの smoking room のゴシック文学なるもの、知りませんでした。

「ゴシック文学」を調べているうちに、人間の脳の働きの不思議さを改めて認識しました。

ゴシック文学から「ガルガンチュア物語」を連想した途端、

それまで固く閉じていた頭の中の引き出しが突然開き、幾つかの単語が飛び出しました。

バフチン、ドストエフスキー、カーニバル文学。

それらを知ったときの状況も憶い出しました。

昔のことですが、ドストエフスキーに魅入られたという娘さんの祖父の S 氏が、  
ご夫婦で京都にいらした折、夫と私との4人で、七軒町で食事をしたのですが、

そのときに、S 氏がバフチンについて熱心に語ったのでした。

夫はバフチンに興味を持ち、確か本も買っているはず、そう思って、  
本箱を探しますと、出て来ました。

ミハイル・バフチン著『ドストエフスキーの詩学』。

非常に分厚く、字が小さい。

それでも読んでみたら、難解でも何でもなく、解りやすい。

「ドストエフスキーはポリフォニー小説の創造者である。

彼は本質的に新しい小説ジャンルを作り出したのだ。

それゆえ、彼の作品はどんな枠にも収まらない。」

ああ、あのとき、あの方も仰っていたなど。

記憶の働きは不思議です、今まで憶い出すこともなかった事柄でも、

頭の中の引き出しにちゃんと収われていて、  
何かのキッカケで飛び出して来る。

この本も読んでみたいのは山々ですが、現在読みかけのものがありませんので、  
それが終わったらということ。

それにしても、本を読むのは独身時代に限ります。  
主婦になってしまうと、細かい用事でどうしても途切れる。  
家事を済ませ、やっと落ち着き、本を手に取り、乗ってきたなと思う頃に、  
玄関のチャイムがピンポン。  
宅急便で一す！という声。  
生もの場合はすぐに開け、冷蔵庫に収め、すぐにお礼のメールを作成する。  
その他、電話もあれば、聖書伝導やセールスの訪問、  
と様々の理由で中断しなければなりません。  
夫のように朝から昼に寝転んで本など読んではいられません。  
それでも、読みたい本は、家事や雑用をかいくぐって読みますね。  
私の場合、電車の中が一番集中できます。

何やかんやで、今日からお客様。  
蒸し暑い時期ではありますが、楽しんで頂けるよう頑張ります。  
しかし、あの人出を想うと....。  
どうなりますことやら。

■Re: 連日の投稿、申し訳ありません m( )m 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年7月15日(月)01時  
17分8秒 返信・引用  
> No.951[元記事へ]

> minoru さん

> 「れいわ新撰組」は、この国の急所を突いていますね。

野党と称する人たちの中には、国会議員という「おいしい職業」にありつけさえ  
すればそれでいい、と思っているらしい方が少なからずいるようです。だから消費  
税凍結などと生ぬるい主張をしているのだと思います。ものを買うたびに罰金を支  
払うとはとんでもないという、ごくあたりまえのことがわからないようでは終って  
いますね。

しかもその罰金、貧乏人ほど負担割合が大きいことから、苛政は虎よりも猛しの  
見本みたいなものです。おまけに福祉に使われるどころか、法人税軽減の穴埋めに

使われているのだから、俗にいう「やらずぶったくり」もいいところです。これを黙って受け入れるようでは、はっきりいって奴隷未満ですよ。フランスならとつくに大暴動に発展していると思いますね(笑)。

山本氏のすぐれたところは、左右という対立軸を越えている点だと思っています。

たとえば、補助金詐欺の片棒をかつぐような政権は、思想の左右を問わず、断罪されなければなりませんよね。そして「保守」。女は何人子どもを産めなどと、旧態依然たるたわごとをいう一方で、自分一人生きていくのが精一杯で結婚もできなければ身内の面倒も見られないような若者を大量に作り出して、小津安二郎的家族(笑)を徹底的に破壊し、原発を放置し辺野古の海岸を荒らして国土を荒廃させ、「美しい日本」とやらを痛めつけ、国民がせつせと稼いだ富をアメリカに貢ぐような売国政権のどこが「保守」なのか、左翼よりもむしろ右をもって自認する人々こそ怒りの声を上げねばならないのが現実でしょう。

持たざるものは「持たざる」という一点で連帯しうる、というあたりまえの視点を山本氏は示してくれました。彼が頭脳明晰である証拠だと思っています。この視点に立てば、世界中どこの国の持たざるものとも連帯できるわけだから、偏狭な排外主義などはありえないわけです。

なにも 100 パーセント考えが一致しなくたっていいんです(そんなことありえませんが)。少なくともほかの選択肢よりはマシなのだから、ぼくも乗ってみようと思った次第です。

> 宗教のパワーを感じましたが、彼女は宗教に依って立つのではなく、教団の奴隷  
> と化しています。

宗教はむずかしい問題ですが、しよせん教団であるかぎり「人間」の集団にすぎず、(かりに存在するとして)神や仏が直接この世に現れて指導するわけではありません。宗教的指導者もまた煩惱にまみれた人間にすぎないということを、(信者の方々には申し訳ないけれど)けっして忘れてはいけないと思います。

> 私の世代の十代の女の子なんてこんなものです。  
> 残酷なほど潔癖でした。

いえいえ、どうして、今もなお……(笑)

■連日の投稿、申し訳ありません m( )m 投稿者:minoru 投稿日:2019年 7月 14日(日)21時 15分 3秒 返信・引用 編集済

「れいわ新撰組」は、この国の急所を突いていますね。  
全員当選して欲しいですが、特に野原善正氏の当選を願っています。  
公明党は、かたちこそ違へ現代の石原莞爾的役割を果たしており、  
この国をとんでもない方向に向かわせる片棒を担っています。

私のかつての親友に創価学会に入信、今でも活動している女性が居ます。  
経済的には恵まれた環境で育ちましたが、結婚前は父親の素行に苦しみ、  
商家に嫁いだ後は、肉体的に相当ハードな生活を強いられました。  
それを信仰で乗り切った訳です。  
宗教のパワーを感じましたが、彼女は宗教に依って立つのではなく、教団の奴隷と化しています。  
教団の指示には、どんなことでも従う。  
それが生き甲斐なのですから、どうしようもありません。

ところが、信心が生き甲斐の割には、いつもおっかない顔で、  
彼女が真に楽し気な笑顔を見せたのは、  
その存在すら知らされてはいなかった異母妹に会いに行ったとき。  
ほのぼのとした笑顔で「私にもう一人妹が居たの」と幸せそうでした。

記述は脇道に逸れますが、彼女の父親のことを憶い出す度に不快になります。  
世間体をはばかり、離婚などする気はないくせに職場の部下との関係が続け、  
挙げ句の果て、妊娠した女性に墮胎を強要、一度目は女性も承知したものの、  
二度目のときは、墮ろしたと告げた後、姿を消しました。  
親友からこのことを打ち明けられたのが、多感な高校時代。  
激しい嫌悪感で、彼女の父親を内心では vipere(まむし)呼ばわり。  
(vipere はイエスがパリサイ人を罵るときに発した言葉です。)

私の世代の十代の女の子なんてこんなものです。  
残酷なほど潔癖でした。

とにかく、かつての親友の教団に対する献身が悲劇に終わらないためにも、  
野原善正さんの当選を願っています。

■Re: 追伸 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年 7月 13日(土)23時 33分 1秒  
> No.948[元記事へ]

返信・引用

> minoru さん

> 京都の瀧本製本の本だけは、しっかりと原型をとどめていたそうです。  
> このことでも瀧本製本の名は関西一円に轟きました。

それは知りませんでした。

たしかにハードカバーの上製本は重量がありますから、時計台から投げ落としたらふつうひとたまりもないと思います。

その点、軽い文庫本は案外タフじゃないかと思います。ピサの斜塔で実験をしてみたいものです(笑)。

■Re: おはようございます 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年7月13日(土)23時28分9秒 返信・引用

> No.947[元記事へ]

> minoru さん

> これ、関西弁で言ったらワヤですわ(笑)

いえいえ、そんなことはありません。ただこの場合、ご主人役は笠智衆というわけには参りませんね。佐分利信も似合わないし、セリフ回しからいえば中村鴈治郎あたりかなと思います。特に最後の一行(毎年鳴かんでもええのに……)などはピッタリかと。

> 「Fresco に行っただけやん。うまいもんなんてないわ」

5年前一ヶ月ちょっと京都に滞在したときは、ぼくもずいぶん Fresco のお世話になりました。あとはイズミヤ、Life、渋いところでは北野メッセ……(なんの話をしているのやら(笑))

> 変わらん人間は精神を病んでいるそうです。

う～ん、変っているようでもあり、変っていないようでもあり、ちょっと危ないかな？

> 時は流れ、あるときテレビで「彼岸花」観て、あれ...と思いました。

実は『彼岸花』はうんと子どものころ、親に連れられて映画館で観ているのです。小津映画なんて大人にとっても「わあ、おもしろい！」というものじゃありませんから、子どもが観たってちっともおもしろくありません。早く終わってくれないかなあと思いましたよ(笑)。

ですから、当然ストーリーなんぞまるで覚えちゃいません。幸い動画は保存してありますので、近いうちに観ようと思います。

> 秀才君の頭痛ですが、大学病院の診断による治療でもダメだったそうです。

それは残念ですね。しかしぼくなんか、中学から高校にかけて、ずいぶん病気に苦しめられ、その後遺症でいまでも耳鳴りがつづいて、左耳はほとんど聞こえませんが、人間というのはしぶといものです。当時お医者さんには「君は長生きしないよ」といわれたのですが、この年までちゃんと生きております。毎晩ウイスキーを飲んでおります(笑)。

治らない病気なんていくらでもあります。しかし治らないからといって、ただちにあの世に行くわけではありませんから、命あるかぎりはずうずうしく生きるしかありませんね。

> ただ、この作家はなぜこんなことを書くのだらうと不思議に思う箇所が

> すでに幾つかありました。

それはぼくも感じました。いずれもう一度読んでみることにします。

> 最後に、令和新撰組の木村英子さんの訴え、ぜひぜひ聴いて下さい m( )m

「れいわ」については、最近 YouTube の動画をよく見えています。山本太郎という人物は最初どうもよくわからなかったのですが、演説を聴いてみると、本質的に頭のいい人であることがよくわかりました。例の東大卒のアル中議員よりも百倍は優秀だと思います。

消費税が天下の悪税だというのはぼくの最初から変らぬ考えですから、今度の選挙には「れいわ」に一票を投じます。

■追伸 投稿者:minoru 投稿日:2019年7月13日(土)09時19分41秒 返信・引用 編集済

> 製本技術については日本をほめてやっていいと思う。

学生運動盛んなりし頃、京都大学の時計台から、学生たちが研究室の本を投げ捨てたところ、ほとんどの本がバラバラになってしまったのに、

京都の瀧本製本の本だけは、しっかりと原型をとどめていたそうです。

このことで瀧本製本の名は関西一円に轟きました。

■おはようございます 投稿者:minoru 投稿日:2019年7月13日(土)08時18分27秒  
信・引用 編集済

返

「昔の松竹映画風」の超短い脚本、ありがとうございました m( )m  
ひさし塗りに美しい標準語を目にしました。  
これ、関西弁で言ったらワヤですわ(笑)  
例えば、昨日の夫と私の会話、こんなんです。

「ただ今」  
「お、帰って来よった」  
「ああしんど。外は蒸し暑いよ～」  
「何かうまいもん買ってきた？」  
「Fresco に行っただけやん。うまいもんなんてないわ」  
「そやな」  
「あれ、クマゼミが鳴いてる」  
「ほんまや。毎年毎年鳴かんでもええのに。やかましわ」

こんなんです(笑)

人は変わるものなのですね、当たり前ですけど。  
変わらん人間は精神を病んでいるそうです。  
K 大病院の精神科の医師が言ってました。

若い頃、小津安二郎監督の映画に魅入られ、当時東京に居たのですが、  
どこかで小津映画の上映会があると聞くと、連日足を運んだものです。  
美しい女優さんが品のある標準語を話すでしょう。  
それに独特の画面構成が醸し出す様式美がもう好きで好きで。  
ところが、結婚して子どもが生まれ、子育てや家事、人間関係の維持に忙殺されているうちに  
時は流れ、あるときテレビで「彼岸花」観て、あれ...と思いました。  
映画の中の幾つかのシーンに強い違和感を覚えたのです。  
若い頃の全面的な肯定から、一部ではあるにしろ、批判的になっていました。  
私の中で何かが変わったのでしょうか。

秀才君の頭痛ですが、大学病院の診断による治療でもダメだったそうです。  
人間の体はマイクロコスモス。分子生物学者の柳澤桂子さんの例もありますし、  
なかなか難しいのではないのでしょうか。

『灯台へ』はまだ初めの部分ですが、読みやすいです。  
ただ、この作家はなぜこんなことを書くのだろうと不思議に思う箇所が  
すでに幾つかありました。

最後に、令和新撰組の木村英子さんの訴え、ぜひぜひ聴いて下さい m( )m

■Re: おはようございます 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年7月10日(水)22時48分40秒 返信・引用

> No.945[元記事へ]

> minoru さん

> 古本ではなく新本ですので、ページを開いたときの新鮮な感覚が味わえますね。

独特のインクの匂いがしますよね。ぼくは新本を買っても、読まぬうちに古本にしてしまいます。ですからインクの匂いは楽しめませんが、「秋の日の図書館」の匂い(笑)を味わっています。

> 原因不明の頭痛で休学中の秀才君は、アマチュアのジャズバンドでベースを担当

おお、ベースとはまた渋い楽器ですね。やるじゃありませんか。

> 長い指で頭を締め付けられるような痛みで、

原因が心因性のものでないとしたら、病院で精密検査を受ける必要があるかも知れませんよ。

> 先日、四条通りで彼にばったり出会ったのですが、なぜか知らん顔されました。

なるほど。せっかくですから、ここからは昔の松竹映画風に、勝手に想像してみました。失礼の段は平にご容赦のほどを……

がらりと玄関を開けて「ただいま」というと、「う～む」と主人が面倒くさそうに応える。彼は縁側に寝そべって新聞を読んでいる。風鈴がチリンと鳴る。

「さっき四条で秀才君に会ったら、知らん顔をするのよ。若い人の考えていることはわからないわ」

「はてな、秀才君なら君が出かけてすぐに来たんだがなあ」

「まあ……」

「留守だといったら、そうですかといって帰っていったぜ」

「変ねえ。なにか用があったのかしら」

「うむ、たしかに変なやつだ」といって、主人は新聞をたたむ。

風鈴がまたチリンと鳴る。

……とまあ、やや松竹大船調に近づけましたでしょうか。セリフは適当に京都弁に翻訳してください(笑)。

■おはようございます 投稿者:minoru 投稿日:2019年7月10日(水)09時44分54秒 返信・引用 編集済

昨夕『灯台へ』が届きました。

古本ではなく新本ですので、ページを開いたときの新鮮な感覚が味わえますね。

今日から読み始めるつもりです。

家庭にとって夕食は一日のうちで、ささやかではありますが、最大のイベントです。遅れないように致します(笑)

ジャズは男の音楽でしょうか。

夜中にミルクを上げなくて済むようになってからは、聴くこともなくなりました。

原因不明の頭痛で休学中の秀才君は、アマチュアのジャズバンドでベースを担当しているそうで、ジャズは男の領域という発言に、しきりに頷いてました。

彼、色白で繊細な顔立ちで、ひろっと背が高く、演奏をしているときだけ、頭痛から解放される、長い指で頭を締め付けられるような痛みで、

自分は、悪魔に取り憑かれているのかな...と。

先日、四条通りで彼にばったり出会ったのですが、なぜか知らん顔されました。

年頃の男の子のキモチは、理解スル能ワズ、です(笑)

■Re: FEN 放送 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年7月8日(月)23時12分57秒 返信・引用  
> No.943[元記事へ]

> minoru さん

minoru さんのおかげでこの掲示板も息を吹き返し、岐阜県の誇る奇人麦穂亭がひさびさに登場してくれました。それで思い出したので、彼の飼っている「招き猫」の

写真を載せた次第です。

なおこの掲示板は写真も投稿できますので、どうかご遠慮なく。

> ジャズは本場アメリカでもすっかり下火だそうですね。

ぼくは東海林太郎からシヨスタコーヴィチまでが守備範囲ですから、ジャズもたまに聴きますよ。なにしろ人間が古いものですから、1950年代あたりののが好みます。

> 岩波文庫の『灯台へ』Amazon で購いました。

また夕食が一時間遅れますね(笑)。

> 『青春』『颯風』を読んだだけでコンラッドが私に合っている発言は、あまりに無知でした。

ああ、そんなことはありません。どうか直感に従ってください。合っているとお思いになったからには、それ相当の理由があるはずですし、また読者にそう思わせるだけの小説家に価値がないわけではないと信じます。

> 「女なんて星の数ほど居る」は、喩えでも誇張過ぎましたか。

いえ、お気持はよくわかるのですから、誤解なさってはいけません。ただ星の数ほどあるのでは、女性の価値が下がってしまうのではないかと心配しただけなのです(笑)。

■FEN 放送 投稿者:minoru 投稿日:2019年7月8日(月)21時33分19秒 返信・引用  
あれれ、ひっさしぶりにオスカー・ピーターソンとディジー・ガレスピーを聴いて、  
ちょこっと覗いてみしたら、素敵なお客様。

ン十年前、真夜中に赤ん坊にミルクをあげてましたら、ラジオから、  
オスカー・ピーターソンとディジー・ガレスピー、それに、シャーリー・バッシーの「killing me softly with his  
song」が流れてきました。

選曲がすばらしかった！

米軍の放送でした。

それをどうい訳か、ふと思いで出して聴いていました。

ジャズは本場アメリカでもすっかり下火だそうですね。

岩波文庫の『灯台へ』Amazon で購いました。

明日届きます。

『青春』『颯風』を読んだだけでコンラッドが私に合っている発言は、あまりに無知でした。

「女なんて星の数ほど居る」は、喩えでも誇張過ぎましたか。

■Re: アイリッシュ・ウイスキー 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年7月8日(月)21時02分56秒  
返信・引用

> 麦穂亭さん

おやおや、音沙汰がないからどうしたかと思っていたら、アイリッシュ  
ウイスキーとはまたオツなものを……

ゴシック・ノベルのくどい文章に辟易していたところに、「前略 草々」  
の簡潔な文章は一服の清涼剤ともいべきものでありがたいけれど、もう  
ちっとばかり愛想があってもいいんじゃないかと思うなあ。でも、そこが  
麦穂亭の持ち味なんだろう。



ところで写真の猫君(ちゃん?)はいまも元気ですか?

■アイリッシュ・ウイスキー 投稿者:麦穂亭 投稿日:2019年7月8日(月)18時01分59秒 返信・引用

前略

御無沙汰しております。最近 アイリッシュウイスキーの

ジェイムストン 1.8リットル弱で 3000円ちょっとで

コストコで買える。毎日、オンザロックで2杯 戴いています。

今日は 飲みながら 芥川の「藪の中」を読んだ。山科が舞台。

程よく酔いが回ってきた。では！ 早々

■Re: m( )m 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年7月8日(月)00時09分8秒 返信・引用  
> No.939[元記事へ]

minoru さん

> 薄氷堂さん、金曜日は大変な日だったんですね。

病院の待ち時間というのは苦痛そのものですね。読みかけの浮世離れした小説を用意していったのですが、落ち着いて読めないからだんだん嫌気がさしてきます。おまけにお尻が痛くなってくるし、あんまり待たされるものだから、癩癩が破裂しそうになる。どうも病院という場所は健康によろしくありませんね。

> 若竹の前で願い事を考えたのですが、全部、身内のことばかりで、自分の願いはなかった。

そうですね……ぼくが書くとしたら「消費税廃止！」でしょうか(笑)。

> 秀才君から、七夕なのに彼女と別れた、振られた( ;∇;)と泣きのメールが来ました。

> で、おもいきり褒めてやりました。

なるほど、minoru さんが Varbara で、秀才君が Trofimovitch というところですね。振られた人を慰めるのではなく、ほめるというのはさすがです。

> 女なんて星の数ほど居るし、海の魚ほど居るんですから、

お言葉を返すようですが、記憶ちがいでなければ、星の数はたしか十億の数十億倍ほどあるらしいですから(秀才君にお確かめください)、女性のはるかに貴重な

存在です。

> 私はこのとき、恋愛の神秘を感じました。

人類存続の秘密がそこにあるのかも知れません。恋愛が美男美女の間でのみ成立するものだとしたら、大変な事態になっていたことでしょう。

■m( )m 投稿者:minoru 投稿日:2019年7月7日(日)20時33分28秒

返信・引用

薄氷堂さん、金曜日は大変な日だったんですね。

病院の付き添いで5時間半、そしてデスクワーク。

知らぬこととは言え、長々と書いてしまいました。

お許し下さい m( )m

お返事は、どうか、ご無理なさらずに。

日をまたいでもよいのではないのでしょうか。

さて、そう言いながら書いてます^^

最寄りの駅の構内に若竹が設置されました。

乗客に七夕の願い事を5色の短冊に書いてもらって、それを飾っているのです。

改札から入ると、中年の駅員さんに「奥さんもどうです、何か願い事があったら書いて下さい」と言われ、

若竹の前で願い事を考えたのですが、全部、身内のことばかりで、自分の願いはなかった。

何だか寂しかったです....。

秀才君から、七夕なのに彼女と別れた、振られた(;▽;)と泣きのメールが来ました。

で、おもいきり褒めてやりました。

「すばらしい！ 覚えてる？ T先生が前期の最初の授業で、

「君たち、大学に入ったら恋愛しなさい」と仰ったら、

シーンとして、そのあと失笑が漏れたでしょう。

つくづく時代は変わったと思いましたよ。

だからあなたみたいなまともな人がいたのかと思うと嬉しい！

女なんて星の数ほど居るし、海の魚ほど居るんですから、

また見つかりますよ、好きな人が」と返事しました。

私の友達に美人がいました。

一緒に歩くと、みんな彼女ばかり見る。

その美人が、何と冴えない男に恋をして、挙げ句振られたんです！

信じられませんでした。

彼女、女子大の女子寮に入っていたんですが、失恋の痛手で授業にも出られない。

舎監が心配して世話をしました。

そんな彼女でも新たな恋愛を経て、結婚してます。  
そんなものですよ。

彼女を振った身の程知らずの男ですが、  
大手の本屋でアルバイトしていた大学生で、  
彼女が惚れた相手はどんなだろうと、皆で見に行ったんです。  
ところが、美しい彼女に見合った男性なんて売り場のどこにも居ない。  
それで、女子寮に電話をして確かめて、また売り場にもどって確認した結果、  
みんなで、顔を見合わせてしまいました。  
痩せて顔色の悪い、鼠みたいな男。  
一体、あんな学生のどこが良いのか、さっぱり分かりませんでした。

私はこのとき、恋愛の神秘を感じました。

このことも、秀才君にメールしました。  
まだ返事は来ません。

今日は、これくらいで。  
では。

■Re: 秀才君に言ったこと 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年7月5日(金)23時59分21秒 返信・引用

> No.937[元記事へ]

minoru さん

今日も『悪霊』は読めませんでした。またしても不勉強のいいわけになりますが、  
日中は病院の付添い(これで5時間半)、夕食後はお仕事(たまにデスクワークがあるんですよ)。ぐったり疲れて、いまウイスキーを一杯やっているところです。

> 日本の男性で中年になっても老人になっても素敵な人って居る?  
> みーんなくたびれちゃってへろへろじゃないの。

ギョッとしましたよ(笑)。

> 困ったような、妙な表情をしました(笑)

それはしかたがないですね。まだピンとこないと思いますよ。

- > フランスでは、共に暮らす男女の6割が婚姻していません。
- > 政府はそれでも児童手当などの公的支援を惜しみません。

たぶんブルームズベリーの連中も似たようなことを考えていたと思います。子どもが不幸にならないという前提ならそのほうがいいのでは…… 別に危険思想じゃないんですけどね。

- > 私はロシア文学の愛好者ではありませんが、『カラマーゾフの兄弟』には興奮しました。

ぼくはロシア文学はほんの少ししか読んでいませんけど、けっして嫌いなわけじゃありません。人名がややこしくなければもっと読んでいたんじゃないかと思います。

- > (生前、母が言ったことですが、主婦は家事ばかりやっているうちに日が暮れてしまうので、
- > ご飯のおかずを考えることに頭の大半を使うので、バカになってしまう。

家事を会社の仕事に置き換えれば、男がいつそうバカになる理由もわかります(笑)。ほかに気を回す余裕がなくなってしまうんですね。その結果、へろへろになってしまう。

結局どちらもへろへろになってしまうんだからたまらない。互いの距離はいつしか千里も離れて、たとえば畳の上に寝転がっている亭主がただの座布団と変らぬように見えてくる。苦勞して食事を作ってくれる細君が、ただのおさんどんに見えてくる。

こんなことでいいのか、諸君！……と、秀才たちにいつてあげてください。

■秀才君に言ったこと 投稿者:minoru 投稿日:2019年7月5日(金)17時42分41秒 返信・引用 編集済

こんばんわ^^

>いまの結婚制度やそれを支える道徳観には、(良くも悪くも)人間の本性と矛盾するところがある、少なくとも改善の余地あり。

女は子どもを生め！と「号令」したくてたまらない国会議員は、  
こういう危険思想の持ち主は、引っ捕らまえて、本当は復活させたい特高に引き渡したいと思うことでしょう(笑)

友達になった秀才君に、先週、こう言いました。

家庭など持とうなんて軽々に思わないこと。

家庭を持つなら、仕事を持つ女性を選び、二人で働き、どっちかが働けなくなったときには、片方が支える。

夫が一人で家族を養うことがどれだけ大変なことか、見れば分るでしょ。  
日本の男性で中年になっても老人になっても素敵なお人って居る？  
みーんなくたびれちゃってへろへろじゃないの。  
ま、魅力的な人も居るけど、あんまり見かけないでしょ。  
それだけタイヘンなのよ、家庭の経済を何十年も背負って働くのって、と言いましたら、  
困ったような、妙な表情をしてました(笑)

夫もタイヘンですが、主婦も同じです。  
ルーチンワークに耐え、年中無休で家族の面倒を見、  
ご近所や大嫌いな親戚に気を使っているうちに、いつの間にか、年を取ってしまう。  
夫は夫で仕事や人間関係に疲れたからといって休養も取れない。  
今の結婚制度では、双方ともに家庭の重圧に耐えて行くしかない.....  
定住して家庭を維持することの重圧。

砂漠の遊牧民に精神疾患は無いそうです。

フランスでは、共に暮らす男女の6割が婚姻していません。  
政府はそれでも児童手当などの公的支援を惜しみません。  
私は、フランスのように、婚姻にこだわらない家庭作りがあってもよいのではと考えています。

>かつて日本でも子どもを産めない女性を離縁するという残酷なことが行われていたようですし....

「子無きは去れ」ですね。  
親戚にも子どもの居ない家庭がありますが、原因は旦那さんに有ったのです。  
これが医学の発達していなかった時代では、すべて女性が原因とされました。

お隣の大国では、儒教の宗教性として、祖先の祀りは最も大切なことで、  
これが最大の「孝」ですから、子孫が途絶えてはならないのです。  
その意味で女性の役割は大きかったのですが、夫婦に子どもができない場合、  
全て女性のせいにされ、一旦子どもを身籠ることができないと烙印を押された女性の末路は、  
悲惨でした。

余談になりますが、お隣の大国の歴史を学んでいるとき最も衝撃的だったのは、  
貧しい男が貴人をもてなすために妻を殺害し、その肉を供したという記述。  
台所に転がっている男の妻の死体を見て、貴人が、複雑な表情をするというシーンです。

ところが、こういうケースは彼の国では珍しくもないのです。  
様々の歴史書に人肉食の記録が残っています。

しかし、一方で是を嫌悪する人々も居り、彼の国にはカニバリズムが存在したとは言えないのです。ネットなどで、彼の国のカニバリズムをきめつけた記述には、要注意です。

高橋源一郎さんは大学の教授でもあります、  
学生にドストエフスキーを読んでもらおうと、凄くオモシロイ！と興奮したそうです。  
そのことから高橋さんは「若い世代の読解力が落ちたのではなく、ソーシャルメディアや対戦ゲームなどその世代にとっての主流となる文化があり、その世界で生きる若者たちは、常にその文化に惹かれるもので、僕たちの基準からすると古典を知らないのかもしれないけど、若者たちは別のものを吸収している。違う価値観を持つ若い世代の文化的な質が下がっているとも思いません」とコメントしたそうです。  
そういえば13年前に『カラマーゾフの兄弟』の新訳が出ましたが、何と100万部以上も売れました。  
若い人たちが飛びついたのです。  
しかし、この新訳には重大な問題点というか欠陥があるのですが、長くなりますので、  
また次回にでも。

私はロシア文学の愛好者ではありませんが、『カラマーゾフの兄弟』には興奮しました。  
その内容もしっかり記憶に残っています。  
某氏が、対談で「成人男子は性欲なのに思想に行ってしまう」と言ったトタン、高橋源一郎さんがすかさず「ドストエフスキー」と言ったのですが、これどういう意味なのでしょうか....。

(生前、母が言ったことですが、主婦は家事ばかりやっているうちに日が暮れてしまうので、  
ご飯のおかずを考えることに頭の大半を使うので、バカになってしまう。  
朝起きて、まず朝食の支度。後片付けをして、洗濯、掃除、ゴミ出しなどを行っているうちに昼になり、  
昼を食べると、再び後片付け。少し休んで雑用をこなし、食料の買い出しに行き、  
帰ってきたら洗濯物を取り込み、アイロンをかけ、畳んでもとの位置に戻す。  
家事以外のこまごました雑用も結構あり、それを片付けているうちに日が暮れてしまう。  
そうすると、今度は夕ご飯とお風呂の支度。  
そんな生活がラクチンな人も居れば苦痛な人も居る。  
あんたはね、もし苦痛だったら、家事以外のことで頭を使うよう、働くなり勉強なりしなさいよ、と  
真剣な表情でした。  
母は、家庭は、主婦にもものを考えさせない場だと思っていた節があります。)

■Re: おはようございます 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年7月4日(木)19時54分42秒 返信・引用

> No.935[元記事へ]

minoru さん

> 私の身近にもどうしようもない亭主に苦しんでいる女性たちが今も居ますが、

ぼくの場合は自覚しているだけマシ(?)とお考えいただければ幸いです。

- > ただ、私の知人、友人の中で、今でもご主人と相思相愛という奇跡的なご夫婦
- > が一組

一組だけ、というのは大事なポイントで、いまの結婚制度やそれを支える道徳観には、(良くも悪くも)人間の本性と矛盾するところがある、少なくとも改善の余地あり、という危険思想(笑)をぼくは抱いています。

- > ヴァージニア・ウルフの『灯台へ』は、「映画にするとしたら小津」会社は
- > 「松竹大船調がよかろう」で、俄然読みたくなりました。

冗談なので、あまり本気にされませぬよう願います。笠智衆と原節子の役どころをどうするか、まず考えなくてはいいけません(笑)。

- > それから、夫によると、『悪霊』の本領発揮はスタヴローギンが登場してから
- > だそうです。

なるほど、覚えておきましょう。

- > 余談になりますが、お隣の大国では、旧体制本妻の他に妾を持つことが当たり
- > 前だったのですが、

家と財産継承のために男児が必要だったから、もし細君が男を出産しなければ妾を持っても社会的に非難されなかった、というのも理由の一つでしょうね。

西洋だって似たり寄ったりで、お家存続のためには、なんとしても現在の細君を捨て、男児を産む可能性のある別の女性を得ようとしたことは、今読んでいるイギリスの古い小説にも出てきます。問題は離婚を簡単にゆるさぬ教会の干渉で、ヘンリー8世がローマ教会と絶縁したことはご存じのとおりです。

かつて日本でも子どもを産めない女性を離縁するという残酷なことが行われていたようですし、女性からすればまったくとんでもない話なんですが、いまだに何人子どもを産めなどと余計なお世話を口走る国会議員がいるのは、その遺風が残っているのだと思います。

- > このアーサー・ウェイリーがヴァージニアウルフのサロンに出入りしていたとは驚きでした。

ケインズも加わっていた、いわゆるブルームズベリー・グループですね。詳しいことは知りませんが、結婚制度や既存の道徳観に疑問をもたないような人々ではなかったはずですから、日本のたわけた国会議員などはコテンパンにやつけられるどころか、相手にもされなかったにちがいません。

■おはようございます 投稿者:minoru 投稿日:2019年7月4日(木)07時26分16秒 返信・引用

>東西を問わず、ろくでもない亭主にじっと耐えるのは、昔から女性の美德とされてきた。

ウァ、仰る通りです。

私の身近にもどうしようもない亭主に苦しんでいる女性たちが今も居ますが、例は挙げないことにします。気持ちが暗くなりますので。

それにしても、男尊女卑は男性側には好都合です。

女に学問など要らない、結婚して子を産み、夫や子ども、舅姑の面倒をみるのが女の努めだからと、女性は学ぶ機会を奪われ、ダメ男から逃げ出したくとも、女一人、あるいは子どもを抱えて生きるうえでの知識や技術がないので、耐えるしかなかった。

教師だった叔母が言うには、耐える女性は根性が悪くなるそうで、嫁が来るといびり倒す。

伯父も教師でしたが、古い考えの人で、教え子が姑の虐めに耐えかね、伯父に相談に来ても、「女三界に家無し。辛抱第一」と諭したらしいです。

その帰り途、彼女は小さい方の子をおぶい紐で背負い、大きい子は抱きかかえて橋から河に飛び込み、三人とも亡くなったそうです。

それから伯父は、決して仲人を引き受けませんでした。

ただ、私の知人、友人の中で、今でもご主人と相思相愛という奇跡的なご夫婦が一組だけ存在しますが、奥様は、4人のお子さんを持ちながら余裕で主婦としての仕事をこなしていました。私の経験では、稀なケースとしか言いようがないです。

その方から、大切なことを気付かされました。

「いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。

このうちで最も大いなるものは、愛である。」(コリント信徒への手紙ー13章)

愛なんですよ〜。

愛があればルーチンワークも苦にならないのです。

ヴァージニア・ウルフの『灯台へ』は、「映画にするとしたら小津」会社は「松竹大船調がよからう」で、俄然読みたくなりました。『ダロウェイ夫人』の”ダロウェイ”が頭の中で鳴っていますが、今は読めません。

今までのものとは毛色が変わっているはずで、落ち着いて取り組みたいのです。

> (クリフトフ・ルメール騎手が) 釧路の涼しさを知ったら、彼の考えは必ず変るにちがいありません。

ルメール騎手は家族を大切にする人ですから、すでに釧路の湿原で、家族と一緒にカヌー遊びを楽しんでいるはずですよ。

とにかく、テレビを観て驚いたのは、ルメール騎手が G1レースで勝つと、家族がいつのまにか画面に現れ、お嬢ちゃんが勝利騎手のパパに抱きついて頬にキスしたり、息子さんがお父さんの代わりに、テレビ局が用意したガラス板にサインしたりするのです。

彼、左利きでした^^

> 霧に沈む釧路を、ぼくは勝手に日本のロンドンと呼んでいます。

素敵ですね、釧路。

函館は観光地化し過ぎて、感じ悪かったですよ～。は～るばる函館まで行ったんですけどね。

それから、夫によると、『悪霊』の本領発揮はスタヴローギンが登場してからだそうです。

コンラッドと『悪霊』を平行して読むのは、無理かなとも思ったのですが、

工夫すれば大丈夫だと分りました。

余談になりますが、お隣の大国では、旧体制本妻の他に妾を持つことが当たり前だったのですが、その妾を、生活に困ると売り払うんです…。

日本人は、そこまではしなかった。

清朝時代の袁枚(えんばい)という詩人は、婦女子に詩作を教えるような開けた考えの持ち主でしたが、知人の家に逗留していた際、主から女中の中に美しい女が居る、妾にどうかねと薦められ、台所に行って、その女中のうなじの美しさを確かめるべく、彼女の髪を?き上げるのです、袁枚のような知識人が(>\_<)

ガックリ来ました。

この袁枚の伝記を書いたのがアーサー・ウェイリー、薄氷堂さんもお存知のように、

独学で中国・日本の古典を収めた人で、『源氏物語』の英語訳は、

ドナルド・キーンをはじめ、多くの人々に影響を与えました。

このアーサー・ウェイリーがヴァージニアウルフのサロンに出入りしていたとは驚きでした。

『袁枚』は東洋文庫で読みましたが、すっごく面白かった。

ただ、お隣の大国の歴史や思想、芸術などの基礎知識がないと、読みにくいです。

基礎知識がしっかりしていれば、見たことも聞いたこともない人名、土地の名がゾロゾロ出てきても、たじろぐことなくあしらえるからです。

■Re: 知人が動けなくなりました 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年7月2日(火)22時07分38秒  
返信・引用 編集済

> No.933[元記事へ]

> minoru さん

夏の京都の町中を歩くには、ペットボトルが必要のようですね。どうかお気をつけ  
ください。

> 一家の主婦が具合が悪くなったとき、なぜご主人やお子さんはお母さんを助けない  
> のでしょうか。

助けないというより、助ける能力が不足しているのではないのでしょうか？ ふだん  
家のことをしていないものだから、どうしていいのかわからないのでしょう。

今日読んだ『悪霊』の中でヴァルヴァアラがステパンにこういっています。

あなたはとても頭がいいし学問もあるけれど、日常のことはなにもわかっていない。  
面倒を見てくれるナースがいつも必要なのよ。

原文ではどうなのかは知りませんが、英訳では nurse になっており、なるほどそう  
かもしれないと思います(ひょっとしたら男は入院患者?)。自分でいうのもなんで  
すが(笑)、男はバカなんです。甘やかされているんですよ。

バカでもなんでも、男は自分のほうが偉いと思っているから手に負えません。なに  
しろ、

あなたさまの母君はだめなご主人でもないよりはましとお思いですけれど云々

と1765年の英国のある小説(いずれご紹介します)にもあるとおり、東西を問わず、  
ろくでもない亭主にじっと耐えるのは、昔から女性の美德とされてきたのですから、  
甘やかしてもいいところで、現代になって女性の不満が一気に爆発したのも無理からぬ  
ことだと思います。

さはさりながら、どうかお手柔らかにお願いいたします。

> それで、彼女にお薦めを訊くと、ヴァージニアウルフの「ダロウエイ夫人」とのこと。

おやおや、ヴァージニア・ウルフですか。このへんになると、大衆向けの娯楽小説

(ぼくの分野です(笑))とはだんだんかけ離れてきますよね。

『灯台へ』は読みましたが、正直いって、なんと感想を述べたものやら、よくわかりませんでした。しかしこの小説を映画化するとしたら監督はだれかなあ、とバカなことを考えたのは覚えています。

黒澤明ではダメですね。溝口健二でもちょっとちがう。やっぱり小津安二郎かなあ。映画会社のカラーからいっても、東映じゃ話にならないし、東宝もダメ、日活もあかんし、大映もピンとこない。結局松竹大船調がよかろうという結論に達したのですが、もちろん異論は受けつけます(笑)。

彼女の小説では Orlando が本棚に眠っています。

> とにかく、読みたい本だらけなので、焦らず無理をせず、少しずつといったところです。

ぼくの場合は、昔の不勉強を埋め合わせるために「読まねばならぬ本」だらけなので、やりきれません。

> 釧路は札幌や函館に比べると、地味な印象ですね。

霧に沈む釧路を、ぼくは勝手に日本のロンドンと呼んでいます。札幌は東京の二番煎じみたいなのがあって、ちょっと苦手です。函館は連絡船に乗るだけの場所でしたから(古い!)、街はまったく知りません。小樽は観光客の多いのが難点ですけど、散歩にはいい町だと思います。室蘭もなかなか風情がありますよ。

> クリフトフ・ルメールというフランス人の騎手は、

> 夏の間、涼しい函館と札幌の競馬場からテコでも動かないそうそうです。

釧路の涼しさを知ったら、彼の考えは必ず変るにちがいありません。

> 夫はときどき考えられないミスをしでかします。

ああ、どうか大目に見てあげてください。

> (Mさんのお孫さん、やはり一昨日も出かけて、帰ってきたのは昨日の夕方だったそうです。

まだ『悪霊』は 65 ページ目なので、彼女がいったいなにに取り憑かれたのか、見当もつきません。「なあんだ、まだ 65 ページなの」などとおっしゃってはいけません。経験上どんな大長編でも一割まで進めば、必ず読了できるのですから。

■知人が動けなくなりました 投稿者:minoru 投稿日:2019年7月2日(火)11時48分43秒 返信・引用 編集済

京都は酷い蒸し暑さで、とうとう知人の一人が、一時動けなくなったそうです。

夕食の買い出しに出かけて、帰宅して、あんまりシンドイので冷茶を飲んで横になったら動けなくなり、それでも夕食の支度をしなくてはならないので、8時過ぎにやっとのことで起きて、なんとか料理をしたそうです。

こういうメールが来る度に思うのですが、一家の主婦が具合が悪くなったとき、なぜご主人やお子さんはお母さんを助けないのでしょうか。

私も昨日は、とにかく体が重く、ちょっと動くと疲れてしまい、横になっても気分が悪いのでどうにもなりません。

脳にカビが生えた感じです。

薄氷堂さんのヤマブキショウマの葉っぱの緑や白い花、チンゲンサイの可愛い花を見ると、頭がスッキリしますが、それもいつだけ。もう、どうにもなりません。

東京のMさんから電話があり、こんなものを読んでいただけ、こんな状態で、今日は読めないでいるとこぼしますと、

あなたの読書は男性(作家)中心ねと言われました。

そんなことはなくて、リンドバーグ夫人の『海からの贈り物』は、私の宝物ですが、言われてみれば女性作家のものは、少ないなと思いました。

それで、彼女にお薦めを訊くと、ヴァージニアウルフの「ダロウエイ夫人」とのこと。

これは、ひどく難解な内容で、訳者を選ばないと理解するのが難しいと聞いたことがあるので、誰の訳が良いのか訊きますと、丹治愛さんの翻訳は良かったわよと。

ヴァージニアウルフの生活や作品をモチーフにした「めぐりあう時間たち」という映画は観ました。

私は心が揺さぶられる思いでした。

ジュリアン・ムーアという女優さんを知ったのもこの映画でした。。

とにかく、読みたい本だらけなので、焦らず無理をせず、少しずついったところですよ。

数年前知床に行きました。

ひれ伏したいような雄大な自然でした。

友人のOさんから阿寒湖の畔に住むアイヌのお婆さんにぜひ会ってくれと言われ、

阿寒湖から釧路の湿原を回って帰りがかったのですが、

夫が往きも帰りも女満別空港からの航空券を購ってしまったので、

阿寒湖も釧路も車でないと女満別には戻れませんので諦めました。

湿原はNHKの特集を観てからぜひとも行きたいと希っていたのですが...

釧路は札幌や函館に比べると、地味な印象ですね。

函館は、サブちゃんが、は～るばる来たぜ函館へ～～♪と朗々と歌い上げるのでイヤでも印象に残りますし、

ガンガン寺もあります。

札幌は時計台とか北大、競馬場もあります。

クリフトフ・ルメールというフランス人の騎手は、

夏の間、涼しい函館と札幌の競馬場からテコでも動かないそうそうです。

夫はときどき考えられないミスをしでかします。

アップルのノートパソコンのバッテリーに不具合があり、

修理してもらおうべく四条のアップルストアに行こうとしたときも、

夫が正月の一日からやっているというので、元旦も営業とはさすがアップルと

出かけてみたら、やはりやってませんでした。

こんなことはしょっちゅうですので、北海道行きするときも、

私が調べるべきでしたが、彼が旅行の計画を立てるのが好きなので、

まかせました。

私にも責任がありますので、仕方ありません。

(Mさんのお孫さん、やはり一昨日も出かけて、帰ってきたのは昨日の夕方だったそうです。

『悪霊』を読む娘さんです。どこに行ってるのだろう...と相変わらず心配しているので、誰かに頼んで確認してもらえば?と言うと、

そんなコソコソしたことはできないと言うのです。お孫さんのことを知るのにコソコソも何もないと思うのですが、戦争中も情報収集戦で日本軍は完敗だったことを憶い出しました。)

いつも長くなって、申し訳ありません。

お許し下さい。

■Re: なんとか生きています。 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年6月29日(土)23時42分27秒  
返信・引用

> No.931[元記事へ]

> minoru さん

現在温度計は23.5度を示していますが、実際は肌寒いくらいです。

> そのため、夕食が一時間ほど遅れました。

なあに、夕食が一時間や二時間遅れたって死にはしませんから大丈夫。

ところでコンラッドですが、あわてて本棚を探してみたら、『青春』と『颯風』は  
ほくも読んでいました。ところどころ書き込みしてあるから、読んだことはまちが  
いがないのですが、ストーリーはよく覚えていません。

『青春』のほうは、たしか積荷の石炭が火災を起こしたはず……とぼんやり記憶し  
ていたのですが、たった今ページをめくってみたら、「積荷は燃えていた」とか「自然発  
火」などとあるので、まちがいないですね。

しかし『颯風』のほうは、どんな話だったか記憶が完全に消失(焼失?)していま  
す。出だしをざっと読んででも思い出せない……これはまずいですね(非常にまずいで  
す(笑))。

> このコンラッドの『颯風』にその国の下層の労働者・苦力が登場します。

ああ、そうでしたか。道理で一行目に汽船ナン・シャンという中国風の船名が登場  
するわけですね。

> これからもコンラッドを読んで行きたいのですが、何かお薦めはありますか？

残念ながら、ぼくにはとてもお答えするだけの実力はありません。本棚に長編『ロー  
ド・ジム』はあるんですけど、第一章だけ読んで放り出した形跡があります。といつても  
つまらないからではなく、たぶん二十年以上も前のことですから、まともに取り組む時間  
がなかったせいだと思います。

最初だけ読んでうっちゃった本は他にいくらでもあって、現在それらを一つ一つこなし  
ているところです(生きているうちに片づくでしょうか??)。

今日本文を読み終えたスティーブソンズの『引き潮』もその一冊で、読んでみるとおも  
しろいのなんの、どうしてこれまで放っておいたのかと思いましたよ。コンラッドも読ま  
なくちゃいけません、いつ順番が回ってくるか、まだなんともいえません。

え〜と、『悪霊』のほうは「いつもやってくるヴィルジンスキーという若者がいた」と、  
これはまだ 25 ページですからお話になりませんが、時間はかかってもたぶん通読はでき  
ると思います。

> 日本海軍は若手の士官たちの熱心な要請にもかかわらずそれを拒否、空母を主体とした  
> ミッドウエー海戦で、惨敗しました。

英語を敵性語として排除した時点で敗北していたと思います。ドナルド・キーンさんが

日本語を本格的に勉強されたのは、たしか戦争がきっかけです。またサイデステッカーさんもそうだったと記憶しています。つまり日本軍は軍隊でありながら、孫子の兵法を勉強していなかったということになりますね。

■なんとか生きています。 投稿者:minoru 投稿日:2019年6月29日(土)12時59分50秒 返信・引用 編集済

午前3時頃、激しい雨音で目が覚めました。

バケツをひっくり返したようなすさまじい雨で、それが、目が覚めてから一時間以上もつづき、突然ピタリと止みました。

窓の外が明るくなった頃には、空気がムンムンし始めて、朝からエアコンの除湿をかけています。相変わらずの曇天で、湿度が高い上に気温も高いときているので、苦しいです。

釧路も曇り空が続き湿度も高いようですね。でも、気温が低いのは羨ましいです。

昼間はいつ雨が降ってくるか分かりませんし、湿度も高いので、洗濯物は室内に干しています。

冬の間も家に籠もり気味でしたが、今の時期も似たようなもので、家事が終わると、本を読んでいます。

『悪霊』(まだ半ばですが)、『宝島』と移り、一昨日の夜からジョゼフ・コンラッドの「青春」「颯風」に取りかかり、

昨夕、読み終わりました。

そのため、夕食が一時間ほど遅れました。

この2作は若いときに読んでいます。

ところが、ストーリーといい描写といい、こんなにも凄い小説の内容を殆ど記憶していなくて、どうしたことなのだろうと、自分でも不思議でした。

ここ十年以上もお隣の大国の歴史を学び、関係資料をひたすら読んで居りました。

年を取ってからこの分野の勉強を始めましたので、それ以外のものは読まなかったからでしょうか。

このコンラッドの『颯風』にその国の下層の労働者・苦力が登場します。

苦力は、人権思想など全く無かったかの国の象徴です。

東洋史学の大学者が、「この国の歴史を学んでいると、心が折れそうになる」といった意味のことを、

もっと難しい漢語で表現されていましたが、皇帝も官僚も役人も貧しい庶民など虫けら同様に扱い、

運河や長城の建設、兵役、その他の労働に狩り出し、生きようが死のうが頓着せず、

無学で迷信深い彼等は外国人に嫌悪されるような不衛生な生活を送り、困窮のうちに一生を終えます。

秀才君たちの大学の尊敬する M 先生に、「この国の人たちには人権など無かったんですね」と申しましたところ、先生は、

「今だってありませんよ」とキッパリ。

記述は脇道に逸れましたが、最近読んだ『悪霊』『宝島』『青春・颱風』の中では、『青春・颱風』が、私という人間に合っています。

これからもコンラッドを読んで行きたいのですが、何かお薦めはありますか？

どうか、お教え下さい m( )m

smoking room に楠の写真が出ておりましたが、

東京の公園で、楠の大木を何本も視ました。

楠は、清々しく本当にいい樹です。

楠というと樟脳や古文書を修理するときに使用する楠の樹液入りの糊が思い出されます。

糊の中に楠の樹液を精製したものを入れると、カビが生えないそうです。

それから、銀杏の葉は記憶力を復活、維持する成分を含んでいますが、

数十年前、友人にしつこく誘われて分子栄養学を学んだ折、銀杏の葉の話題が出ました。

そのとき先生がこうおっしゃったのです。

「日本の銀杏は世界で一番質が良く、しかも、イチヨウ葉エキスが腸から吸収されるよう分子を細かくしたのは

日本人のドクターなのに、なんでアメリカ人ばかりイチヨウ葉エキスを服用して、日本人はしないんだ」と不満そうでした。

つまり、ミッドウエーのケースと似ているのです。

アメリカの海軍は八木博士のアンテナをいち早く取り入れて軍艦や空母に設置したのに、

日本海軍は若手の士官たちの熱心な要請にもかかわらずそれを拒否、空母を主体としたミッドウエー海戦で、

惨敗しました。

先生は、大学で物理学を専攻されましたが、工場の排煙で健康を損ね、

この場合、西洋医学の対処療法ではどうにもならず、体自体を強くしようとその方法を探っておられたときに、

ノーベル賞を受賞したライナス・ポーリング博士のビタミン C の論文を読み、分子栄養学を学び、自宅で学習会を開いておられました。

私の友人が先生に心酔していて、学習会や講演会に誘われました。

私は、あまり勉強しませんでした、その知識は役に立っています。

もしかして、この世に無駄なことなど何もないのかも知れません。

■Re: 銀杏の花 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年6月26日(水)23時51分30秒 返信・引用  
> No.929[元記事へ]

> minoru さん

> 植物は花がなければ実がならないのに、なぜ....と、戸惑いました。

銀杏の花は咲いても地味で目立たないのだろうと思います。

> 銀杏葉エキスも、記憶力の衰えを防ぐ作用があるということは知っていたのですが、

それは知りませんでした。しかしぼくの場合、衰える以前の記憶力もたいしたことなかったですから……

> 最後に「～させて頂く」という表現ですが、今でも不審です。

実はぼくも奇妙な表現だなと思いながら、つい使ってしまう。たしかにいかにも日本的な「私ごときが～するのは僭越ですけれど……」という感じがつきまといますね。今後はちょっと工夫して、使うのを避けたいと思います。

ぼくがもっともヘンだと思うのは、「～になります」という言い方です。たとえばお店の方が天井を運んできて「はい、天井になります」とか、工場を案内する人が「これがその機械になります」というのがそれ。

もう「なっている」のだから、「はい、(ご注文の)天井です」とか、「これがその機械です」で十分ですよ。だから聞くたびに体がムズムズするんです。

どんぶり飯を持ってきて、「はい、天井になります」といいながら、飯の上に天ぷらをのせるとか、部品を組立てながら「これがその機械になります」というんならわかるんですけど(笑)。

■銀杏の花 投稿者:minoru 投稿日:2019年6月26日(水)14時02分19秒 返信・引用  
編集済

誠実で丁寧なお返事に感謝です m( )m

実は Smoking Room の「銀杏の花」を読ませて頂いてショックでした。

銀杏の実を拾い、苦労して処理して食べたり、あるいは買ったりしているのに、花のことは一度も考えに上ったことがないのです。

植物は花がなければ実がならないのに、なぜ....と、戸惑いました。

銀杏葉エキスも、記憶力の衰えを防ぐ作用があるということは知っていたのですが、花のことは想いも付きませんでした。不思議でなりません。

随分うっかりしたことで、私だけの現象かも知れませんが、人間の考えってこんな風に欠落することがあるのだなと、少々感慨深かったです。

最後に「～させて頂く」という表現ですが、今でも不審です。俳優や作家までが、出させて頂くとか、書かせて頂くを連発しますが、彼等は芸術家で、その能力でチャンスを掴んだのに、なぜ「～させて頂く」と言わねばならないのでしょうか。私が若い頃は、こんな言葉遣いはしなかったはずです。

■Re: おはようございます^^ 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年6月25日(火)23時53分4秒 返信・引用

> No.927[元記事へ]

minoruさん

> 行ってきました神戸！

いい気分転換になったようでなによりです。

> すでに『悪霊』を投げ出したようで、

ひょっとしたら翻訳と相性がよくなかったのかも知れませんね(大いにありうることだと思います)。

> 確か、ステューブンソンの文章がどうのこうのと仰っていたような...

ステューブンソンは大変文章に苦心した人である、ということをしたしか夏目漱石が書いていました。

『宝島』は子ども向けの本だから楽に読めると思ったら、そうは問屋が卸しません(笑)。帆船独特の用語やら、海賊の使う俗語やら、辞書を引くのがおつくうな人は、たぶん途中で放り出してしまうと思います。

いまぼくが読んでいるのは「南洋もの」ともいべき小説なんですが、なかなかの難物でして、首をひねるところがいくつもあります。いくら考えても、ぼんやり見当はつくけれどよくわからない箇所は、毎日ひとつかふたつ出くわします。近くにイギリス人がいれば、酒を一杯ふるまって教えてもらいたいところなんですけど、イギリス人ならだれでもいいというわけではないでしょうね(そこいらへんにいる若い日本人をつかまえて、明治の小説について質問してもよくわからないのと同じです)。

でもそこは小説のありがたさで、多少疑問が残っても、ストーリーがおもしろければ先へ進めます。それにプロの方の翻訳にだって、たいてい誤訳はいくつかあるものです(読んでいて、どうもヘンだな、と思ったら、まず誤訳と考えてまちがいありません)。場合によっては意味が正反対になっていることさえあるのですが、まさか間違いだらけということはないから、全体としては筋が通り、なんとなく読んでしまいますよね。ですから、ぼくごときにわからない箇所があるのはあたりまえだ、と開きなおることにしています(笑)。

> 京都はぼったくり過ぎですよ。

バス賃はリーズナブルだと思いますよ。ただ観光客向けのお店は避けたほうがいいのかも知れませんね。

> 一隻、600 億円以上もする潜水艦の建造なんてバカバカしい。

それとアメリカの欠陥戦闘機の大量購入や、イージスなんか。なんの役にも立ちませんよ。戦争したがるのも愚かですが、戦争して勝てると思っているところが恐ろしいです。とつに状況は変化しているというのに、日本海海戦の夢を捨てられないのでしょうか。頭が平和ボケしているのはどっちのほうなんでしょうかね。

> 西明石の新幹線側の売店で買った蛸飯は美味しかった！

そうそう、いくさより蛸飯にかぎります。

> 今年の夏、生き残れるんかいなと嘆き合ったことでした。

しんどいこととは思いますが、どうかご辛抱ください。いずれ必ず寒冷期が到来するはずですから。

なおこちらのただいまの室温は約 20 度、外はもっと低いはずですよ。余裕で生き残れると信じております。

■おはようございます^^ 投稿者:minoru 投稿日:2019 年 6 月 25 日(火)09 時 01 分 41 秒 返

信・引用 編集済

行ってきました神戸！

突堤のホテル、眼下は海！

テラスの冊に寄りかかり、白いプレジャーボートが船体を緩く回転させ、海水を泡立てながら出航して行くの様子を飽かず視てました。

で、大小の舟が行き交う賑やかな港には似合わない『悪霊』は放棄、ステューブンスンの『宝島』を Kindle でダウンロード。

楽しく読めました。

(ただ今継続中)

朝から畳の上に寝転んで『悪霊』を読むという世間では滅多にお目にかかれない方ですが、すでに『悪霊』を投げ出したようで、

それではプライドが許さないのか分厚い文庫本を持参してはいましたが、ホテルの部屋の中でも電車の中でも、やはり一度も開かなかった^^

十年前、個人教授で英会話を習ったときの先生、デニスさんという方でしたが、彼はステューブンスンの『宝島』の賛美者 (admirateur) でした。

「あなたは宝島を読んだことはあるか？」と訊かれ、2回読みました。子どもの頃に児童書で、それから文学書としてと答えると手を打って喜び、『宝島』の素晴らしさを英語でまくしたてましたが、内容は殆ど忘れてしまいました。

確か、ステューブンスンの文章がどうのこうのと仰っていたような...

私の場合、3回とも翻訳で読んでいますので、原文の魅力は分かりません。それでも文句なく面白いです。

Kindle の『宝島』の訳者は、佐々木直次郎氏です。

昨日は神戸港内を遊覧船で巡行。料金は千円でした。

神戸は京都と比べ、何でも安いです。

京都はぼったくり過ぎですよ。

あ、神戸港内の三菱重工のドックでは潜水艦が建造中で、黒い船体に作業員が群がっていました。

ガイドが船内放送で説明すると中国人の観光客が一斉に立ち上がり、潜水艦をスマホで撮影。

夫と顔を見合わせ、思わず苦笑。

一隻、600 億円以上もする潜水艦の建造なんてバカバカしい。

勤勉で羊のように従順な国民の幸せのために、税金は使われるべきではないでしょうか。

(従順な国民って利用されるだけなのですね。

幸せは戦わないと勝ち取れないのに。)

港内巡行の後は須磨へ。

須磨の海がまた感動もので、緑、紫、深いブルーと変化する海の色が美しく、

平安時代の貴族たちが須磨の海を愛でたのは、この水の色のお美しさではなかったでしょうか。

景色はそれほどでもなかった。

現代の須磨海岸は、風光明媚とは言えなかったです。

西明石の新幹線側の売店で買った蛸飯は美味しかった！

神戸、須磨、明石の蛸飯のプチ旅行、結構楽しかったですよ^^

釧路は今日も曇り空ですね…。

気温は最高でも 15 度。

こちらは、32 度超えの暑さ。

ご近所の F さんが、先日、もうアカンとこぼしてました。

京都の重たい蒸し暑さに、すでに疲労困憊。

この先、37 度は当たり前になってしまっているのに、F さん共々、

今年の夏、生き残れるんかいなと嘆き合ったことでした。

では。

■Re: 『悪霊』読み始めました 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019 年 6 月 22 日(土)23 時 04 分 32 秒  
返信・引用

> No.925[元記事へ]

> minoru さん

こちらは曇り空で、さっぱり気温が上がリません。

> 2 階の部屋を覗いてみたら、夫が朝から寝転んで『悪霊』を読んでいた。

朝から寝転んで『悪霊』を読むようなお方をみかけることは、まずめったにありません。

ロシア語の小説をすらすら読める近所のお医者様が亡くなってからは、わが町内にはたぶん一人もいないはず。どうかご主人を大事になさってください(笑)。

> Kindle なら文字の大きさを換えられますし、バックライトも調整できます。

ぼくは実は英訳版をダウンロードしたのですが、翻訳の出来はどうか、ちょっと疑問なきにしもあらずです。といいますのは、彼らは日本人ほど翻訳にやかましくないような気がするんです。

『アンナ・カレーニナ』のときもそうでしたが、どうも訳文が平板で、意味が伝わればいいたろう、という感じがします。そのかわり、高校英語の知識で読めるからありがたいですね。タダで読めるんなら横文字でも我慢するという方にはおすすめです。一流大学の秀才諸君なら、たぶんぼくの数倍のスピードで読めるはずだから、読んでくれよ、君たち。

いまメインで読んでいるスティーブソンSteinbeckの小説のうまい文章(うますぎてわからないところが多い(笑))にくらべるとちがいは一目瞭然です。おまえみたいな鈍才にわかるものか、とおっしゃる方には、料理の写真をお見せすれば納得していただけると思います。同じ材料を使っても、皿にいかげんに盛りつけた料理と、美しく盛りつけた料理のちがいは、だれにでもわかるものです。

> 『悪霊』ですが、第6の終わりまでは、ひたすら騒がしく、語句も仰々しく、こんなだったけ...とガッカリしましたが、7からは面白くなってきて、人名のメモを取りながら読み進めています。

現在スティーブソンに主力を注いでいますので、ぼくはまだ第一章をウロウロしています。ロシアの小説は名前がややこしいから、いまのところ、ステパン・トロフィモヴィチとヴァルヴァラ・ペトロヴナについては、ぼくもメモしています。これから続々といろんな人が登場するんでしょうね……

さてさて、いったい何ヶ月かかることやら(笑)。

> 実は、明日と明後日、狭い京都には住み飽いたので、広い海を観に行きます。

そのお気持はよくわかります。盆地は息がつまりそうになりますからね。悪霊に取り憑かれないためにも、海を見るのはいいことだと思います。

> 確かに、京都は変わり過ぎです。

半世紀前(!)の岩倉の記憶は、田んぼ、カエル、ヤモリ、ムカデです。

> 京都の夏は盆地に充満する湿気に重量感があり、シンドイです。

よ〜く存じております。夏は釧路、春と秋は京都というのがぼくの理想です。冬ですか？ 冬はどうしましょうね。

『悪霊』読み始めました 投稿者:minoru 投稿日:2019年6月22日(土)14時44分42秒 返信・引用

こちらは朝と夕と日中とでは気温差が激しく、湿気が多いこともあり、体調はイマイチです。それでもこの季節は、衛生上こまめに家事をこなさなくてはなりません。

まな板や布巾を消毒、キッチンや冷蔵庫を wet sheet で拭き、洗濯物は貯めずにこまめに洗います。

一昨日、古紙のリサイクルに出すためにパンフ類のホチキスをポチポチと取っておいたら、ふと、私も『悪霊』を読んでみようという気になりました。

洗濯籠を下げて物干し場に行く途中、2階の部屋を覗いてみたら、夫が朝から寝転んで『悪霊』を読ん

でいました。

それで決心がついて Kindle で 800 円で『悪霊』(米川正夫訳)を購入、ポチポチと読み始めています。Kindle なら文字の大きさを変えられますし、バックライトも調整できます。

尊敬する先生が研究所に退かれたことで、今年は大学には行ってはおりませんので時間があるはずですが、後回しにはできない細かな雑用に邪魔をされ、なかなか継続して読むことができません。大学に行っていた頃の方が、本も資料も読めました。

『悪霊』ですが、第6の終わりまでは、ひたすら騒がしく、語句も仰々しく、こんなだったっけ...とガッカリしましたが、7からは面白くなってきて、人名のメモを取りながら読み進めています。

実は、明日と明後日、狭い京都には住み飽いたので、広い海を観に行きます。ささやかな一泊旅行ですが、往復の電車の中では相当読めそうです。私の場合、電車では不思議と集中して読書に取り組めるのです。

薄氷堂さんは、一時期岩倉に住まわれていたとのこと。  
実相院は素通りでしたか。それは残念でしたね^^

確かに、京都は変わり過ぎです。  
市政が無策で、近代的なビルが続々と建設されています。  
夫の知人のアメリカ人が 10 年振りに京都に来て、眉を顰めて居ました。

多分、アレックス・カーさんだと推うのですが、「日本人はエゴイストだ。町家の保存を人まかせににして、自分はさっさと取り壊して快適な近代建築の家に建て替えてしまおう。欧米人は、古い家に辛抱しながら住みつづける」と。

北海道は湿気が少なく、快適でしょうね。  
ああ、羨ましい。  
京都の夏は盆地に充満する湿気に重量感があり、シンドイです。  
京から釧路に移住した方の気持ち、分らないでもありません。

では。

なんだか気持ちも身体もパツとしません.....。

■Re: 虚無でしょうか...。 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年 6月 19日(水)23時 56分 19秒 返信・引用 編集済  
> No.922[元記事へ]

> minoru さん

> (夫が、「悪霊」を読みたくなると、本を持って行ってしまいました。

おお、立派な旦那さまではありませんか。

わが家にも父の遺したドストエフスキー全集があるんですけど、恐ろしく古い本でして(たしか米川正夫さんの訳)、紙は黄色く変色し、活字も読みにくく、とても開いてみようという気にはなれません。

しかしこれもなにかの縁でしょうから、インターネットで拾ったテキストをダウンロードしました。以前『アンナ・カレーニナ』もそうして読んだのですが、活字の大きさを自由に変えられますから、案外読みやすいものです。

ページ設定などをちょっと加工して全 636 頁。まだ 9 頁しか読んでいませんが、

> 男の人は本が読めますよ。

そうですとも、読めるんだから読まなくちゃいけません。ポチポチ読んでみます。もう感受性がすり減っているから、たぶん悪霊に取り憑かれることはないでしょう。

> だって、料理や洗濯、掃除といった雑用は人まかせなのですから。

おっしゃるとおりで耳が痛いんですけど、任せられる人がいなければ、さすがに自分でやらざるをえませんよね。当社の大阪通信員君などは、ひとりで全部こなしており、ちゃんと勉強もつづけているんだから、えらいものです。

> あ、やっぱり虚無ではないのかも知れません。

哲学は門外漢なので、ニヒリズムとはなんなのかよくわかりませんが、ドストエフスキーの頃は既成の秩序を否定する急進派という意味あいだったのではないかと思います(ちがったらごめんなさい)。

> 京都・実相院・床みどり

ありがとうございます。実はぼくは数ヶ月間岩倉に住んだことがありまして、実相院の前は何度も通ったんですけど、拝観したこともなければ「床みどり」というのも知りませんでした。

当時は岩倉駅前から一面の田んぼでしたが、2002 年に行ってみたら景色が一変していた

のでびっくり仰天しました。それからもう17年もたっているのに、一体どうなっているのか、機会があれば確認かたがた実相院を拝観することにしましょう。

■追伸 投稿者:minoru 投稿日:2019年6月19日(水)20時16分31秒 返信・引用  
もし、青もみじ観賞をご存知なければ、

「京都・実相院・床みどり」をネットで検索してみてください。  
とても美しいです。

薄氷堂さんへのせめてものお礼です。

■虚無でしょうか…。 投稿者:minoru 投稿日:2019年6月19日(水)18時45分7秒 返信・引用 編集済

丁寧で誠実なお返事をいただきまして、胸が一杯になりました。  
改めて、厚くお礼申し上げます。

薄氷堂さんのメールを何回も何回も読んでいたうちに、ふと頭に浮かんだのが「虚無」という言葉でした。  
もし、彼女の心が「虚無」に陥っているとしたら、これは、とんでもなく厄介だと感じました。

私の場合『悪霊』は、大昔に読んでいます。でも良く分らなかったのでしょうか、二三の登場人物の名前しか記憶に残ってはいません。それで、夫に「悪霊」を持っている？と訊いてみたら、あるよと本箱から分厚い文庫本(岩波)を2冊出してくれました。

夫はこんな長ったらしいものを読んでもらうと感心しましたが、改めて視てみると、文字が小さい！  
今の文庫本は文字が大きくなっていますから、多分3冊になっているだろうと想いました。

こんな小さい字で、しかも長編なんて急には読めませんので、下巻末の解説に、訳者が主人公の「解剖」を試みているので読んでみました。

大変な本です、これは。

こんなものを高2の女の子が完読したのかと、ちょっと普通ではないものを感じました。

私の直感は多分当たっているはずですが。彼女は虚無的感覚に陥っているのだと想います。

なぜかと申しますと、そんなにドストエフスキーが好きなら、ロシア語を学びたいと通常なら願うはずですが。それもしない。

私は虚無に陥ったことはありませんし、哲学を学んだ訳でもないのに、虚無に関しては、この年齢まで読んできた本や映画などの知識から得た感覚でしかありません。

でも、多分、これに取り憑かれた人間は、身内でも他人でもどうにもならないはずですが。

ありきたりの表現ですが、薄氷堂さんのような立場の方がこれほど心配してくれているのですから、彼女は幸運です。

今の世の中、赤の他人が赤の他人を心配するというような損得抜き純な人間愛が欠けているのではないのでしょうか。

教師がイジメに苦しんでいる教え子を見捨てるような世の中ですから。

もう、お手上げです。彼女は、見守る他に方法がないと想います。

ただ死なないで欲しいです。

(夫が、「悪霊」を読みたくなると、本を持って行ってしまいました。

男の人は本が読めますよ。

だって、料理や洗濯、掃除といった雑用は人まかせなのですから。

頑張ってくださいと言っておきました。

そして、想いました。

私は、あの本を完読しているはずがないと。

途中放棄していますね。)

あ、やっぱり虚無ではないのかも知れません。

『悪霊』の「魔力」に取り憑かれたのでしょうか。

この作品の中に、彼女の思いに呼応する何かを感じ取ったのか....

やっぱりお手上げです。

■Re: 本を読む女性 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年6月18日(火)23時54分29秒 返  
信・引用

> No.920[元記事へ]

> minoru さん

う〜む、これはとてもぼくなんかの手に負える問題ではありませんね。専門のカウンセラーの助けを借りたほうがいいのかもしれない。

受験秀才とはまったく別の意味で頭脳明晰なうえに、豊かな想像力をそなえたお嬢さんのようですね。ぼくは不勉強というか手が回らないというか(たぶん前者)、『悪霊』は読んでいませんので、いかなる魅力(魔力?)を秘めているのかわかりませんが、よほど深刻な衝撃を受けたのでしょうか。

高校に進学してから急に友人がなくなった理由はよくわからないけれど、周囲の生徒たちと自分とは関心のありようがちがいきすぎて、みんなに合わせて話をしようという気になれなかったというのはありそうなことです。だとすれば、たぶん中学校の頃からそういう傾向はあったはずですが、その頃はまだ周囲に合せようと努めていたから目立たなかっただけなのかもしれません。

高校二年生になって出会った『悪霊』になにを見出したのかは推測するすべもありません。もしそれをご本人にたずねてもなにも語ってくれないとすれば、どうせわかってもらえないと思っているか、ご自分でもまだ他人に理解してもらえそうな言葉で表現することができないのか、そのどちらでもないのか、これまたぼくには推測のしようがありません。情けないけれど、自分でも自分の正体はよくわからないのだから、人間は謎だというしかありません。

> 母親が、これからどうするのかと問いただすと、自室に逃げ込んでしまう

なにしろ頭のいい人ですから、現実的に選択すべき道がいくつかあること、それらをお母様が提示するであろうこと、またどう答えればその場では一応満足してもらえそうかは先刻承知しているけれど、どう答えても自分の気持ちに添わないウソになってしまうので口を開かない、または案外自分でも説明のつかないあまのじゃくな心理が働いてしまうのかもしれない。しかしこれまた心の闇の中のことだから、うかつなことはいえませんが。

おっしゃるとおり、大学でロシア語を専攻するというのはひとつの選択肢だと思います。ドストエフスキー以外のロシア文学にも広く触れることができるし、語学に打ちこめば気も紛れるし、第一、高校よりははるかに話し相手をみつけやすいでしょうから。

minoru さんの示唆に従って教会へ行くからには、まったく自分を閉ざしているわけではなさそうに思えます。話を聞いてはくれるのに答えてくれないのですから、少なくともいま彼女に必要なのは自分から話しかける相手であることは確かだろうと思います。お母様にしてみれば、私になんでも話してくれればいいのに、とお思いになるかもしれませんが、世の中には肉親に話していくことはいくらでもありますから、ここは他人の出番ではないでしょうか。

それが先生またはカウンセラーなのか、友人なのか、恋人なのかはわかりません。どういう人がいいのか、またどうしたら巡り会えるのかもわかりませんが、自問自答するばかりで、面と向って会話をする相手がいなければ、足踏みするだけで、一歩も先へは進めないでしょう。ドストエフスキーの小説だって、会話の場面なしには成立しないはずですから。

日曜日には外出するということでしたら、彼女なりになにか模索しているのでしょう。ひょっとしたら話し相手がいるのかもしれないし、そうだといいですね。

わからない、わからないでまことに申し訳ありませんが、実際よくわかりません。人生不可解なり、です。

■本を読む女性 投稿者:minoru 投稿日:2019年6月18日(火)08時31分34秒 返信・引用  
編集済

おはようございます^^

昨日、東京の知人と京都の青紅葉を觀賞してきました。  
彼女は、お孫さんのことで大変な心配事を抱えていました。

お孫さんが大学進学を拒否、日がな本を読んで過ごし、家事も手伝わず、必要以外の言葉も発せず、日曜になると朝からどこかへ出かけて行き、泊まりがけになることもある。何をやっているのか心配でたまらないと。

母親が、これからどうするのかと問いただすと、自室に逃げ込んでしまうそうです。

私は、そのお孫さんに何度か会っています。彼女、とっても綺麗な、いい目をしてるんです。

彼女、高校2年のとき、ドストエフスキーの「悪霊」を読んで衝撃を受けたようで、それからドストエフスキーの作品にのめり込んで行きました。

彼女が一人で京都に来たときにランチをしたのですが、ドストエフスキーの神髓を知りたいなら、ロシア正教会のリトルギア(ミサ)に一度は参拝しなきゃねと言うと、スマホで正教会を検索してさっさと行ってしまふ。こんなにロシア文学が好きならロシア語でも勉強するのかと思えば、それもしない。自分の孫なのに何を考えているのか、さっぱり分らないと、知人は暗い顔でした。

お孫さんの父親は幼いころに病死し、お母さんは娘を祖父母に託して働いていたので、お孫さんの読書傾向はお祖父さんの影響を受けているようです。

そのお祖父さんももう亡くなっています。

それでも今どきの高校生が「悪霊」に感動するとは、驚きです。

お孫さんは、中学までは人並みに友達が居たそうですが、都内の進学高に入学してからは友達が居なくなり、求めもしないそうです。

思春期の子たちはただでさえ難しいのに、何も言ってくれないからどうしようもないと、知人はこぼしていました。

彼女は現在二十歳で無職です。

日曜になると外出するというので引き籠もりではなさそうです。

私は、今風の高等遊民を想ったのですが…。

様々な生き方があってよいとは思いますが、きょうび、せつがちでせちがらい世の中ですから、  
どうなのでしょうか…。

■Re: 都会 et 田舎 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年6月16日(日)22時35分6秒 返信・引用

> No.918[元記事へ]

> minoru さん

ぼくも小松菜を作っていますが、畑というのは無理なぐらいの面積でして、超零細農民なんです。土地が広ければジャガイモをどっさり収穫したいところなんですけど……

> 「でもね、教育と医療がね…」と地方に住む親戚がこぼします。

釧路は小なりとはいえども、道東では都会ですから、医療は完備しています。教育の方面ではたしかに札幌には負けるけれど、けっして住民の頭脳レベルが低いわけじゃありません。人間の能力にそうそう差なんてあるわけがないです。結局ノンキな土地柄なんですね。だからあくせくガリ勉する生徒は少ないんです。

> 都会では、年をとってもその分野のエキスパートに就いて学ぶことができます。

先生がいればたちまち氷解する疑問も、ひとりだと解決するのに一年がかりだったりしますから、その点はうらやましいかぎりです。それに大学の無料公開講座なんてのもあるでしょうから、機会には恵まれていますよね。

> 薄氷堂さんの釧路での生活が羨ましいですが、冬の寒さは、厳しいでしょうね。

子どもの頃はマイナス27.5度なんて日もありましたが、最近ではめったにマイナス20度にはなりませんから、たいしたことはありません。それに真冬の家の中は、たぶん京都よりもずっと暖かく快適だと思います。

新聞によれば、定年後に京都から釧路に移住して来られた方もいらっしやるとか。まことに賢明なるご選択かと存じます(笑)。

■都会 et 田舎 投稿者:minoru 投稿日:2019年6月16日(日)11時33分6秒 返信・引用  
編集済

そうなんです。田舎は緑豊かで水も空気も綺麗、小松菜などの野菜も自分で作れます^^  
「でもね、教育と医療がね…」と地方に住む親戚がこぼします。

都会では、年をとってもその分野のエキスパートに就いて学ぶことができます。彼等は適切な”資料”を提示してくれます。

山のような資料の中からまっとうなものを選び読み込んで行く、その作業は年寄りには厳しいです。

しかし、都会の暮らしは、根源的な不安を抱えています。

人も動物も食べなければ死んでしまう。その命の源を、都会では、それこそ米一粒から購わなければなりません。

キュウリ一本、トマト一個、卵一つからお金と交換する生活は、お金が無くなったら…と想うと怖いです。

私は、子供の頃は田舎で暮らしました。敷地内には庭があり、そこでトマトやキュウリ、茄子などを育て、鶏も飼っていました。

日に三度の食事に自前の食べ物が出ると、なぜか嬉しかったのを覚えています。

田舎暮らしは、楽しかった。

春は摘み草、夏は清流で水浴び、秋は家族や親戚とキノコ狩り。冬將軍の到来を前に、母とせつせと保存食作り。

渋柿をむいて荒縄に銚み、茹で栗を尻糸に通し軒先にぶら下げます。沢庵も樽に仕込み、父は内緒でお酒を作っていました。

濁酒です^^

現在は戸建ての家に住んでいますが、庭は坪庭だけ。ハーブや獅子唐、ミニトマトなどは鉢で作っています。

地植えの野菜を作りたいです。フェンネルは、地植えにすると 150 センチ以上も丈が伸びて、繊細な葉が風に揺れる光景は、美しいです。

薄氷堂さんの釧路での生活が羨ましいですが、冬の寒さは、厳しいでしょうね。

北海道住む女性が、冬は寒さに閉じ込められる感じで気がおかしくなるとラジオでこぼしてました。

お陰様で、文章の直したいところは直して削除できました。

ありがとうございました m( )m

■Re: こちらは雨です? 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年6月15日(土)10時27分46秒 返信・引用

> No.914[元記事へ]

> minoru さん

結局「直接受験に関係ない本は読まない」というのが最大原因かと思います。無駄・非効率的だと考えているのでしょう。たしかにろくに受験勉強もせずに好きな本ばかり読んでいると、よほど生れつき頭脳が優秀でないかぎり(たまにいるんですよ、そういう超優秀な人が)、とても一流大学には入れな

いから、一理はあると思います。経験者が語るんだから(笑)、まちがいありません。

しかし純粋理系は別としても、その無駄の蓄積(笑)がなければ、少なくとも人文系は伸びないでしょうね。たとえば、いくら頭がよくて外国語の文法が得意だったとしても、まず満足に小説を読むことはできないはずです。SVO だけじゃダメなんです。なにしろ想像力と無駄な知識を総動員しなくちゃ理解できないのですから。

> 「ここに入るのはホント大変だった。だから自分には、一般教養も一般常識もない、これから身に付けなきゃ」

そのように反省できる素直な人は丸山議員みたいにはならないと思いますよ。感心だから、「喫茶店」を知らなくてもゆるしてあげましょう。

> 受講生の知的好奇心は受験勉強に阻まれ、彼等は豊かな一般教養に飢えているのです。

だからこそ大学の教養課程が大切なんだと思います。実学、実学といって、大学を専門学校化しようとする動きがありますが、それじゃ最初から大学なんて不要ですよ。

> 今や裕福な家庭の子供たちは私立の中高を目指し、公立は避けるというのです。

そうらしいですね。富裕層は別として、平均以上のサラリーをもらっている家庭でも経済的負担はたいへんだと聞きます(相当無理をしているらしいです)。私立だとかなり早い内に高校程度の勉強をすませたてし、第二外国語まで勉強するところもあるらしいですから、かりにもともと頭脳にはたいして差がなくとも(ふつうはそうです)、高校卒業時には得点力にかなりの差が生じていると思います。

それは一概に悪いこととはいえませんが、生れつきの能力以外のところで格差が生じるのは、どうも割り切れないところです。また人の能力はさまざまなのに、受験という一点で能力を判定されがちなのも困ったことだと思います。その結果として、ときどき学歴を鼻にかけるモンスターが現れるんですけど、ぼくは軍服にピカピカの勲章をたくさんつけていざりちらす軍人を連想してしまいます。早い話が、バカですよ(笑)。

> 私は、秀才君たちの大学に科目履修生として4年間学びましたが

それは頭が下がります。人生経験を積んでから大学で勉強し直すというのは、とても意味のあることだと思います。その点大都市、特に京都という土地は機会に恵まれていますよね。

■こちらは雨です 投稿者:minoru 投稿日:2019年6月15日(土)06時57分46秒 返信・引用  
編集済

おはようございます。

5年前のことです。秀才君達の学校で事件が勃発、授業ができなくなったことがあり、彼等4.5人とじっくりと会話したことがありました。そのとき、一人の学生が顔を歪めてこう言ったのです。

「ここに入るのはホント大変だった。だから自分には、一般教養も一般常識もない、これから身に付けなきゃ」と。

大手の予備校で人気トップの講師の談ですが、彼の講義の半分以上は雑談で占められるそうです。その話題は哲学から社会学、社会学から科学、芸術にまで及び、このときの教室は波を打つような躍動感に満ち、教室全体がミシミシと音を立てるように「知」が浸透する感じだと。受講生の知的好奇心は受験勉強に阻まれ、彼等は豊かな一般教養に飢えているのです。

今の受験戦争の厳しさは、今年の冬に具体的に認識しました。東京在住の友人のお孫さんが私立中学を受験しましたが、1ヶ月の間に9校も受験したのです。しかも、それがフツーだと聞いたときは、驚き呆れました。

もと中学の教師だった友人は、今や裕福な家庭の子供たちは私立の中高を目指し、公立は避けるというのです。このような傾向は都会だけかと思いましたが、地方でも同じよと言う訳です。

お金をかけなければ「良質な教育」が受けられないと親たちが思っているなんて、大問題ではないでしょうか。

私は、秀才君たちの大学に科目履修生として4年間学びましたが、受験勉強で心が壊されてしまったか、もともとそういう人間性なのか判断はつきませんが、私の世代では考えられない発言を平気とする学生が居ました。

前期・後期の試験では、答案用紙に講師の名前を書く欄があります。あるとき、一人の学生が手を挙げ、「先生の名前、ナンでしたっけ」と訊いたのです。

こーんな失礼なことってあるでしょうか。直接先生に訊かなくとも、隣の誰かに訊いたり、他に方法はあはずでしょうに、なぜあんなにしゃあしゃあと…。

また、一時限目の授業で、先生が「おはようございます」と言っても全員黙っている。一番後ろに座った私が、「おはようございます！」と応じると、ようやくパラパラと「おはようございます…」

これが何度か繰り返され、やっと半数くらいがすんなりと挨拶できるようになりました。

勿論、常識も一般教養も豊富で親切な学生も居ましたが、ごく少数だったような…。

極端な例ですが、確か、丸山穂高議員も東大の経済学部を卒業しているのですよね。でも彼、すっごく下品じゃないですか。

「生まれつき」は高等教育を受けても治らないのでしょうか。

■Re: 喫茶店は死語？ 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年 6月 14日(金)21時 10分 3秒 返信・引用

> No.912[元記事へ]

> minoru さん

> 「茶店」とは、喫茶店のことですね。

思わず吹き出しました。ぼくは「ちゃみせ」のつもりで書いたのですが、喫茶店の略語「さてん」とお読みになったのですね。う～む、いくらなんでもちょっと古すぎましたか。

> 前述の理学部の学生が二人とも「喫茶店」という言葉を知らなかったのです。

それはまた秀才らしくもない。ものを知らないにもほどがあります。小学校からやり直しなさいと指導されたほうがよろしいかと存じます。喫茶店はまだ死語とはいえませんし、かりにふだんカフェといっているにせよ、小説を読んだり歌謡曲を聴いたりしていれば自然と覚えることばだと思えます。どうも一般教養に問題があるようですね。

美人喫茶というのはぼくも知りませんでしたが(一般教養に難あり?)、ジャズ喫茶には全盛期に何度か行ったことがあります。また、京都でしたらたしか出町柳のあたりに、クラシック(音楽)喫茶なんてのがあったように記憶しています。昔々の話ですから記憶があいまいですけど……

> 死語と言えば、「清貧」「美人薄命」も、死語になってしまいましたね。

清貧とは、裕福とはいえぬまでも、しようと思えば多少の贅沢はできるけれど、あえて質素に暮すことを選ぶという高踏的な生活態度をいうのでしょう。貧乏人の等級でいえば余裕派ともいうべく、実際は中間層下位のあたりではないかと思えます。中間層が消滅の危機に瀕し、選択の余地なく貧しい暮らしを迫られる人が激増している現在、死語になるのは当然かもしれません。

佳人薄命はちと厄介なお話で、どうしてもお婆さんになった小野小町のボロをまとった姿を連想してしまいます。この言葉の裏には、美人には年を取らせたくない、という気持が働いているのかもしれないですね。しかしそれはあまりにも残酷な話ですし、八千草薫さんのようにご高齢になってもなお美しい方もいらっしゃるのだから、こちらは死語になったほうがいいと思います。

> ちなみに、呑んで死ぬものじゃないので、お酒は呑みます。

おお、それはけっこうなことですね。みたらし団子で一杯というのも乙なものかと。

■喫茶店は死語? 投稿者:minoru 投稿日:2019年6月14日(金)19時12分36秒 返信・引用

お言葉に甘えまして^^

「茶店」とは、喫茶店のことですね。

その「喫茶店」ですが、前述の理学部の学生が二人とも「喫茶店」という言葉を知らなかったのです。「喫茶

店で休んできた」と言いますと、顔を見合わせて怪訝な顔。それからおもむろに「喫茶店で、なんですか？」と言う訳です。

よくよく訊いてみましたら、彼等は「カフェ」しか知らなくて、カフェに行くときは店の名を言うそうです。「スタバ(or ドトール or タリーズ)に行こう」とか。そこで「歌声喫茶」や「ジャズ喫茶」「美人喫茶」について解説すると、迷惑そうな表情。つくづく世代間の断絶を感じました。

死語と言えば、「清貧」「美人薄命」も、死語になってしまいましたね。

ちなみに、呑んで死ぬものじゃないので、お酒は呑みます。やはり、甘いものの方が好きですが、お団子は甘くない醤油団子が好きです。

しかし、茶店には、みたらし団子は無いのではないのでしょうか。こちら(京都)でも見たことがありません。

■Re: 気掛かりなこと 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年6月13日(木)21時35分56秒 返信・引用

> No.910[元記事へ]

> minoru さん

心配はご無用です。この掲示板は開設者自身がその存在をほとんど忘れかけているくらいですから、メールで書き込みの通知が舞い込むと、ビックリします。

> 他の方々も参加していただけるとよいのですが。

おっしゃるとおりです。ぼくは勉強不足ですから、もっと頭脳明晰な方が参加していただくと大いに助かります。

> 何とかしたいと願っていても、この流れに抵抗するための具体的な活動方法が浮かんで来ません…。

だからぼくなんかは毎晩アルコールを摂取するわけですが、下戸の方はお困りでしょうね。しかしあまり思いつめては体に毒ですから、たまには散歩に出かけて、どこかの茶店でみたらし団子でも召し上がるというのはいかがでしょうか？

■気掛かりなこと 投稿者:minoru 投稿日:2019年6月13日(木)09時08分8秒 返信・引用  
お返事、ありがとうございます。

書きたいことは山ほどありますが、この掲示板を独占してしまうようで気が引けます。他の方々も参加していただけるとよいのですが。

今の日本は、日本会議の連中の地道な草の根運動で、戦前の日本のイデオロギーに戻りつつあります。何とかしたいと願っていても、この流れに抵抗するための具体的な活動方法が浮かんで来ません…。

今回はこれくらいに致します。  
では。

■Re: 閃きという神秘 et 軍産複合体 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年6月13日(木)01時17分  
32秒 返信・引用  
> No.908[元記事へ]

> minoruさん

とんでもありません。ぼくの脳味噌は相変わらず混沌としたままです(いい年をして発酵がおさまっていない?)。一流大学出の理系の秀才諸君の足元にも及ばない酔っ払いの鈍才に過ぎませんから、どうかご安心ください(笑)。

「神秘の領域」といえば、男女・秀才鈍才の別なく、まさに脳味噌がそうだと思いますよ。理系の秀才諸君だって、色香に迷うこともあれば、借金をこしらえて悩むこともあれば、我が子が引きこもりになって憂鬱になることもあるはずですよ。どうして優秀な脳味噌がそんな事態を招いたのか、到底数式では説明できっこありません。

件の秀才諸君も(なにしろ秀才なので)それを先刻承知しているからこそ、自分たちには(秀才だというのに!)とても理解できない「神秘の領域」があることを認めているのだと思えば、少しはお心が休まるかもしれません。

> 戦争で金儲けを目論む軍産複合体の存在は脅威です。

戦争はたいへん儲かる商売です。戦争屋は筋金入りの「グローバリスト」ですから、自分の生まれた国が勝とうが負けようがおかまいなしで、いわゆる愛国心などという幻想は持っていませんよ。

> 欧米圏の大学の教育と日本の大学の教育との相違

欧米の大学の实情は正直いってよく知りませんが、立て看がすっかり姿を消した(これは昭和趣味かな(笑))日本の大学はつまらないですね。小中学校じゃあるまいし、文科省がたわけたことをいったら正面切って喧嘩するくらいの勢いのある場であってほしいと願っています。そしてそれを応援する市民が増えること、市民に応援してもらえる開けた場になってくれることを祈っています。

■閃きという神秘 et 軍産複合体 投稿者:minoru 投稿日:2019年6月11日(火)19時49分51秒  
返信・引用

お返事を拝読して、各方面の豊富な知識が脳内できちんと整理されている感じで、カオスな私の頭の中とは全然違うと感嘆しました。しかし、このカオスな脳から閃く直感一具体例は長くなりますのでまたの機会に

一は、理論派の、特に男性には信じ難い現象らしく、それは「神秘の領域」で、自分には理解できないと切り捨てられます。

数学によって法則化された物理を学ぶ、世間で言うところの一流大学の学生達の「神秘の領域」に対する反応は面白いです。まず、聞こうとしない。それでも熱心に話そうとすると、ワー！と声を上げて私の言葉を遮り、お互いに笑い合っオシマイ。

前書きが長くなりましたが、戦争で金儲けを目論む軍産複合体の存在は脅威です。学生達が街頭で自衛隊の海外派兵に抗議する集会を開いた際、一人の若い女性が、それを指摘しました。

武器を製造する企業は、戦争が起きれば一挙に巨大な利益を得る、だから戦争をしたい。私たちは彼等から決して目を逸らしてはならないと。核心を突いた指摘で感心したのですが、彼女はオーストラリアに留学中の学生で、この集会のために急遽帰国したとのこと。欧米圏の大学の教育と日本の大学の教育との相違を見る思いでした。

戦争で金儲けをするという恥ずべき行為を平然と遂行するのもこのような文明人種です。恐ろしい相手です。

■Re: 戦争 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年6月10日(月)21時32分26秒 返信・引用  
> No.906[元記事へ]

> minoru さん

どの国であれ、「お上のいう」愛国心というのは、戦争という営業目的を推進するための宣伝文句にすぎないと思っています。自分の国の文化や言語に感じる自然な愛情という意味ではありませんね。

対象が人であれ、故郷であれ、国であれ、愛情というものは自然に生まれる感情であって、だれかに「愛せよ」と指図されるような筋合いのものでないことは、小学生にもわかる理屈だと思います(小学生は無理でも中学生にはわかりますよね)。

お上認定の愛国者とは悲しいものです。なんでもお国のいうことは聞けというなら、昨日までは洪い声で君が代を歌っていたのに、政治体制一変すれば、声張り上げて革命歌を歌わなくてはいけませんし、当然その逆もあります。だって、そうしなければ愛国者とは認めてもらえないのですから。立場の左右を問わず、それはどうもおかしいな、と考えるのがふつうでしょう。

ちょっと余計なことを書いてしまいましたが……叙勲の儀式や法要などは浮世の義理としてまだ耐えられますが、こと戦争ともなれば、ようするに野蛮な人殺しですから、文明人たるもの、角が立とうとも、空気を読めないといわれようとも、抵抗するのが筋だと思います。

> 仏語の授業で、選挙に行かなかった女子学生がフランス人の教師から厳しく叱責され

それはタナボタ式に民主主義が導入された日本人とのちがいだと思います。じれったさを感じたのでしょう

ね。

ぼくは毎度いなのですが、貧乏人も金持も一票は一票ですから、その価値ははかりしれません。弱者が投票権を行使しないのは、なけなしの貯金をドブに捨てるようなものだと思います。うかうかしていると、文無しになった挙句に戦争に狩り出されるというのに。

■戦争 投稿者:minoru 投稿日:2019年6月10日(月)00時04分32秒 返信・引用

お返事に感謝です m( )m

「世の中には自分の意志に反して行うこと、行わざるをえないことが案外多いような気がいたします。」には、極端な例ではありますが、戦争に駆り出された父を憶いました。戦前、100mを10秒5で走った父は、オリンピックを目指していました。しかし、徴兵で海軍に入隊するよう命ぜられたとき、全てを諦めたそうです。狭い艦での生活は足腰を弱めてしまうから。そして、父の意に反して行なわなければならなかった戦闘は、若きスポーツマンの心を深く傷つけました。

戦争では、個人的には何の恨みつらみもない赤の他人をできるだけ多く殺戮しなくてはなりません。そのために、国は戦争を正当化する名目をでっち上げ、私の父も艦で陸で一海軍には陸戦隊が在りましたー「敵」と殺し合いました。こんな父の戦後は....。

言うべき言葉もありません。

自分の意思に反して若者が戦争に行かなければならない事態だけは避けなければ、というより、断固阻止です。若い人たち、特に女性ももっと政治に関心を持つよう祈るばかりです。仏語の授業で、選挙に行かなかった女子学生がフランス人の教師から厳しく叱責され、顔を赤らめ俯いていたことも思い出されました。最後に、叙勲の儀式は、坊さんが唱えるお経よりも意味が分らないものでした。

■Re: 勲章 投稿者:薄氷堂 投稿日:2019年6月6日(木)12時18分26秒 返信・引用

No.904[元記事へ]

> minoru さん

いらっしゃいませ。

ぼくには勲章をいただくような心配(?)はないからいいんですが、もしもですよ、なにかの手ちがいによって、「勲章をさしあげます」という恐ろしい事態になったとすれば.....当然辞退いたします。人様の人生に等級をつけるとはもってのほかですし、勲章なるものになんら価値も魅力も感じないからです。

しかし喜んで勲章をいただくという方にとにかく申し上げるつもりはありません。人それぞれですから。いやいやながらもご主人におつきあいされた奥様は、ある意味では、いいことをなされたのではないかと思いますよ。

たとえば、たいして信心もないのに、あえて反抗すれば角が立つから、まじめな顔をして坊さんのお経を

聞くことってありますよね(それは私です(笑))。世の中には自分の意志に反して行うこと、行わざるをえないことが案外多いような気がいたします。

■勲章 投稿者:minoru 投稿日:2019年6月5日(水)16時50分56秒 返信・引用

旦那が勲章を貰った。皇居まで行ったんだけど、ほら、正月とかに皇族がお目見えするお立ち台の前には広場があって、大型バスがずらり並び、そこからモーニング、色留袖の年寄りたちがぞろぞろ降りて、お立ち台の後ろの春秋の間に入り、天皇陛下に謁見。春秋の間は長さ60m。そこにずらり2列に並ぶ。男は前、女は後ろ。勲章なんて大時代なものを貰うもんだから、モーニングだの色留袖だのアフタヌーンドレスだのドレスコードのうるさいこと。お立ち台の前の広場はおっそろしく広く、遙か遠くに色留袖の行列がゾロゾロと去って行く光景は異様だった。私の感覚が不遜なのか…。しかしまあ、なぜ今どき勲章なのか、それを嬉しく頂く旦那の気持ちが理解できない。行きたくないと言ったら、悲しそうな顔になったので、それを見たら可哀想になって貸衣装屋で色留袖を借りて叙勲の式に参列。で、疲労困憊。その夜はこむら返りで酷いことになった。

大日本帝国は今も健在でありました。

■Re: 猛吹雪お見舞い 投稿者:薄氷堂 投稿日:2018年3月2日(金)21時19分21秒 返信・引用

> No.901[元記事へ]

> 夢を夢見るなまけものさん

どうもありがとうございます。おかげさまで当地の積雪はさほどでもありませんでしたが、あちこち大雪で苦労しているようです。

那覇は26度ですか？こちらでは25度以上になるのは真夏ですし、たいていの人が「暑い、暑い」と悲鳴を上げます(笑)。

■猛吹雪お見舞い 投稿者:夢を夢見るなまけもの 投稿日:2018年3月2日(金)15時55分41秒 返信・引用

はいさい！猛吹雪・除雪の強制重労働お見舞い申し上げます。当地那覇は、26度、半袖きたい陽気です。日本も広いですね。くれぐれも事故・転倒などありませんよう。

■ホームページ移転のお知らせ 投稿者:薄氷堂 投稿日:2016年9月2日(金)20時25分23秒 返信・引用 編集済

Niftyのホームページ・サービスの変更に伴い、下記新URLに移転いたしました。

<http://hakuhyodo.my.coocan.jp>

なお理由は不明ですが、移転後当掲示板から2015年12月以降の書き込みが消えてしまいました。管理者が削除したわけではありませんので、どうかご了承ください。

<http://hakuhyodo.txt-nifty.com/smokingroom/>

■Re: とある看板・・・ 投稿者:薄氷堂 投稿日:2015年11月30日(月)23時55分0秒 返  
信・引用

> No.898[元記事へ]

>三友亭主人さん

貴重な写真をありがとうございます。ブログのネタをひとつ犠牲にさせていただいた  
ようで(笑)、まことに恐縮です。

ご返事がとんでもなく遅くなり申し訳ありません。似たような看板の写真がないか  
探しているうちに、つい時間が立ってしまいました。

目的の写真がみつからなかったので、宇治園の宣伝をしておきます(2011年11月撮  
影)。これもねえ……田舎の道路ですから、どれほど宣伝効果があったものやら。



■とある看板・・・ 投稿者:三友亭主人 投稿日:2015年11月22日(日)19時40分37秒 返  
信・引用

今日、散歩していたら・・・かような看板で会いました。

ブログで紹介しようとは思いましたが、行きがかりの上からは薄氷堂さんに直接お知らせした方がよろしいか  
と思い、ここに紹介いたします。

それにしてもなぜこのような場所にとの思いはあります。

ほとんど地元の間しか通らない・・・それも限られた数の・・・そんな道なのに・・・



<http://soramitu.net/zakki/>

■Re: 小春日和です 投稿者:薄氷堂 投稿日:2015年11月17日(火)20時48分51秒 返  
信・引用

> No.896[元記事へ]

>くしろ-OBさん

先ほど昔の写真を見直しましたら、どうやら勘違いしていたらしく、鉄北センターが南北二筋ではなく、鉄北ショッピングセンターと鉄北センターが並行していたようなのです。気になるので、近いうちに現場へ行って再確認するつもりです(笑)。

> さて、この通りには、”山鳥 ”と言う

> 焼き鳥屋が真ん中あたりの、二階にありましたが？



末広の「山鳥」(写真は 2000 年 12 月撮影)とはちがいますか？

> お姫様から別れるのがだんだん寂しくなりました。

それはそれは。ぼくのほうは絶不調でして、読書はさっぱり進んでいません。

■小春日和です 投稿者:くしろOB 投稿日:2015年11月17日(火)20時02分52秒  
信・引用

久々の、小春日和がありました。

懐かしい酒街、鉄北センター通り、遠い昔を思い出しました、

返

頑張りますねー、情があるのか、酒好きなのか？  
釧路の人は、助け合いの心意気があるんですねー

さて、この通りには、”山鳥 ”と言う  
焼き鳥屋が真ん中あたりの、二階にありましたか？

寝不足の毎夜、やっとな 九百夜 が過ぎました  
シンドバットやら魔法のランプに空飛ぶ絨毯、  
大人のお話、  
お姫様から別れるのがだんだん寂しくなりました。

■Re: なつかしの北海道 投稿者:薄氷堂 投稿日:2015年10月25日(日)19時36分20秒 返  
信・引用

> No.894[元記事へ]

> 夢を夢見るなまけものさん

ごぶさたしております。お元気でお過ごしのことと思います。こちらは朝晩めっきり寒くなりましたよ。

> 北海道のラーメンの写真がなぜか感激です。

最近食べれば食べただけ体重が増えるものですから、外食はあまりしないのですが、ご要望とあらば(笑)、  
またどこかでラーメンの写真を撮りましょう。

沖縄のラーメン(?)がどんなものか想像もできません。写真ではなんとかソバというのを見たことはあるの  
ですが……

この掲示板には画像を貼りつけることができますので、そのうちにぜひなにかご投稿ください。

■なつかしの北海道 投稿者:夢を夢見るなまけもの 投稿日:2015年10月25日(日)15時51分14  
秒 返信・引用

薄氷堂様、いつも楽しく拝見しています。こちらは南国那覇です。最近ようやく日中 30℃をきり朝晩は 23℃  
くらい、すこし過ごしやすくなりました。「秋」という感覚・季節感がないので薄氷堂さんの写真がすごく懐かし  
く、新鮮です。もうそちらは雪のたよりですね。北海道のラーメンの写真がなぜか感激です。みているだけで  
味が創造できます。また楽しい話題期待しております。

■Re: 台風見舞い 投稿者:薄氷堂 投稿日:2015年10月8日(木)17時54分17秒 返信・引用  
No.892[元記事へ]

>くしろ-OBさん

どうもありがとうございます。おかげさまでなんとか無事でした。

こういう日は外出しないほうがいいので、幣舞橋を歩いて渡るなどとんでもないことです(笑)。

> 千夜一夜も大六巻、若返ってでガンバっております。

へえ、すごいスピードではありませんか。物語が物語ですから、刺激も強いと思います。あまり張り切りすぎませぬようお気をつけください。

■台風見舞い 投稿者:くしろ-OB 投稿日:2015年10月8日(木)15時38分53秒 返信・引用  
台風の状況はいかがですか？TVで盛んに写されております  
被害はありませんか？ 隣でよかったですね？

こちらは、秋晴れの天気ですが！

これからよ夕方にかけて荒れる様子くれぐれも幣舞橋を渡らないように！

千夜一夜も大六巻、若返ってでガンバっております。

( マルドリュス版)

取り急ぎお見舞いまで。

■Re: 仲秋の名月 投稿者:薄氷堂 投稿日:2015年9月28日(月)21時44分21秒 返信・引用  
> No.890[元記事へ]

くしろ-OBさん

こちらは今宵もよい月夜です。当然月見酒です。

> 今月からは、昔から一度はと思っていた”千一夜物語”に挑戦しだしてます、

リチャード・バートン版でしょうか。昔抄訳本は読んだことがあります。

全 13 巻とは驚きですが、ご健闘をお祈りいたします。たしか色っぽい話もまじっていたような気がしますけど、記憶はかなり曖昧です。

> 私も、今月“古希”となりました、

それはおめでとうございます。お互い日向の猫みたいにおとなしくならずいじわる爺さんとしてしぶとく生きようではありませんか。といっても、ぼくも古希まで生き延びるという保証はありませんが(笑)。

■仲秋の名月 投稿者:くしろ-OB 投稿日:2015年9月27日(日)20時04分10秒 返信・引用  
今夜は、観月夜で、仲秋の名月は久々です、  
子供のころはすすきを飾ったものです、昔の習わしが懐かしいです。

今月からは、昔から一度はと思っていた”千一夜物語”に挑戦しだしてます、  
秋の夜長“全13巻”これが人生の完読にならんように頑張ります。

私も、今月“古希”となりました、改めて若返るつもりもありませんがね！  
夜な夜な夢を見るつもりもありませんがね、？

■Re: お見舞い 投稿者:薄氷堂 投稿日:2015年8月11日(火)23時26分49秒 返信・引用  
> No.888[元記事へ]

>くしろ-OBさん

どうもありがとうございます。そちらはさぞ暑いことでしょう。

> 農作物の被害は大丈夫でしたか？

元のご職業柄、道東地区全体の被害を心配しておられるのだと思います、弱小農家(?)のぼくにも被害はありました。

今日裏庭へ行ってみたら、ダイコンの芽が横倒しになっていましたよ。場合によっては種をまき直さなくてはならないかもしれませんね。

> トロローブも最後の一冊となり、

> 最後の訳本がいつの日か出るか

ということは、全集をお読みになっているのですか？ とても

信じられない思いです。いずれ英国大使館から表彰されるかもしれませぬ(笑)。

ぼくもくしろーOBさんに負けまいとディケンズを読んでいるのですが、ときどき意味のわからぬところに出くわして、悪戦苦闘しています。

お互いがんばりましょう。

熱中症にならぬよう、くれぐれもお気をつけて。

■お見舞い 投稿者:くしろーOB 投稿日:2015年8月11日(火)21時15分58秒 返信・引用  
取り急ぎ、集中豪雨お見舞い申し上げます。

残暑お見舞い申し上げます。  
農作物の被害は大丈夫でしたか？

我が地も連日の猛暑の毎日、わが身もいよいよか？と思いながら  
読書の日々を続けております、A、トロローブも最後の一冊となり、

最後の訳本がいつの日か出るか、できれば記憶のあるうちに期待したいものですが？

今週は、”終戦日”に”お盆”せめては我が身を洗滌し粒粒辛苦の日を送りください？  
小生もひと月後には、戦後の齢、最後まで刻苦勉勵に励むつもりです？

■Re: 暑中お見舞い 投稿者:薄氷堂 投稿日:2015年7月8日(水)07時44分45秒 返信・引用

> No.886[元記事へ]

> くしろーOBさん

> 暑中お見舞い申し上げます

どうもありがとうございます。正直のところ「暑中」とはいいかね、もう少し暑くてもいいかなあ……などと贅沢なことを考えております。

> G. エリオット。W. サッカレー。A. トロローブ。

渋いですねえ。トロローフなんて、知らない人のほうが多いんじゃないでしょうか。この人は一種の執筆中毒らしく、とにかく毎日書かずにはいられなかったそうです。ぼくの手元にも一冊(昔読みかけたまま)ありますので、今年中に読破しようかな。

> 日々の習慣になりましたが、いつまでつづくやら、  
> 負けずに、頑張ります、

21世紀の日本に19世紀英文学の愛読者がいらっしゃるとは驚きです。  
どうかご健闘を！

■暑中お見舞い 投稿者:くしろーOB 投稿日:2015年7月7日(火)21時03分49秒 返信・引用

暑中お見舞い申し上げます

やっと、梅雨のしっとり天気が続き、雨読の日々を過ごしております。

いつも、くしろコラム を拝読しております。

変わらずの読書三昧、3人の作家に取り掛かり中、

G. エリオット。W. サッカーレー。A. トロローフ。と  
翻訳本を概ね完読の予定です、全部じゃないですが。

さすが、東京の図書館、よくも古本があり助かりますが、  
昔の漢字と意味が分からず、苦勞しております。

日々の習慣になりましたが、いつまでつづくやら、  
負けずに、頑張ります、

後半もまたよろしく！ 電子新聞 愛読者。

追伸 北洋の鮭鱒が来年から心配です、また歴史がきえます。

■Re: 春近し? 投稿者:薄氷堂 投稿日:2015年3月5日(木)23時15分11秒 返信・引用  
> No.884[元記事へ]

>くしろーOBさん

お元気でお過ごしのことと存じます。

> 白梅も紅梅もこちらは満開です

こちらには梅はありませんから、桜の咲く五月を待たねばなりません。それより前ならフクジュソウですね。

> 毎日春の雪でご苦労様です！

ありがとうございます。今年の雪はしつこくて弱ります。

> 旭山に負けないよう、がんばってください。

「旭山」が「雪山」に見えてしまいました(笑)。負けませんとも。ウイスキーのあるかぎり。

■春近し？ 投稿者:くしろーOB 投稿日:2015年3月4日(水)21時31分42秒 返信・引用

白梅も紅梅もこちらは満開です？写真の景色は白梅？でしょうか？

毎日春の雪でご苦労様です！でも、もうすぐ春近しです、

無理せず日課をこなしてください、晩酌が楽しみですか？

くれぐれも、！音信不通に注意のこと！

今年も楽しみにしております。

今日のTVで釧路動物園の”シロクマ”が人気らしいですね！

旭山に負けないよう、がんばってください。

■Re: お世話になりました 投稿者:薄氷堂 投稿日:2014年12月30日(火)21時51分7秒 返信・引用 編集済

> No.882[元記事へ]

>くしろーOBさん

コンスタントに読書をお続けになっているようですね。ほんとうに頭が下がります。しかも英文学とは渋い！

ぼくは最近英文学をさぼり、YouTube で映画ばかり観ています。そういう時期なんですね。いずれ活字に戻るだろうと思います。

> 来年からは、W・サッカーにとりかかります。

サッカーといえば『虚栄の市』でしょうか？ あれは抜群におもしろい小説ですよ。

> 追伸、1.今だ写真がうまくいきません。

機会があれば直接御指南したいところですが……

> 2.西港は変わりましたか？

西港はあまり変わっていませんが、いささか事情があつて、アルバイト先の事務所が長年住みなれた西港ビルから第3埠頭基部の某所に移転いたしました。

新事務所の窓からは港がよく見えます。添付の写真には第4埠頭に接岸中の船が写っています。

ではどうかよいお年を。ますます読書がはかどりますようお祈り申し上げます。



■お世話になりました 投稿者:くしろ-OB 投稿日:2014年12月30日(火)16時45分2秒 返信・引用

今年も、道東人語 ありがとうございます。

おかげさまで、無事に一年を過ごすことができました？

私も、今年は英作家、3名何んとか読破しましたが、読んだ後はすぐ忘れてしまいますが、とにかく毎日頑張って”ボケ防止”に取り組んでおります。

なかなか、再本がなく、文と文字に四苦八苦です。

来年からは、W・サッカーにとりかかります。

来年は、道東散歩を夢見ておりますが？

来年もどうぞ楽しい電子文をおねがいします。

追伸、1. 今だ写真がうまくいきません。

2. 西港は変わりましたか？

■横浜港の令嬢 投稿者: 薄氷堂 投稿日: 2014年9月10日(水)23時06分41秒 返信・引用  
編集済

くしろ-OBさんの送ってくださった写真から三枚、代理で掲載いたします。





二枚目が令嬢こと氷川丸ですね。美人です。黒い船体に横一線のホワイト・リボンもまたよし。

二代目飛鳥もいいけれど、ぼくはやはり令嬢びいき(笑)。令嬢といっしょに太平洋を渡ってみたいものです。

くしろーOBさん、どうもありがとうございます。次回はぜひ直接ご投稿ください。お待ちしております。

■Re: 写真送ります 投稿者:薄氷堂 投稿日:2014年9月9日(火)21時25分31秒 返信・引用

> No.879[元記事へ]

くしろーOBさん

ご返事が遅くなって申し訳ありません。

> 本日、送ってみます、届くでしょうか？

あれれ、残念ながら写真は表示されていませんね。

もしさっつかえなければ、メールをくださいませんか？ 図解入りで写真の挿入方法をお教えいたします。

> 二引き家の 令嬢が岸壁を挟んで、猛暑の中 ジーツ としてました。

その令嬢は一度だけ間近で見たことがありますよ。

■写真送ります 投稿者:くしろ-OB 投稿日:2014年9月8日(月)21時09分36秒 返信・引用  
先日は、操作説明ありがとう！  
本日、送ってみます、届くでしょうか？

久々に、孫をと伴って Y'hama へ出かけました。  
忘れていた、潮香を思い出しました。

二引き家の 令嬢が岸壁を挟んで、猛暑の中 ジーツ としてました。  
年をとりました、いくら厚化粧をして年月が感じました。私も同様です。

Re: やつと一息です！ 投稿者:薄氷堂 投稿日:2014年8月31日(日)22時10分46秒 返  
信・引用

> No.877[元記事へ]

>くしろ-OBさん

いよいよ秋ですね。ホッとされたことでしょう。

> ”時がたつのが早いと思うようになるのは、  
> われわれが人生に慣れすぎたことである”らしい！（ヘンリ ライクロフトの私記より）

ギッシングとはまた渋いご選択ですが、本書はかつて学生の間でずいぶん読まれたと聞いております。ぼくの手元にも対訳本があるはずなので、いま探してみただけ  
れど、とうとうみつかりませんでした(最近こういうことが多いんです)。

> だんだんと、老眼もきつくなりだしましたが、頑張ります。

頭が下がります。ぼくも負けないように努力しなくては……

> 追伸 この掲示板に写真を添付する方法教え願いたい！  
> どうすれば、添付できるのでしょうか？

1. (あたりまえですが)まず写真を用意します。写真のサイズはあまり大きく  
ならないように横 800 ピクセル程度に縮小しておいたほうが良いと思います。  
そしてその写真ファイルのありかを覚えておきます(手間を省くため、デスク  
トップにファイルを置くのもいいでしょう)。

2. 投稿画面の「内容」の右のほうに「画像・ファイル」というボタンがありま  
すので、それをクリックします。

3. すると、文章入力枠の下に「ファイル1 参照」というボタンが表示されますので、それをクリックします。写真は三枚までご投稿可能です。
4. 「ファイルのアップロード」画面が表示されますので、当該写真ファイルを選んで、「開く」ボタンをクリックすればオーケーです。「参照」ボタンの右にファイル名が表示されます。
5. 文章の内容と写真ファイル名を確認の上「投稿」ボタンをクリックすれば、文章と写真が送信されます。

テストの意味で、ぼくもしょうもない写真を添付しておきました。もしわかりにくければ、ぼくのメールアドレスも添付しておきますので、ご一報ください。図解入りで手順をご説明いたします。

せつかくのチャンスですから、ぜひお試しください。お写真をお待ちしております。



■やっ和一息です！ 投稿者:くしろ-OB 投稿日:2014年8月31日(日)20時51分24秒 返信・引用

炎暑、酷暑を何とか老体乗り切りました！  
秋空の北国、このところ釧路に負けない気温です、

早くも、九月

”時がたつのが早いと思うようになるのは、

われわれが人生に慣れすぎたことである”らしい！（ヘンリ ライクロフトの私記より）

ということで、今回は、G. Gissing に挑戦することにしました。  
なかなか、訳本がなくて大変ですが、さすが東京（都立の図書館）には助けられています。

年内目標ですが、どこまで読めるか？（全5巻）  
だんだんと、老眼もきつくなりだしましたが、頑張ります。

秋空の鉤路を思うと、おいしい サンマ を思い出します？

追伸 この掲示板に写真を添付する方法教え願いたい！  
どうすれば、添付できるのでしょうか？

■Re: 暑中お見舞い 投稿者:薄氷堂 投稿日:2014年7月2日(水)21時17分57秒 返  
信・引用

> No.875[元記事へ]

>くしろ-OBさん

> 今日は、安倍のボクちゃんのフィーバーで世間は大騒ぎです？

う～む、ぼくはそのボクちゃんと、ゲジゲジとムカデが大の苦手  
でして、テレビに登場するたびに、さっさとチャンネルを切り替え  
てしまいます(笑)。

> 私も半年かけて、”E. Gaskell”も、最後の一作のみとなりました  
> 我ながら、よくぞとっております。

へえ、それはまたすごい。渋すぎますよ。ぼくは短編ひとつ読ん  
だだけ。ギヤスケル女史なんて知らない人のほうが多いんじゃない  
でしょうか。

津田塾にでも社会人入学するおつもりですか？

> まあ、ぼちぼちと次を考えます、

お次はなにに挑戦されるのかわかりませんが、ご健闘をお祈り申  
し上げます。

■暑中お見舞い 投稿者:くしろ-OB 投稿日:2014年7月1日(火)21時38分46秒 返信・引用  
暑中お見舞い申し上げます。

晴耕雨読の日々、自給自足?も御苦労様です。

今日は、安倍のボクちゃんのフィーバーで世間は大騒ぎです?  
戦後七十年、世の中変わりそうですが、今しばらく、このままで!

それにしても、時世に酒酒落落の”つれづれの文人”は立派です?

私も半年かけて、”E. Gaskell”も、最後の一作のみとなりました  
我ながら、よくぞと思っております。

まあ、ぼちぼちと次を考えます、  
季節がら、身と、畑にご自愛ください。

■Re: さくら咲く? 投稿者:薄氷堂 投稿日:2014年4月2日(水)13時35分26秒 返信・引用  
> No.873[元記事へ]

>くしろ-OBさん

> 最後の春の嵐も終わり、つらい重税年度の春です、

収入が低下して物価が上がることをなんといいましたっけ(笑)。

答:アベノフレーション。

> 半年がかりで、T、ハーディー作品、長編 15、短編 45、

ええっ、トマス・ハーディーをそんなに!? ご奇特といいま  
しょうか、なんといいましょうか。ぼくは陰々滅々たる『日蔭  
者ジュード』を読んで、手持ちの残り2冊を読もうか読むまい  
か迷っております。

ずばり、尊敬いたします。8億円で熊手を買った大将とは人  
間の出来が大ちがいですね(第一あのお方、トマス・ハーディ  
などご存じないでしょう)。

■さくら咲く? 投稿者:くしろ一OB 投稿日:2014年3月31日(月)21時23分34秒 返信・引用  
年寄りじめのさくら咲く?  
最後の春の嵐も終わり、つらい重税年度の春です、

いつもながら、楽しく拝読させて頂いております。

私も、清貧生活で、図書館と仲良くなりました。  
半年がかりで、T、ハーディー作品、長編 15、短編 45、

この春、読破しました、ボケ防止もありますし、  
久々に、遠い遠い昔を思い出しております。

今回は、

<http://surasshusurasshue>

■Re: 目下、猛練習中 投稿者:薄氷堂 投稿日:2014年3月12日(水)22時41分30秒 返信・引用

> No.871[元記事へ]

> 麦穂亭さん

コンチェルトとはずいぶん出世しましたね。努力が実るよう  
お祈りしております。

> 仏教徒なのに キリスト教会音楽に どっぷり浸かっています。

宗教音楽の威力は宗教の威力ではなく音楽の威力である、とい  
う意味のことをフョイエルバッハが書いています。味わうべきこ  
とばですね。

■目下、猛練習中 投稿者:麦穂亭 投稿日:2014年3月12日(水)20時42分45秒 返信・引用  
只今、バッハ コンチェルト 1番 第1楽章 を猛練習中!

最近ずっと、コレルリ ビバルディ バッハ ばかり ですので

仏教徒なのに キリスト教会音楽に どっぷり浸かっています。

■Re: 思い出の季節 投稿者:薄氷堂 投稿日:2014年1月17日(金)22時45分3秒 返信・引用

> No.869[元記事へ]

>くしろーOBさん

今年は極端に雪が少なく、驚いています。雪かきせず  
にすむのは楽なんですけど、いつまでつづきますことや  
ら。

> まだ住んでいる人がいるんですね？

いますとも。しぶとく住んでいます。

> 厳冬の”景色”期待しております。

最近すっかり根性なしになりましたが、がんばります。

■思い出の季節 投稿者:くしろーOB 投稿日:2014年1月16日(木)20時19分0秒 返信・引用  
思い出しますね！写真見て震えております。  
何とも言えない、厳冬の風景

懐かしい思い出です、  
まだ住んでいる人がいるんですね？

頭が下がります？  
私は、今の寒さでも堪えております。

厳冬の”景色”期待しております。

■Re: 来年もよろしく 投稿者:薄氷堂 投稿日:2014年1月1日(水)14時21分6秒 返信・引用  
> No.867[元記事へ]

>くしろーOBさん

おめでとうございます。今年もどうかよろしくお願いたします。。

> 私のボケ防止には、役立っております。

それはいけません。信用なさっては危険ですよ(笑)。こちらのほうがぼけかかっているのですから。

> 来年こそは、ガンバツて懐かしの地に行きたいと思っておりますが？

どうかぜひおいで下さい。一杯やりましょう。

> 厳冬の季節、ご自愛の上、お酒にお励みください。

なんとお答えしてよいやら。酒量を減らすつもりでしたのに(笑)。

■来年もよろしく 投稿者:くしろ一OB 投稿日:2013年12月31日(火)16時19分42秒 返信・引用

今年も、電子文を楽しませて頂きありがとうございました。

世間の新聞より随分と中身の濃い論説で、私のボケ防止には、役立っております。

来年こそは、ガンバツて懐かしの地に行きたいと思っておりますが？

わたしは、この一年特段のこともなく”つれづれの日々”を送る事ができましたが、耐え忍んでいる、わずかばかり”年金生活”来年はイヨイヨだめかと、”アベノミックス”を怨む年になりそうです？

まあ、世間に流されて何とか浮いていきたいと思えます。

厳冬の季節、ご自愛の上、お酒にお励みください。

■Re: 酒祭り 投稿者:薄氷堂 投稿日:2013年11月27日(水)21時53分46秒 返信・引用

> No.865[元記事へ]

三友亭主人さん

おめでたい写真をありがとうございます。

どうも反応が鈍くて申し訳ございません。せっかくご投稿いただいたのに気づきませんでした。

> なにせ三輪さんはお酒の神様。我々にとって大切な神様ですから・・・

うまさけ三輪ですものね。遙か北海道から拜むことにいたします。ありがたや、ありがたや。

■酒祭り 投稿者:三友亭主人 投稿日:2013年11月16日(土)09時42分56秒 返信・引用

どうやら一昨日は大神神社で恒例の酒祭りがおこなわれていたようで・・・神前にはご覧のようにたくさんのお酒が奉納されていました。そして杉玉もおニューになっていました。

なにせ三輪さんはお酒の神様。我々にとって大切な神様ですから・・・



■Re: 半沢効果 投稿者:薄氷堂 投稿日:2013年9月24日(火)21時27分49秒 返信・引用  
> No.863[元記事へ]

> 麦穂亭さん

おや、しばらく音沙汰がなかったと思ったら、ご商売が忙しかったようですね。

ぼくはそのドラマを見ていないからよく知らないんですけど、パイが飛ぶように売れているというのは結構なことです。

倍返しがパイ返しで、パイの売り上げが倍ねえ、一応韻を踏んでいるわけだなあ(笑)。

■半沢効果 投稿者:麦穂亭 投稿日:2013年9月24日(火)10時21分14秒 返信・引用  
近頃、モンブランの店では

マロンパイ、リーフパイ、アップルパイ などが

飛ぶように売れているそうだ。「倍返しだ！」が

「パイ返しだ！」が その原因だそうだ。

なんだか 笑点みたいである。

Re: 植物の奇形 投稿者:薄氷堂 投稿日:2013年7月25日(木)20時32分19秒 返信・引用  
> No.859[元記事へ]

> 新川みゆきさん

なるほど不気味な奇形ですね。もちろん原因は速断できませんが、ぼくもこういうのをみかけたら必ず撮影しておくことにします。

春採湖畔の緑色のニリンソウのような例は別にして、タンポポの奇形というのは見た記憶がありませんので、ちょっと気になりますね。

なににせよ、手当たり次第に記録しておく、近い将来なんらかの意味を持つ可能性があるかもしれませんので、みなさまもどうかご協力のほどお願いいたします。

■植物の奇形 投稿者:新川みゆき 投稿日:2013年7月24日(水)00時27分18秒 返信・引用

早速のご連絡ありがとうございます。はしごの写真はモンドリアンみたいで素敵です。添付する写真がグロテスクで申し訳ありません。タンポポはこのような奇形が空き地に数十本も生えていました。そのような場所が釧路市内にいくつも確認できました。南大通りにも多く見られるのが残念です。





■Re: 暑中お見舞い 投稿者:薄氷堂 投稿日:2013年7月7日(日)18時41分9秒 返信・引用  
> No.857[元記事へ]

>くしろ-OBさん

どうもありがとうございます。丸一年間好きなように過ごせたのは幸福でしたが、退屈の虫がうずいてきたので(笑)、今年からときどき港で仕事をしています。

やはり港の空気、現場の雰囲気は最高ですね。自分は部屋にこもっているのが向いていると思いこんでいたけれど、実はそうでもなかったようです。

こちらはやっと少し夏らしくなってきました。多少は暑くなってくれないとビールがうまくありませんから、これもまたよしです。

いかがですか、東京を脱出してこちらへ遊びにいらしては？

■暑中お見舞い 投稿者:くしろ-OB 投稿日:2013年7月6日(土)22時14分23秒 返信・引用

暑中お見舞い申し上げます

お元気で活躍の様子何よりです。

まだまだ、塩気が恋しいようですね！

また楽しみに拝読させていただきます、

当地は、早々に梅雨が明け宣言です  
梅雨らしい雨も降らずにです

いよいよ猛暑の季節です、  
涼しい北の大地がうらやましいです。

一層のご自愛お祈り申し上げます

■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2013年1月17日(木)22時22分50秒 返信・引用  
> No.855[元記事へ]

> くしろーOBさん

こんばんは。

> 地の果ての港は、こうでないといけませんね！

最近船から離れていますので、たまに朝の港へ行ってきました。やはり港の空気はいいものですね。

それにしても船にとって氷はやっかいな存在です。景色として楽しむ分にはいいんですけどねえ。

> 久々に、スコップを借りて駐車場の雪投げをしました、

あまりご無理はならないように…… お互い(笑)年ですからね。



■(無題) 投稿者:くしろ一OB 投稿日:2013年1月17日(木)21時27分39秒

返信・引用

久々の酷寒の港、胸が熱くなる光景  
地の果ての港は、こうでないといけませんね!

わが青春の遠き思い出です!  
東京も、負けずに?寒い毎日です、

久々に、スコップを借りて駐車場の雪投げをしました、  
ほんの少しでも、東京は大騒ぎです、面目ない!

北の大地に比べれば、しゃらくさい大雪騒ぎです。

■Re: 来年もよろしく 投稿者:薄氷堂 投稿日:2012年12月27日(木)23時31分53秒

返

信・引用

> No.853[元記事へ]

>くしろ一OBさん

どうもありがとうございます。

今年の冬は雪が多く、寒さもきびしくなりそうです。いくら寒くたって雪かきさえなければ平気なんですけど、いやな予感がいたします。

> 最後の止めは、出戻りの ポンポン、

だれのことかと思ったら、あの人のことですね(笑)。Plain living とも high thinking とも無縁のお方。物価は上がる、収入は下がる……どうもそんな世の中になりそうですね。

> 我ら年寄の生活は質素だが思い高遠でありたいと、

高遠はむずかしいかもしれませんが、質素は簡単。どうせ食欲も衰え、ほしいものもだんだん少なくなってきましたからね。

問題は若い人々ですよ。若者が苦しい生活を強いられているのでは景気の回復は望めませんから。なんでもかんでも自助努力というのは、一見もつものようですけれど、それじゃ政府はなんのためにあるんだ、えらそうなことをいうあんたはおのれの力だけで政治家になれたのか、という話ですよ。

そんなわけで、来年もまた心おだやかに暮らすのはむずかしい年になりそうですが、怒りを忘れて老けこむよりはマシかもしれませんね……お互いに。

■来年もよろしく 投稿者:くしろ一OB 投稿日:2012年12月27日(木)21時05分8秒 返信・引用

今年も残り少なくなりました。  
毎日ご苦労様です、たのしく拝読しております。

今年も、世の中自分勝手の賑わいで、  
箸にも棒にもかからない 柔な世代で

最後の止めは、出戻りの ポンポン、  
増々、ハイになって、奇声を挙げてるが、いつプンするか心配です、

せめてこのくらいの精神で頑張ってもらいたいものである。

" Plain living and high thinking"

われら何れの方に慰めを求むべきやをしらず  
今われらが生活は外観のために飾られたるに過ぎざるを、  
思えばあまりにも腹立たしい

我ら年寄の生活は質素だが思い高遠でありたいと、  
来年もこの精神で頑張ります。

久々の冬釧路の港思い出します よいお年を！

■Re: こんなもん 投稿者:薄氷堂 投稿日:2012年11月4日(日)23時17分18秒 返信・引用  
> No.851[元記事へ]

> 麦穂亭さん

> プロでは無いのであるから  
> 本人が良ければ、視聴者は無視である。

これこれ、聴衆を無視してはいけません。アマチュアといえどもきびしさは必要。

それにしても、どんな音色なんだろうね？ ちょいと気になるから、来年の発表会には招待券を送っていた  
だこうかなあ(笑)。

さだまさしはどうでもいいから、ブラームスのソナタでも聴きたいところですね。さあ、練習、練習。

■こんなもん 投稿者:麦穂亭 投稿日:2012年11月4日(日)08時14分53秒 返信・引用

和弦会の発表会が終わった。

僕は、タイスの瞑想曲 by マスナー と

北の国から by さだまさし の2曲。

合奏は星に願いをでした。

難解な部分を旨く乗り越えたら

簡単な部分で、ミスりました。

まあ、こんなもんか！

プロでは無いのであるから

本人が良ければ、視聴者は無視である。

■Re: チョイと面白いものを 投稿者:薄氷堂 投稿日:2012年11月3日(土)09時26分58秒 返信・引用

> No.849[元記事へ]

> 三友亭主人さん

封切前の公開、まことにありがとうございます。

おやおや、これはまたずいぶん愛嬌のある狛犬ですね。沖縄のシーサーにそっくり。

三友亭さんの写真のものほどかわいらしくはありませんが、京都の浄福寺境内で撮った狛犬をごらんください。なんとなく近い系統のものじゃないかと思えます。

それにしても、お寺の境内の十一面観音を祀ったお堂の前に狛犬というのはおもしろいですね。



■チョイと面白いものを 投稿者:三友亭主人 投稿日:2012年11月2日(金)23時23分33秒 返信・引用

あと一回は春日大社周辺のことを書く予定があるので、この写真をアップするのが先になっちゃうんで、薄氷堂さんだけにお先に・・・ひとつ。

先週行ったとある神社の狛犬さんです。

何処の神社かは・・・ブログの方をお楽しみに。



■Re: CM ごとき 投稿者:薄氷堂 投稿日:2012年7月11日(水)22時50分11秒 返信・引用  
> No.847[元記事へ]

> 麦穂亭さん

見ましたよ。映像学部の学生がわざわざ大垣まで行ったというのはすごいね。

> 勿論、無料で。

無料でCMを作ってもらったのなら、パンの色がどうのと文句はいえませんが(笑)。わが家の小松菜もCMを作ってもらおうかな。

ぼくの感想をいうと、主役級のパンは袋から出して見せたほうがいいんじゃないだろうか。となりに湯気の立つ紅茶なんぞを置いてね。

2のつくパンの日に行って写真を撮ってあげましょうか？ 心配いらないよ、無料だから(笑)。でもパンはごちそうしてね。ビールを出せとまでは申しませぬ。

■CMごとき 投稿者:麦穂亭 投稿日:2012年 7月 11日(水)07時 35分 35秒 返信・引用  
映像何とかの卒業制作でCMを頼まれた。

勿論、無料で。ユウチュウで「大垣モンブラン」

検索して観て下さい。パンがいかにも、食欲を

そそらない色だと感じるのだが・・・

■Re: 暑中見舞い 投稿者:薄氷堂 投稿日:2012年 7月 4日(水)21時 02分 51秒 返信・引用  
> No.845[元記事へ]

>くしろーOBさん

> 暑中お見舞い申し上げます

どうもありがとうございます。

今日は天気予報が良いほうに外れて、青空が出ました。春採湖の景色もすっかり夏らしくなりましたよ。

> いよいよ当地、酷暑と節電の季節が始まる夏近き、対策に思案中です

ほんとうに原発事故以来とんでもないことになりましたね。放射能もまだ出っぱなしのようですし。

どうですか、夏場だけでも釧路に長期滞在というのは？ 最近そういう方が少しずつ増えてきているようですよ。

> 晴耕雨読のうらやましい？毎日、

残念ながら、とてもそんな澄み切った心境ではありませんが、地味に堅気の生活を送っていることだけはたしかです。

そちらはこれから暑さ本番。どうかくれぐれもご自愛されますよう。



■暑中見舞い 投稿者:くしろ一OB 投稿日:2012年7月3日(火)22時32分21秒 返信・引用  
暑中お見舞い申し上げます

いよいよ当地、酷暑と節電の季節が始まる夏近き、対策に思案中です

北国通信は、都塵にまみれた小生にとっては、  
清涼な風？のような、日報を読ませて頂き、  
昔を懐かしく楽しんでおります。

晴耕雨読のうらやましい？毎日、  
足元おきおけ励みください。

平成24年 夏（今だ梅雨中ですが）

■Re: 金環日食 投稿者:さとう 投稿日:2012年5月27日(日)22時52分25秒 返信・引用  
> No.843[元記事へ]

FL200mm F4.5 というレンズをいただきました。アダプタで LUMIX に付けてます。

連続写真は私のオリジナルです。リンク先の方に撮影データが書いてありますが、これはフィルムで撮っています。連続写真を撮った人は多数いたと思われるので、たまたま似ていたのでしょうか。

■Re: 金環日食 投稿者:薄氷堂 投稿日:2012年 5月 27日(日)00時 24分 17秒 返信・引用  
> No.842[元記事へ]

> さとうさん

> すっかりご無沙汰しております。お元気でいらっしゃいますか。

どうもありがとうございます。ほんとうにお久しぶりですね。おかげさまで無事生きております。

> 昔の MF 単焦点レンズは、

> ・ピントリングを回しきったところが無限遠となっている

これ、実はたいへん便利なんですよ。ある程度絞って無限遠あたりにあわせておけば、待ち時間ゼロ秒でシャッターを切れますから、オートより高速(笑)。ぼくもときどきそういう使い方をしていました。

濃霧の中で遠くに船の影が見えるときなどはこの方法にかぎります。オートでは別の目標にピントを合わせてロックするしかありませんからね。

> こちらの HP にもまとめました。

LUMIX に装着したということはアダプタをお持ちなんですね。レンズは FD じゃなくて FL でしたっけ？

ほんとうによく撮れていますよ！

ところで連続写真のほうですが、TV で同じものを見たような気がします。さとうさんの写真じゃないかと思いますが。

釧路においでになったらお会いしましょう。お声をかけてください。時間はたっぷりありますので。

■金環日食 投稿者:さとう 投稿日:2012年5月26日(土)20時52分22秒 返信・引用  
すっかりご無沙汰しております。お元気でいらっしゃいますか。

先日頂戴しましたキヤノンのFLシリーズ望遠レンズで撮ったということもありまして投稿します。1966年のレンズのようです。

最新のAFズームレンズは、

- ずっと空を向けていると自重で焦点距離がずれてくる
- フォーカス駆動の都合上、無限遠以上まで回ってしまいピント合わせが難しい

昔のMF単焦点レンズは、

- ピントリングを回しきったところが無限遠となっている

ということで、使わせていただいた次第になります。蛍石や低分散ガラスを使った最新の望遠レンズと違って色収差などが見られますが、200mmでこれだけ写ったので満足しています。





こちらの HP にもまとめました。

[http://homepage1.nifty.com/freude/eclipse120521\\_tky/](http://homepage1.nifty.com/freude/eclipse120521_tky/)

■Re: よくある写真 投稿者:薄氷堂 投稿日:2012年 3月 21日(水)17時 22分 33秒 返信・引用

> No.840[元記事へ]

> 白樺台さん

あ、このワンコは知っていますよ。

> 撮影会来てください～♪

お誘いくださってありがとうございます。でもぼくみたいなヤボな男がお邪魔しては場違いですから、遠慮させていただきます。

■よくある写真 投稿者:白樺台 投稿日:2012年 3月 20日(火)20時 17分 6秒 返信・引用  
撮影会来てください～♪



■Re: 2009-3-11-春採湖 投稿者:薄氷堂 投稿日:2012年3月2日(金)23時09分14秒 返信・引用

> No.838[元記事へ]

> 白樺台さん

> 今年はいつ頃溶けそうですか。

雪が多くて寒いのは温暖化のせいだと言い張る学者もいるようですが(笑)、どっちでもいいから早く春になってほしいと願っています。

2枚目の写真、うらやましいですね。ぼくなんか間抜けなカモメを撮っているんですから。このおねえさまを春採湖の氷上で撮るのもおもしろいかと。

最近すっかり根性がなくなって、春採竜神も遠くから拜むだけ。ダメですねえ、これじゃ。春が来たら心を入れ替えて、あちこち行きたいなと思っています。



■2009-3-11-春採湖 投稿者:白樺台 投稿日:2012年3月2日(金)16時49分30秒 返信・引用

今年はいつ頃溶けそうですか。

■Re:(無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2012年2月17日(金)23時58分19秒 返信・引用  
> No.836[元記事へ]

> 三友亭主人さん

> ありがた〜〜〜い、映像をどうぞ・・・合掌

思わず、へへー、とひれ伏しました。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2012年2月17日(金)21時56分20秒 返信・引用  
先日、久しぶりに東大寺に行ってきました。

ありがた〜〜〜い、映像をどうぞ・・・合掌

■Re:(無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2012年2月16日(木)09時18分12秒 返信・引用  
> No.834[元記事へ]  
> 三友亭主人さん

どうもありがとうございます。紀行文は大好きなので、WORDに文書として取り込みました。じっくり読んでみます。

> けはひ坂とてさがしき(険しい)坂

写真を添付しておきます。宣長大先生がテクテク歩く姿を想像するのは、なんとなく愉快ですね。



■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2012年2月14日(火)23時05分43秒 返信・引用  
なほ山のそはちをゆき／＼て初瀬ちかくなりぬれば、むかひの山あひよりかづらき山・うねび山などはるか  
に見えそめたり。よその國ながらかゝる名どころは明くれ書にも見なれ歌にもよみなれてしあれば、ふる里び  
となどのあへらんこゝちして、うちつけにむつましく覺ゆ。けはひ坂とてさがしき坂をすこしくだる。此坂路より  
はつせの寺も里も目のまへにちかくあざ／＼と見わたされたるけしきえもいはず。大かたこゝ迄の道は山ぶと  
ろ(\*ママ)にてことなる見るめもなかりしに、さしもいかめしき僧坊・御堂のたちつらなりたるをにはかに見つ  
けたるは、あらぬ世界に來たらんこゝちす。よきの天神と申す御社のまへにくだりつきて、そこに板ばしわた  
せる流ぞはつせ川なりける。むかひはすなはち初瀬の里なれば、人やどす家に立入て、物くひなどしてやす  
む。うしろは川ぎしにかたかけたる屋なれば波の音たゞ床のもとにとゞろきたり。

・・・宣長の菅笠日記です。松阪の地から大和へと向かう途中、初瀬の辺りにたどり着いた時の記事かと思  
います。このように私も書いてみたいと思いますが、なかなかねえ・・・

[http://www2s.biglobe.ne.jp/~Taiju/1772\\_sugagasa.htm](http://www2s.biglobe.ne.jp/~Taiju/1772_sugagasa.htm)

■Re: 与喜の天神さん 投稿者:薄氷堂 投稿日:2012年2月14日(火)12時36分33秒 返  
信・引用 編集済  
> No.832[元記事へ]

> 三友亭主人さん

ご指摘に基づき、もう一度地形図と見くらべてみました。

するとやはり神社の位置がちがうようです。地形図の神社マークは明らかに山頂にあり、与喜浦天満宮は  
二つの上り坂が合流した地点、つまり集落に入つてすぐのところに位置します。(略図ご参照)

とすれば、S君の撮影した写真は、おっしゃるとおり「愛宕神社」にちがひありません。念のため正面から社  
を撮影した写真(添付のとおり)と、ご紹介いただいたサイトの写真はびつたり一致いたします。

また地形図を目を皿のようにして見たところ、集落を示す斜線内にも神社マークがありました(たいへん見  
にくいので、見落としたのも無理はないかと)。これに気づけば間違いを避けられたのですが……

S君は神社名をメモしていませんでしたから、私の早とちりです。さっそく訂正させていただき、関連する  
箇所をすべて書き直しておくことにします。

それにしても不思議なのは、大正時代の地形図にも記載されているほどの神社が、今日の地図では無視  
されていることですね。

ご教示たいへんありがとうございます。



## 長谷寺付近略図

JTB『詳細地図 奈良 大和路』  
p. 89 の地図をもとに作成



■与喜の天神さん 投稿者:三友亭主人 投稿日:2012年2月14日(火)10時42分21秒 返信・引用

今回の横大路から初瀬街道への記事、とても興味深く詠ませていただきました。地元に住んでいながらついつい見落としてしまいがちなところをつぶさにご報告いただいてまことに勉強になりました。

ところで・・・少々しつこいようですが、例の天神さんの件です。与喜浦の天満宮が私にも未知のお社だったので、少々調べさせていただきました。ネット上のあちらこちらの地図サービスにあたってみてもなかなか見あたらず、ようやく見つけたのがMapFan。しかしながら、ここでの所在は化粧坂の途中ではなく与喜浦の集落にあるもの。

<http://www.mapfan.com/m.cgi?MAP=E135.54.34.811N34.31.57.446>

それでは記事中にあるお社は？・・・とあちらこちらのweb上の記事を探したところ下記のサイトに突き当たりました。

<http://ks5224.fc2web.com/os04hp/os04-1.html>

そしてその中のスライドショーによれば記事中のお社は愛宕神社とのこと・・・

<http://ks5224.fc2web.com/os04hp/os-04-3ph.html>

なにせいずれのお社も地図にも、世の好事家の神社ファンのサイトにも収録されないようなお社のこと、このサイトの管理人のおっしゃっていることが正しいとは私も信じ切ることが出来ませんが(自分で歩いてみて確かめるのが最も確実ですが何しろこの気候なので・・・)、とりあえずご参考までに・・・

■Re: 薄氷 投稿者:薄氷堂 投稿日:2012年2月5日(日)22時51分14秒 返信・引用  
>白樺台さん

お元気ですか？

薄氷の写真、どうもありがとうございます。師匠もお年のせいか(笑)  
渋い写真をお撮りになりますね。

> 厳しい寒さ続いただけに、今日はあったたかったですね♪(@^ー^@)ノ

ほんとうに今日は暖かい一日でしたが、用事があってちょっと外出したくらいで、ほとんど部屋の片づけなんかをやっていましたので、写真は撮りませんでした。

春はまだ遠いですね。

■薄氷 投稿者:白樺台 投稿日:2012年2月5日(日)18時29分33秒 返信・引用  
おひさしぶりです y(^-^y

釧路にいながら初めて薄氷、撮影しましたので記念はりこします。

厳しい寒さ続いただけに、今日はあったたかったですねヽ(@^ー^@)ノ



■Re:(無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2012年1月16日(月)22時42分9秒 返信・引用  
> No.828[元記事へ]

> 三友亭主人さん

どうもありがとうございます。

写真を拝見しますと、石巻のみなさんも落ち着きを取り戻したようですねによりです。

> さて私が気が惹かれたのは上から何番めの写真でしょうか・・・?

> 石巻という町の文化水準の高さを知らしめるようなそんな写真です。

まさか団子屋さんの写真じゃありませんよね(笑)。

いや、どうも恐れ入りました。支配人さんは80歳ですか。ご立派です。エロ映画もれっきとした文化ですからね、震災を乗り越えて上映再開された心意気やよし。たしかに文化水準高いですよ。

そういえば、京都ではどうも八千代館が閉鎖されたらしく、あと思い浮かぶのは千本日活くらいかなあ。西

陣京極のユニークな映画館はどうなったことか……調査に行かねば(笑)。



■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2012年1月16日(月)21時04分47秒 返信・引用  
編集済

最近ちよくちよくお邪魔している被災地石巻の様子を伝えているサイトに興味深いちよいと気をひく写真が載っていました。

<http://shinyousha.com/ishinomaki-photo/2012/01/2012newyear.html>

さて私が気が惹かれたのは上から何番めの写真でしょうか…?  
石巻という町の文化水準の高さを知らしめるようなそんな写真です。

■Re: 今年もご苦労様でした 投稿者:薄氷堂 投稿日:2011年12月18日(日)23時19分17秒  
返信・引用

> No.825[元記事へ]

> くしろーOBさん

ごぶさたしております。ほんとうに一年はあつという間ですね。

> 今更、放射能はこわくはないが、税金どりのほうが恐ろしい、

お互い年だから(笑)怖くはないですけど、こどもたちが心配です。

おっしゃるとおり、税金やら健康保険やら、特に退職直後の一年は重すぎますね。このうえ消費税を上げようというのですから、不況の長期化は避けられないと思います。先にやるべきことがあるでしょうに。

> ”二引き”の旗よ 釧路の港にいつまでも！

ほんとうにぼくもそう願っております。



■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2011年12月18日(日)23時02分48秒 返信・引用  
> No.824[元記事へ]

三友亭主人さん

> 「うま酒」か「三輪」枕詞ですからかつての三輪は有名な酒造地。

それは楽しみです。確かめにいかなくちゃ(笑)。

うまさけの三輪の山の遠ければ蝦夷の酒飲み鱈を食ふわれ

> こんこんと湧き出づるのは酒造好適水

これは納得です。やはり水がいいからうまい酒ができるわけですね。

■今年もご苦労様でした 投稿者:くしろ一OB 投稿日:2011年12月18日(日)21時09分24秒  
返信・引用

天災人災 天変地異の一年でした。

年明け早々、天孫降臨で新燃岳の爆発から始まり

地震津波に台風水害と目まぐるしい災難、

放射能と、どうにもならない無能政治のたらい回し、

何がなんだか わからずに、おろおろの一年でした。

来年に期待はしないが、年寄いじめはやめてほしいものです。

今更、放射能はこわくはないが、税金どりのほうが恐ろしい、

道東釧路も天気予報ばかりじゃ少々さびしい限り、来年は？  
道東新聞に期待したい。

”二引き”の旗よ 釧路の港にいつまでも！

YKU ご苦労様でした。

■Re: (無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2011年12月8日(木)21時18分5秒 返信・引用  
> No.822[元記事へ]

> 薄氷堂さん

> 残念ながら手水からお酒は出ていませんねえ。

「うま酒」か「三輪」枕詞ですからかつての三輪は有名な酒造地。

ということはその醸造のために使われていたのはこの山麓にこんこんと湧き出づるのは酒造好適水・・・お酒になる手前のものでしかありませんが、これでよろしかったら・・・

■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2011年12月5日(月)18時19分27秒 返信・引用  
> No.821[元記事へ]

> 三友亭主人さん

ありがとうございます。ご投稿に気づくのがすっかり遅くなり、まことに申し訳ありません。

清酒の銘柄ですが、見たことのないものが多いですね。ウスキーの樽にはビックリです。

いつも思うんですけど、酒樽にはタップというか蛇口をつけておいてほしいものです。神様いただきます！  
とって、飲み放題(笑)。

あるいは社の裏手に養老の滝があったり、手水からこんこんと酒が湧き出たりすれば、めでたくてなによりなんですが……

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2011年11月29日(火)22時35分51秒 返信・引用  
先日申し上げた大神神社へ供えられた酒樽の数々です。  
一つ目が全体像・・・そして二つ目は問題の部分の拡大です。

オールド・・・学生の頃はこんなお酒飲めなかったなあ・・・



■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2011年 8月 20日(土)21時 57分 12秒  
> No.819[元記事へ]

返信・引用

>三友亭主人さん

ほんとうにみごとな群落ですね。これなら毎年鑑賞したくなるのも無理はありません。

TVで政治家たちの品のない顔を見るより百倍はマシかと……

奈良は一度ゆっくり歩いてみたい土地です。歩きながら植物もね。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2011年8月20日(土)07時40分16秒  
編集済

返信・引用

毎年、この時期になると見に行きます。

藤原京は本薬師寺跡のホテイアオイ。

今から10数年前この道を通りかかってこの群生を見たときにはびっくりしたものでした。

そのうちブログの方にも書こうと思っているのですが、まだ順番が回ってきません。





■Re: 藤原京の蓮 投稿者:薄氷堂 投稿日:2011年 7月 18日(月)20時 57分 46秒 返信・引用  
> No.817[元記事へ]

> 三友亭主人さん

> しばし極楽浄土の気分にあひたって参りました。

なるほど浮世離れた世界ですね。でも極楽はずいぶん暑かったんじゃないですか？

こちらはちょうどいい気温。極楽特別地域といったところでしょうか。



■藤原京の蓮 投稿者:三友亭主人 投稿日:2011年 7月 18日(月)08時 31分 21秒 返信・引用  
今朝早くから蓮を見に行ってきました。

場所は藤原京・・・大極殿跡の東南 500m ほどのところ。

しばし極楽浄土の気分にひたって参りました。



■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2011年6月12日(日)22時59分34秒 返信・引用  
> No.815[元記事へ]

>三友亭主人さん

これはみごとなユリですね。どうもありがとうございます。

硬質な感じのクロユリとはずいぶん印象がちがいますね。ユリの名は?……三友亭さんの記事を待ちましよう。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2011年6月12日(日)20時33分3秒 返信・引用  
このまえのクロユリのお返しです。  
詳しくは今度の「三友亭雑記」で……



<http://soramitu.net/zakki/>

■Re: 石釜、初火入れ 投稿者:薄氷堂 投稿日:2011年5月23日(月)21時21分6秒 返信・引用  
> No.812[元記事へ]

麦穂亭さん

石釜で焼くパンとはどんな味でしょうか。ピザも焼けるのかな?

ちょっと写真のサイズが小さすぎて釜のしくみがよくわからないけど、機会があったら試食を希望します。

ビールくらいは提供しますから、どうかよろしく。

■石釜、初火入れ 投稿者:麦穂亭 投稿日:2011年5月23日(月)13時46分53秒 返信・引用  
かねてより、手作りの石釜完成で  
初めての 火入れ式。一度に高温にしないで  
二~三度かけて 少しずつ上げていく。



■Re: 無言の行 投稿者:薄氷堂 投稿日:2011年5月19日(木)20時10分25秒 返信・引用  
> No.810[元記事へ]

> 麦穂亭さん

そうでしたか。ご冥福をお祈りします。

「無言の行」とはまた深い教えですね。ぼくも肝に銘じなくては。

■無言の行 投稿者:麦穂亭 投稿日:2011年5月19日(木)15時14分11秒 返信・引用  
5/11 午前4時43分 母が死んだ。13日友引の為、11日午後7時通夜、12日午後1時告別式  
喪主を務め、挨拶で、母の葬式ですから、母がどんな人だったかをお伝えした。  
出来の悪い私に「無言の行」を何度も教えてくれた。自分を正当化せんが為、言い訳を言おうとすると 口  
に人さし指をつけ「無言の行」と必ず私に言っていた。無言になることによって精神を落ち着かせ自分の心  
と向き合う為だと 母が無くなってから、今更意味が解った。

■Re: つなみ お見舞い 投稿者:薄氷堂 投稿日:2011年3月12日(土)21時01分37秒 返  
信・引用  
> No.808[元記事へ]

> くしろーOBさん

どうもありがとうございます。東京も電車が止まるなど大変だったようですね。

> 大和魂で、復興せねばならん！

これほどの災害なのにおおげさに泣きわめく人もいないし、住む家を失っても冷静に耐えている人々を見れば、日本人も捨てたものではありませんね。先の敗戦からみごと立ち直った国民ですから、必ずや復興するものと信じております。

> 気を付けて、職務に励むこと期待する。！

これが最後のご奉公というところでしょうか。最近あまり馬力はありませんが、できるだけことはするつもりです。

■つなみ お見舞い 投稿者:くしろーOB 投稿日:2011年3月12日(土)19時18分5秒 返信・引用

北日本は大変な状況、  
今の日本の生き写しとなつた。  
大和魂で、復興せねばならん！  
大和民族の精神で頑張るときである。  
気を付けて、職務に励むこと期待する。！

■Re: 西港歴史消える！ 投稿者:薄氷堂 投稿日:2011年3月6日(日)21時39分41秒 返信・引用

> No.806[元記事へ]

> くしろーOBさん

> 西港名所もなくなるか！

> 感無量である。

おお、超ローカルニュースであるチップヤード取り壊しの記事にレスをいただけるとは感激です。

> 東端の港の開花を期待する。

応援ありがとうございます。もっとも港が開花する前に、ぼくはしぼんでしまいそうです(笑)。

■西港歴史消える！ 投稿者:くしろ一OB 投稿日:2011年3月6日(日)20時40分40秒 返信・引用

また、歴史消え去るか！  
寂しい限りです。  
時の流れとはいえ、  
西港名所もなくなるか！  
感無量である。  
梅花を見ながら、  
遥か東端のチップの山を思い出しております。  
東端の港の開花を期待する。

■Re: ふらふらと 投稿者:薄氷堂 投稿日:2011年3月4日(金)20時25分56秒 返信・引用  
> No.804[元記事へ]

> 白樺台しゅきっこさん

おお、師匠、いらっしゃい。最近とんとマチでおみかけしませんね。

いい感じの写真ですね。やはり夕日だけの写真はあまりおもしろくないとぼくは思っています。プラスアルファが必要ですよね。さすがです。

特に線路なんか取り合わせとしてはいいですね。こいつがあるとぐっときます。でも……露出にはいつも悩みますが。

■ふらふらと 投稿者:白樺台しゅきっこ 投稿日:2011年3月4日(金)18時46分8秒 返信・引用

こんばんわ。  
ハードディスク整理してたら出てきました。  
2007年12月頃かな。  
弥生中学校の裏側に惹かれてふらふらと。  
もう手前の廃屋は潰れてるかな。



■Re: いつのまにか 投稿者:薄氷堂 投稿日:2011年1月23日(日)09時17分18秒 返信・引用

> No.800[元記事へ]

> 白樺台さん

お久しぶりです。すっかりごぶさたしていますが、お元気そうだなにより。

> 建物が変わっていました。

え〜と、富士見でしたっけ。ぼくも一枚くらい写っているのがあ  
るかもしれませんが、探すのが大変(笑)。

> 記録しておいて良かった。ホッ(\*^▽^)/\*\*\*

ほんとに記録は大切ですね。ぼくもゴミみたいな写真ばかりた  
くさん撮りましたが、近いうちに見直して、「十年一昔」というシ  
リーズにまとめようかと思っています。リサイクルですね。

いずれ自由時間ができるようになったら、地方取材のお供にでも  
連れていってください。

■いつのまにか 投稿者:白樺台 投稿日:2011年1月22日(土)22時36分1秒 返信・引用  
建物が変わっていました。



記録しておいて良かった。ホッ(\*^▽^)/\*\*\*

PS

お久しぶりでした。

前回、アップしようと思ったら。偶然過ぎにメンテナンス中でした！ビックリ！

来年もよろしく願います y(^-^y

■Re: ご苦勞さまでした 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年12月31日(金)21時26分56秒 返信・引用

> No.798[元記事へ]

>くしろーOBさん

どうもありがとうございます。来年も二引の船が入港したら必ず写真を撮りますので、どうかご期待ください。

機会がありましたらぜひ釧路へ。

ぼくが上京したらホッピーをおごってくださいね(笑)。

■ご苦勞さまでした 投稿者:くしろーOB 投稿日:2010年12月30日(木)20時47分11秒 返信・引用

今年も 道東通信、楽しませて頂きました。

明年もよろしく！

OBもだんだんと潮香が抜けて、思い出も又

水平線の彼方へ消え始めております。  
東端の二引きを消さぬよう頑張ってください。  
寒冷の瀬、御身ご自愛の上、よい新年をお迎えください。

■Re: 今年の大事件 スズメバチ 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年12月29日(水)21時53分5秒  
返信・引用

> No.795[元記事へ]

> ヌタックさん

> 8月にこの憎いスズメバチに中指とふくらはぎの二箇所刺されました

さきほど電話でお聞きしてビックリしました。よくまあご無事で。

> 我が庭にこの様な巣(直径15cm)できているとは夢にも思いませんでしたよ

草深い田舎にお住まいだと(笑)いろんなことがありますね。

> ではよいお年を・・・。

どうもありがとうございます。来年はスズメバチに刺されぬよう  
くれぐれもお気をつけて。

■Re: 石杭と花 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年12月29日(水)21時48分25秒 返信・引用  
> No.794[元記事へ]

> ヌタックさん

> ご無沙汰しております。

おお、ほんとうにごぶさたですね。しばらくご投稿がなかったので、  
日本に見切りをつけて海外移住でもされたのかと思いましたよ(笑)。

> やつとの思いでバルムのコル(Col de Balme 2191m)に辿り着き

> ほっとした時にこの石杭を見つけました

標高2,000メートル以上といえば、そろそろ呼吸が苦しくなる高さです。  
そんな山道を歩く元気がおありとはうらやましい。

> これがフランスとスイスの国境の石杭とは・・・

これはまたずいぶんシンプルなものですね。ぼくはまだ国境を越えたことがないんですよ。

> これはリンドウににています

俗界を離れて見る植物はすばらしいでしょうね。スイスとはいわなくとも、どこかへ行きたいものです。

■今年の大事件 スズメバチ 投稿者:ヌタック 投稿日:2010年12月29日(水)21時43分52秒  
返信・引用

8月にこの憎いスズメバチに中指とふくらはぎの二箇所刺されました

薄氷堂さんにはあなたの所はすごい田舎ですねと言われました

我が庭にこの様な巣(直径15cm)できているとは夢にも思いませんでしたよ

ベランダ? 窓から1mの通路のツツジの中にありました

スズメバチの死骸の左側にあるのがひょっとして女王蜂か・・・

ではよいお年を・・・。



■石杭と花 投稿者:ヌタック 投稿日:2010年12月29日(水)20時36分15秒  
編集済

返信・引用

ご無沙汰しております。

あつと言う間に今年もあと二日です。

この写真は昨年のツール・ド・モンブラン(T.M.B.)での最終日、長い上り坂を登り

やっとの思いでバルムのコル(Col de Balme 2191m)に辿り着き  
ほっとした時にこの石杭を見つけました

これがフランスとスイスの国境の石杭とは・・・この裏側は当然S字です  
この 1891 は何でしょうね？ 標高で無いはずですが・・・年号？

ツール・ド・モンブラン(T.M.B.)で幾つかの国さかいを通かしたがこの石杭をはじめてみました

ここはモンブランとシャモニ(Chamonix)の谷が見渡せる絶好の場所でした

今は格好のスキー場でしょうね

これはリンドウににています



■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年12月27日(月)23時18分4秒  
> No.792[元記事へ]

返信・引用

>三友亭主人さん

どうもありがとうございます。大和の雪景色、いいですね。

> こんなに白くなるのは、大和では非常にめずらしいことなんですよ。

ぼくの髪も三輪山の雪のように白くなってきました。困ったことに、この雪は融けないんですよ(笑)。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年12月27日(月)22時16分38秒  
いつもとはちょっと違う角度からですが、三輪山です。

返信・引用



こんなに白くなるのは、大和では非常にめずらしいことなんですよ。

■Re: 年賀状 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年12月3日(金)20時27分45秒  
> No.788[元記事へ]

返信・引用

>hirosima 山本さん

ごぶさたしております。

日曜出勤があたりまえになると、仲間とスケジュールが合いませんから  
たいへんだらうとお察します。

しかしものも考えようでして、ぼくなどはむしろ平日に休んだほうがう

れしいんです。みなさんせつせと働いているときにブラブラしているのは愉快です(笑)、どこへいっても混雑していませんし、すぐトクをした気分になるのです。

> BIKE 仲間には R10 でとった「昨年」のオフロードレースの写真、やはりイベント系の楽しみを求めると平日休みは辛いわけです。

なるほど、そういうご趣味をお持ちですとねえ。でも昔の剣術使いだつて山の中で一人修行に励んだのですから、どうか当分は孤高の一匹狼として腕を磨いてください。

■年賀状 投稿者:hirosima 山本 投稿日:2010年12月2日(木)19時18分14秒 返信・引用  
お久しぶりです。  
広島県のやまもとです。

長らく書き込みしてませんでしたのは、職業が忙しくなり(薄利多売とも言う・・(^^);)

日・祝 稼働になりまして、旅行仲間とも、BIKE 仲間とも疎遠になりまして、隠遁してふてくされておりました。当然、写真機の出番もなく。

でも、平日休みも慣れてきますとどこにいてもすいています。

あんま屋も散髪屋も予約無しで入れます。

ただ、年賀状は・・・思い出の写真を載せてましたけど今年は??



BIKE 仲間には R10 でとった「昨年」のオフロードレースの写真、やはりイベント系の楽しみを求めると平日休みは辛いわけです。

ソロツーリングも、やりすぎるとネタがつきてまいります。

散髪屋さんに平日休み人種?の生きがい?をご教示ねがわねば...

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年11月12日(金)22時36分8秒  
今日、出勤の途中右手を見ると...

返信・引用



三輪山の夜明けです。

もう少し待てば、登り初める朝日をおさめることが出来たのかも知れませんが、何せ出勤の道すがらなので...これ以上は待てませんでした...

なにしろ...

こちらは日の出がそちらより4、50分は遅いのでねえ...

■Re:(無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年10月12日(火)20時13分5秒  
> No.781[元記事へ]

返信・引用

> 三友亭主人さん

なるほどこれはしゃれていますね(笑)。

> これじゃあ用が足せない...

裏へ回ったら悪人専用の入口がありやしませんか?

もっとも真宗のお寺だと、ほんとうに救済が必要な悪人

用トイレがあるかもしれませんね。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年10月10日(日)22時59分6秒  
どうでしょう・・・この写真。

返信・引用



今日、薬師寺に行ってきたのですが、小用を果たそうとするとトイレにはこんな看板が・・・

これじゃあ用が足せない・・・

■Re:(無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年10月5日(火)22時13分5秒  
編集済

返信・引用

> No.779[元記事へ]

> 三友亭主人さん

> 朝からカップヌードルですか・・・達者だなあ、

いえ、達者なわけではありません。朝飯抜きで早出して事務所で食べられるもの  
といえば、そんなものしかないわけでして。

カップヌードルは二十世紀の大発明ですね。相対性理論よりすごいんじゃないか  
と思います(笑)。

> なぜか、ブログの方のコメント欄では以下の内容の文がスパムとして判断されてしまうようです。仕方がな  
いから、こちらの方におじゃまさせて頂きました。

あのスパムブロックは実際困りものなんです。先日も「裸体像」という単語でみごとに引っかかりました。特高警察じゃあるまいし、ほんとに余計なお世話です。

> …ところで、今日アップした私の記事に、このブログのこと、勝手に書いてしまいました。了承を得てからと思ったのですが、つい、勢いに乗ってしまって…

> どうもすいません。

いちいち了解を得る必要はまったくございません。インターネットの世界は自由が命ですから。

もう一二年お待ちください。自由の身になったら、根室までのドライブにおつきあいしますから(笑)。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年10月5日(火)21時48分5秒 返信・引用

麻からカップヌードルですか…達者だなあ、  
なぜか、ブログの方のコメント欄では以下の内容の文がスパムとして判断されてしまうようです。仕方がないから、こちらの方におじゃませて頂きました。

私はカップヌードルは大好きなんです、朝から…というのは…  
連日の見過ぎの疲れた胃にはどうにも重すぎる…

…ところで、今日アップした私の記事に、このブログのこと、勝手に書いてしまいました。了承を得てからと思ったのですが、つい、勢いに乗ってしまって…  
どうもすいません。



■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年9月21日(火)19時38分21秒  
> No.768[元記事へ]

返信・引用

> 三友亭主人さん

どうもありがとうございます。美しい花ですね。

秋とはいっても、そちらはまだ暑いと思いますが、十月になれば散歩にちょうどいい季節になるんでしょうね。

山辺の道、一部でもいいので、いつか歩いてみたいと思っています。ブログ、楽しみに読ませていただきます。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年9月20日(月)22時40分36秒  
今日、やっと明確に「秋」を目にしました。  
場所は山辺の道、中間点・・・長岳寺楼門のすぐ横・・・  
2～3日後からブログの方で・・・

返信・引用



■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年8月28日(土)22時33分57秒  
> No.763[元記事へ]

返信・引用

> 三友亭主人さん

> どうですか、南向きの斜面に立てられたこの貸家。

いいですね。宝くじが当たったら京都・奈良あたりに部屋が欲しいと考えてはいるんです

が、ちっとも当たらないんですよ(笑)。

> ちよいと気が向いたら大神神社へ5分ほど・・・

すばらしい散歩コースですね。神社ファンのぼくにはぴったりかと。

> この二階の窓から外を眺めながら文章を考えれば、太宰ぐらいの文章はあっという間。

窓に吊した風鈴の音を聞きながらビールを一杯、なんてのもオツでしょうね。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年8月27日(金)21時39分27秒 返信・引用  
編集済

旦那・・・旦那・・・

出物ですよ・・・

またとない物件ですよ。



どうですか、南向きの斜面に立てられたこの貸家。

二軒長屋で、最近入居者がいないせいで、前栽はちよいと荒れ加減ですが、この風情・・・なかなかのもの  
でしょう・・・



二階の窓からは大和三山、葛城山、金剛山、そして吉野の山々が・・・

ちよいと気が向いたら大神神社へ5分ほど・・・

・・・と、遊んでみましたが、気に入ってるんですよ。この貸家・・・いいでしょう。

この二階の窓から外を眺めながら文章を考えれば、太宰ぐらいの文章はあっという間。

■Re: カラスウリの花 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年 8月 23日(月)20時 53分 15秒 返信・引用

> No.761[元記事へ]

> さとうさん

> 不審者と勘違いされることを防ぐため、一眼レフを持っていくのはやめて、今回は携帯カメラで撮影。

ご苦勞のほどお察しいたします(笑)。

ほんとにふしぎな花ですね。わざわざ夜開くというのは、夜行性の昆虫を引き寄せるためでしょうか。化粧して着飾った女性のような派手さが、いかにも夜の花らしい(?)といたしますか。

ミヤマニガウリ、ゴキヅル、そしてカラスウリ、みな葉のかたちはよく似ているのに、花がまるでちがうのはたいへんおもしろいことです。

■カラスウリの花 投稿者:さとう 投稿日:2010年 8月 22日(日)22時 15分 49秒 返信・引用

カラスウリの花を捉えました。夜に開花し朝にはしぼんでしまうという珍しい花です。新宿御苑は夜間は入れないので、近所を適当に探したらありました。不審者と勘違いされることを防ぐため、一眼レフを持っていくのはやめて、今回は携帯カメラで撮影。それにしても不思議な雰囲気です。網目状の部分が完全に開くと7センチにもなるとのこと。花が開いていくところは肉眼でもスローモーションのように見えるという噂もありましたが、今回はそこまで詳しく観察できませんでした。



■Re: 残暑お見舞い！ 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年 8月 21日(土)21時 20分 39秒 返信・引用

> No.759[元記事へ]

>くしろーOBさん

今年の初夏は低温でしたが、その後ぐんぐん気温が上がってきましたね。

釧路もふだんより暑いといえば暑いのですが、もちろんたいしたことはありません。北海道でも涼しいのは道東の海岸部だけ、特に釧路・根室は天国ですから、観光するなら行き先をまちがえないように＞全国のみなさま。

21世紀、いよいよ釧路が日本の文化の中心地になるときがやってきました。頭がクラクラして倒れそうになるような土地で文化が発展するはずはありませんからね(笑)。

> おかげで”サンマ様”も高値の魚、今や”サケもイワシもみんな”飛行機で、  
> 船は寂しい昔の遺物か！

サンマは不漁ですから、こちらでもバカバカしく高いです。しかしイカとイワシは獲れていますから安いですよ。今年はイカ刺しを楽しむことにします。

■残暑お見舞い！ 投稿者：くしろOB 投稿日：2010年8月20日(金)23時16分3秒 返信・引用

猛暑でも炎暑でも、どちらでも結構ですが、  
日本中、”真っ赤か”の毎日、そろそろ灼熱地獄も下日なってほしい毎日です。  
おかげで”サンマ様”も高値の魚、今や”サケもイワシもみんな”飛行機で、  
船は寂しい昔の遺物か！  
目黒の”七輪”も待つております！

■Re: (無題) 投稿者：三友亭主人 投稿日：2010年8月17日(火)22時28分38秒 返信・引用  
編集済

> No.757[元記事へ]

薄氷堂さん

> もし機会がありましたらぜひ一献(笑)。

一献で済みますやら・・・(笑)

> 釧路湿原にもおいでくださいね。

北海道には何度か行きました。  
一度目は仕事で・・・札幌の周辺のみでした。

二度目は結婚して妻と  
道南が中心でした。

3度目

これは道央。

4度目道東に行ったのですが網走周辺。

釧路・根室はまだなんです・・・

それと稚内もね・・・

いつかは行ってみたいところです。

・・・きっと・・・

■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年8月17日(火)21時30分49秒

返信・引用

> No.756[元記事へ]

> 三友亭主人さん

> >夜が明けて自分の投稿した文章をみたらなんとまあとんな誤字だらけ。

> 大分アルコールが回ってきてから書いたものですから平にご容赦を・・・

それはお互いさまですから、あまり気になさいますねように。

掲示板の一番下に「自分の投稿の編集・削除」というボタンがありますので、  
どうかご活用ください。

> 大和にお出での齋には是非・・・

>

> タクシー代わりは出来るかも知れません。

タクシー代わりなどと滅相ありませんが、これもなにかのご縁でしょう  
から、もし機会がありましたらぜひ一献(笑)。

釧路湿原にもおいでくださいね。

■Re: (無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年8月17日(火)07時25分41秒

返信・引用

編集済

> No.755[元記事へ]

> 薄氷堂さん

>

> 名前からして夏でも冷たい風の吹く洞窟がありそうな感じですね。杉も立派です。

その通りなんです。背後に迫る山から流れ出る小川が、この神社のすぐ横に流れています。岩がゴロゴロしているんですが、その川を遡って行くと、小さな洞窟があるそうです。

そこが龍穴。

この川の水はそこから流れ出している・・・とガイドブックには書いてあります。

大和にお出での齋には是非・・・

タクシー代わりは出来るかも知れません。

■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年 8月 16日(月)21時 07分 54秒 返信・引用

> No.753[元記事へ]

> 三友亭主人さん

すばらしい神社ですね。神社マニアの血が騒ぎます(笑)。

名前からして夏でも冷たい風の吹く洞窟がありそうな感じですね。杉も立派です。

大和といえば、学生時代に一度奈良市へ行っただけという情けなさ。今思えばずいぶんもったいないことをしました。

ぼくはお寺よりは神社に興味がありますので、大和の神社めぐりをぜひ実現させたいと願っております。ここも行かなくちゃ。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年 8月 15日(日)23時 18分 54秒 返信・引用

大和の国、室生寺をちょっと過ぎたあたりに龍穴神社があります。

その境内にはいると、何か言いしれぬ冷気に覆われるような気がするのですが、その境内に建つ杉の一つです。

後ろにいる人と較べてみて下さい。

そしてお社と較べてみて下さい。

ただただ圧倒されるだけです。



■Re: 東京スカイツリー 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年8月9日(月)08時24分40秒 返信・引用

> No.745[元記事へ]

> さとうさん

どうもありがとうございます。

なるほどマウント・アダプタがあれば昔のレンズを使えるんですね(かなり使いにくいとは思いますが)。古いFLレンズで現在人気のスカイツリーを撮影とはしゃれています。

> 合成樹脂多用の現在のレンズと違って、オールドレンズは金属主体で、質感がいいですね。

昔のカメラやレンズは一般にそうですね。使い込んだものには風格さえ感じられます。オールド人間もがんばらなくちゃ(笑)。

■東京スカイツリー 投稿者:さとう 投稿日:2010年8月8日(日)23時34分15秒 返信・引用

こんばんは。建設中の東京スカイツリーを撮ってみました。譲り受けましたCanon FL200mm F4.5を使ってみました。調べたところ、44年前のレンズなのですね。合成樹脂多用の現在のレンズと違って、オールドレンズは金属主体で、質感がいいですね。



■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年 8月 8日(日)21時02分19秒  
> No.743[元記事へ]

返信・引用

>三友亭主人さん

> 今日は勇気を振り絞って写してみました。

撮影するところを想像して、思わず笑ってしまいました。

なるほど不思議なお店ですね。霊判断ですか。賽銭箱を置いてあるのは  
おもしろいアイデアだと思います……マネしようかな(笑)。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年8月7日(土)21時50分46秒

返信・引用

今日のオア散歩の成果です。

前からよく見かけてはいたのですが、これを写真におさめるのが  
何となく怖い気がして……

今日は勇気を振り絞って写してみました。



前は整体をやっていたらっしゃったんですけどね……いつの間にやら……

■Re:(無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年8月6日(金)21時21分14秒

返信・引用

> No.741[元記事へ]

> 三友亭主人さん

どうもありがとうございます。一面のホテイアオイ、壮観ですね。

牧野新日本植物図鑑には「暖地では非常によく茂り水田、溝、池の中で水にただよい  
害草化する多年生草本」とありますが、わざわざ植えるというのは純然たる観賞用なの

でしょうね。

> 一番下写真は和和三山の一つ畝傍山。

まさに古典文学の世界のただ中に住んでいらっしゃるわけですから、うらやましいかぎりです。

まあ、こちらは古典とは縁がありませんけど、涼しいのは助かります。いまま夜風が窓から入ってきて、とても快適です。

今日から港まつりがはじまりました。面倒だから行きませんが、街には夜店も並んでいます。

今夜はブログはお休み。その代わりに、こちらに今日の一日一枚を貼っておきましょう。港まつりの行事のひとつ、訪船慰問です。花束贈呈ですね。



■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年8月6日(金)05時48分38秒 返信・引用  
毎年楽しみにしているホテイアオイが咲き始めました。

10数年前から休耕田を利用して、近所の若者達が植え始め、最近では小学校までもが関わっているものです。

まだちょっと早いんですが、近くを通りかかったもので、つい・・・



一番下写真は和歌山三山の一つ畝傍山。

このホテアオイが咲いているのは、薬師寺がかつてあった本薬師寺というところ。今は残っていない東塔と西塔の中心部を結んだ線を延長すると、この山の頂上に至り着きます。

そして、この山の頂上を真北に20kmほど。

現在の薬師寺がほぼ正確に位置しています。

■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年7月25日(日)23時13分13秒 返信・引用  
> No.739[元記事へ]

> 三友亭主人さん

カメラをぶら下げて街歩きをするのは愉快ですよ。ただし熱中症にはどうかお気を付けて。

> 古式豊かな酒蔵もあれば、懐かしい銭湯。

酒屋さんは納得の店構えですが、この銭湯はちょっと風変わりですね。こちらではこういう造りはみかけません。

> そして、街にはやや不似合いなモダンな・・・これは薬屋さんです。

モダンとはいっても、古典的モダニズムですね(笑)。味があっていいです。ぼくの好みかな。

さて伝統というのはなかなか強力なものでして、いくらコミュニズムを教育してもごらんのとおり、縁起をかついだ中華デコレーションは根強く生き残っております。



それにしても派手なこと。薬屋さんのモダニズムがワビサビに見えてしまいますね(笑)。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年7月25日(日)21時57分2秒

返信・引用

久々に三輪の街中を歩いてきました。



古式豊かな酒蔵もあれば、懐かしい銭湯。



そして、街にはやや不似合いなモダンな・・・これは薬屋さんです。

■Re: 暑中お見舞い 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年7月16日(金)20時59分42秒 返信・引用

> No.737[元記事へ]

>くしろ OBさん

> 暑中お見舞い申し上げます

どうもありがとうございます。こちらは涼しくて快適です(笑)。今夜は肌寒いほどですよ。さすがは貧乏人の軽井沢ですね。

> 昨今の梅雨は情緒のない、集中豪雨、これも気候変動か？

ちがいますね、たぶん。原因はご政道の乱れとみました。

> そのうち、霧の釧路もなくなるか？

ご心配なく。サンマ漁はまだパツとしないようですが、今年は霧の日が多いです。



さてこの写真、港湾部庁舎となりの緑地ですが、なんだかおわかりになりますか？

まさか港湾部がモダンアートの展示をしているわけではなく、港まつりの踊りパレードに使う笠を虫干しているんです。

もうそんな季節になったんですね。

■暑中お見舞い 投稿者:くしろOB 投稿日:2010年7月16日(金)19時56分45秒 返信・引用  
暑中お見舞い申し上げます

梅雨も明けそうな天気となり、いよいよ猛暑の季節、  
昨今の梅雨は情緒のない、集中豪雨、これも気候変動か？

釧路の濃霧はどうなるか？  
さんまもいわしもよりつかず、匂の味覚はどこえやら！

そのうち、霧の釧路もなくなるか？  
さびしいかぎり！

■Re: 藤原京から 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年7月13日(火)20時45分51秒 返信・引用  
> No.735[元記事へ]

> 三友亭主人さん

ありがとうございます。微妙な色合いが美しいですね。

> 朝・・・そう、6時頃家を出て藤原京に出かけました。  
> 車で15分ぐらい。

うらやましいですね。車で15分走れば藤原京ですか。

> なかには千数百年、その池に咲き続けいていたものも・・・

よく花の命は短いといいますが、どうしてどうして、植物のしぶ  
ときは大変なものだと思います。人間が地上から滅び去っても生き  
つづけるでしょうね。

■藤原京から 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年7月12日(月)22時16分35秒 返信・引用  
朝・・・そう、6時頃家を出て藤原京に出かけました。  
車で15分ぐらい。

今で言えば国会議事堂に当たる朝集院の東門付近に、数年前から営まれている蓮畑です。

そのほとんどが、唐招提寺の鑑真さんのお墓の周囲の蓮池から遷したもの・・・

なかには千数百年、その池に咲き続けいていたものも……



■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年7月9日(金)08時02分9秒  
> No.731[元記事へ]

返信・引用

三友亭主人さん

> とてもかわいそうな名前です・・・へくそかずら・・・

たしかに気の毒な名前ですね。

気の毒といえば、ゴキヅルなんてのもそうです。ゴキブリを  
連想してしまうんですよ(笑)。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年7月7日(水)23時11分43秒  
確か去年もブログで紹介したかと記憶するのですが・・・

返信・引用



とてもかわいそうな名前です・・・へくそかずら・・・

■Re: 雌阿寒のコマクサ 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年7月1日(木)22時16分3秒  
信・引用  
> No.729[元記事へ]

返

> さとうさん

どうもありがとうございます。

> この写真を撮った場所は釧路市内です。

町村合併もやりすぎじゃないかという気がしますね(笑)。ここが釧路市内とは……

> ピンボケの失敗作ですが、ご了承くださいませ。

とんでもありません。とてもいい写真ではありませんか。

ぼくも仕事をしながら(笑)植物観察をつづけているのですが、今年の西港はごらんとおり徹底的に草刈りをしたため、ワルタビラコやホソノゲムギの観察は無理みたいで。



まあ雑草が生えているのは貧乏くさいですから、これでいいとはわかっているんですけど、複雑な心境です。

■雌阿寒のコマクサ 投稿者:さとう 投稿日:2010年7月1日(木)00時08分45秒 返信・引用  
編集済

雌阿寒のコマクサ。道東では見られないと勝手に思っていたのですが、たくさんありました。灯台下暗してした。雌阿寒岳は、釧路、足寄、白糠にまたがりますが、この写真を撮った場所は釧路市内です。

ピンボケの失敗作ですが、ご了承くださいませ。



■Re: キナシベツのイチゲ 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年6月3日(木)23時46分35秒 返信・引用

> No.727[元記事へ]

さとうさん

どうもありがとうございます。

> 今年の4月30日のキナシベツのイチゲです。

これはウラホロイチゲですね。わが家のものと花も葉も同じです。これなら見慣れていますから、時期が早いせいかちょっと葉はやせていますけれど、一目でわかります。

ブログに掲載した写真のものは、やはりこれとは(少なくとも見かけは)ずいぶんちがいますね。

> ちなみに、足の踏み場がないほど大量にありました。踏みつけないようにするのが大変でした。

この点もブログに掲載した花はちがうのです。

さとうさんも実際にごらんになったとおり、わが裏庭のウラボロイチゲも一応は小群落の体をなしており、びっしりと密生しています。しかし問題の花はどちらかといえまばらで数も少なかったのです。

■キナシベツのイチゲ 投稿者:さとう 投稿日:2010年6月3日(木)23時07分38秒 返信・引用  
今年の4月30日のキナシベツのイチゲです。  
まだ時期が早かったためか、蕾も多く、花が咲いていても葉はまだ縮まっていた。



ちなみに、足の踏み場がないほど大量にありました。踏みつけないようにするのが大変でした。

■Re: ああ～霧の二引きよ 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年5月21日(金)20時41分32秒 返信・引用

> No.725[元記事へ]

>くしろ-OBさん

> 釧路人よ、怒涛の叫びをあげろ！

すごいですね。革命家の演説みたいでドキリとしましたよ(笑)。

おっしゃるとおり、釧路港とは因縁浅からぬ二引のマークを大切にしたいものです。わが家も煙突を二引にしようかな。



■ああ～霧の二引きよ 投稿者:くしろ-OB 投稿日:2010年5月20日(木)23時01分42秒 返信・引用

まさに、この風景！釧路の港は、"霧と二引き"がよく似合う東端の母港！"霧の港"に"二引き"よ再び！とは、年寄りの夢。釧路人よ、怒涛の叫びをあげろ！

」■Re: 思い出す風景 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年5月9日(日)18時07分37秒 返信・引用

> No.723[元記事へ]

>くしろOBさん

ご愛読ありがとうございます。

今年は足を鍛えていっそうマチ歩きの道に精進する覚悟でございますので、変わらぬご愛顧のほどお願い申し上げます(なんだか相撲取りの挨拶みたいですけど(笑))。

今日は夕方 30 分ほど歩いてきたのですが、南大通が「道道釧路港線」というのをご存じでしたか？ おはずかしいことに、ぼくは初めて知りました。



「まるひら」前を通過したらレンがしまっており、はてなと思ったら、ここは5時で店じまいなんですね。



■思い出す風景 投稿者:くしろOB 投稿日:2010年5月8日(土)23時43分37秒 返信・引用  
道東の春、懐かしい風景に久々思い出しました。  
遠い昔のこと、街も変わりつつ、変わらないのは  
人が一番  
夕日も一番  
情のくしろ！ これからもよろしく！

■Re:(無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年5月2日(日)22時54分37秒 返信・引用  
> No.719[元記事へ]

> 三友亭主人さん

> ダンナ…先日のお約束のしなでございます…

おお、長崎カステラの下に小判が50両……越後屋、お主いつもながら気が利くの。

ふふふ、わかっておる。心配いたすな。悪いようにはせぬ。

……というわけで、どうもありがとうございます。

コーヒーをお飲みになる聖徳太子、ランドセル姿のゆるキャラとは大ちがいで、いかにもご聡明な顔立ちですね。

ぼくなどは聖徳太子というついお札に印刷されたお姿を連想してしまい、まことに恥ずかしい限りです。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年5月2日(日)21時56分36秒 返信・引用  
ダンナ…先日のお約束のしなでございます…



きちっとしたものは後日私のブログで・・・

■Re: (無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年4月26日(月)20時54分26秒 返信・引用  
> No.716[元記事へ]

薄氷堂さん

>> 橘寺の二面石

>

> これはまさか自然の造形ではありませんよね？

もちろんそうです。明日香には奇妙な石が沢山ありますが、これもその一つです。

お寺にあるので、それらしく人間の善い顔、悪い顔の二面をあらわしたものだと言われていますが、本来はまた違った理由で作られたものと思われます。

・・・その本来の理由は分かりませんが・・・

>

>> そして・・・橘寺の白タンポポです。

>

> 白いタンポポというのはめずらしいですね。ここの名物なの

> でしょうか？

いや・・・特に名物というわけではありません。

大和ではここ十年ぐらい、黄色いタンポポに混じってこの白いタンポポに気づくことが多くなりました。

■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年4月25日(日)22時28分45秒 返信・引用  
> No.715[元記事へ]

>三友亭主人さん

白妙の衣を干しても……釧路に夏は来ませんね(笑)。

> 橘寺の二面石

これはまさか自然の造形ではありませんよね？

> そして・・・橘寺の白タンポポです。

白いタンポポというのはめずらしいですね。ここの名物なの

でしょうか？

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年4月25日(日)19時05分38秒  
編集済

返信・引用

ブログの方の北国の春の気配・・・確かに感じ取りました。

こちら大和はそろそろ初夏へと季節は動き始めています。



橘寺の二面石



そして・・・橘寺の白タンポポです。

■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年4月12日(月)22時39分39秒  
> No.711[元記事へ]

返信・引用

>三友亭主人さん

> こちらは今…初夏の足音が

ツツジですか？

え〜と、春なんですよ、これでも(笑)。これが春でないといわれますと、ぼくの立場が……

たしかにこちらには関西のような春はありません。はてな、今が春なのかな、と疑問符をいくつか浮かべているうちに短い夏を迎え、そうこうしていると定規できっちり線を引いたような秋がやってきて、最高裁で決着をつけたような冬が迫ってくるわけです。

まだ湖も水割り状態。それでも春なんです。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年4月11日(日)22時01分10秒 返信・引用  
ブログを拝見するに、未だ春に至らず…との感を抱きましたが…

こちらは今…初夏の足音が



■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年3月28日(日)18時31分53秒  
> No.707[元記事へ]

返信・引用

>三友亭さん

どうもありがとうございます。どちらもぼくが見たことのない花です。

こちらはやっとなんげ草ですから、とても同じ日本国とは思えませんね。

でも春採湖の氷も融けてきましたので、これからが楽しみです。



■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年3月27日(土)22時54分17秒  
福寿草ですか・・・

返信・引用

なんとまあ可愛い姿でしょうか。

我が家の裏庭は、沈丁花の季節も過ぎ、今は・・・





白雪芥子・・・そしてシャガです。  
年を追うごとに、賑やかになって行きます。

■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年3月12日(金)19時50分34秒 返信・引用  
> No.705[元記事へ]

>三友亭主人さん

三友亭さんのブログも拝見しましたが、もうサクラが咲いているとは驚きです。

2枚目の写真、春独特の空気がたしかに写っています。これはけっして冬のものではありませんね。



こちらは車の雪を落としているんですから、日本は狭いようで広い。写真で見ればたいしたことはなさそうですが、どうしてどうして。夜のうちに一度雪を払ってこれですからね。

■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年3月12日(金)07時53分38秒  
すみません・・・画像・ファイルのボタンと間違えて投稿のボタンを押してしまいました。  
今度こそ、大和の春を・・・

返信・引用



■(無題) 投稿者:三友亭主人 投稿日:2010年3月12日(金)07時50分31秒  
まだ、雪は残っているんでしょうね・・・  
こちら大和はまもなくお水取りも終わり本格的な春が・・・

返信・引用

そんな大和の春の光景です。

■Re:(無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年2月17日(水)22時44分56秒  
> No.701[元記事へ]

返信・引用

>三友亭主人gatayanさん

> 暦をひと巡り以上すぎて娘の年齢に戻った方々です…

なるほど。長寿になったとはいっても、60代を目前にして亡くなる方はたくさんいますから、還暦を迎えるということは現代でもめでたいことにはちがひありませんね。

高齢者が福をもたらすという考えはすばらしいと思います。どうかぼくも大事にしてください(笑)。

> 写真は…来週ご説明しますが、我が町三輪の名物です…

ブログも拝見いたしました。すぐにそうめんとわかりましたよ。今でも自然乾燥しているんですね。

■(無題) 投稿者:三友亭主人gatayan 投稿日:2010年2月13日(土)09時12分46秒 返信・引用

申し訳ありません…

「ひと巡り異常すぎて」ではありません。

「ひと巡り以上すぎて」です。

恥ずかしい限りです…

■Re: (無題) 投稿者:三友亭主人gatayan 投稿日:2010年2月12日(金)22時50分7秒 返信・引用

> No.700[元記事へ]

薄氷堂さん

> 四十代くらいでしょうか(笑)。

とんでもない…もうじき五〇になる私ですが、そんな私から見てもひとまわり以上、上の方々ばかり…  
暦をひと巡り異常すぎて娘の年齢に戻った方々です…

写真は…来週ご説明しますが、我が町三輪の名物です…



■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年2月10日(水)21時55分45秒 返信・引用  
> No.699[元記事へ]

> 三友亭主人gatayanさん

> この神社の福娘さんたちは・・・そう、たぶん薄氷堂さんよりも深い年輪の刻まれた方々ばかりですの  
で・・・

ははあ、そうすると四十代くらいでしょうか(笑)。

でもそういう方々を「娘」とはちといいにくいような気もいたしますが……

■Re: (無題) 投稿者:三友亭主人gatayan 投稿日:2010年2月9日(火)07時48分58秒 返  
信・引用  
No.698[元記事へ]

薄氷堂さん

> 拝見しました。この写真が福娘さんですね。

>

いえいえ・・・このお嬢さんはまだ二〇そこそこのうら若いお方です。

この神社の福娘さんたちは・・・そう、たぶん薄氷堂さんよりも深い年輪の刻まれた方々ばかりですので……

■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年2月8日(月)22時03分20秒

返信・引用

> No.697[元記事へ]

> 三友亭主人gatayanさん

> 気弱な私には、京都にお住まいのえらあ〜い先生のように町行くお嬢さんに気軽にカメラを向けることは出来ませんが・・・こんな写真なら・・・

おまえは無教養だというので、あの先生には破門にされてしまいました(笑)。  
先生、あいかわらず河原町あたりでおねえさんをねらっておいでかな？

> 詳しくは三友亭日記を・・・

拝見しました。この写真が福娘さんですね。

大勢の人が一眼レフで激写しているのにはビックリ。よほど有名な行事らしいですね。

この場合、背後からお撮りになったのは正解だと思います。ほくもそうしたでしょう。釧路川のラッコもそうでしたが、同じ場所から同じ対象をねらうのは気恥ずかしくて苦手なのです。

■(無題) 投稿者:三友亭主人gatayan 投稿日:2010年2月8日(月)21時41分5秒

返

信・引用



さて・・・この写真は・・・

気弱な私には、京都にお住まいのえらあ〜い先生のように町行くお嬢さんに気軽にカメラを向けることは出

来ませんが・・・こんな写真なら・・・  
詳しくは三友亭日記を・・・

■Re: 鯛・・・? 投稿者:三友亭主人gatayan 投稿日:2010年2月7日(日)21時25分9秒  
返信・引用  
> No.695[元記事へ]

薄氷堂さん

> ところでこの鯛にふさわしい恵比須さん役の人もいるのでしょうか？

縁起がいいでしょう・・・でも、仰るような恵比寿さんはいらっしゃられないんですね。  
でも、この週末は初恵比須・・・その祭の様子は明日明後日ぐらいに三友亭日記で・・・

■Re: 鯛・・・? 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年2月7日(日)20時57分1秒 返信・引用  
> No.694[元記事へ]

>三友亭主人gatayanさん

おお、これはみごとな。縁起のよい写真をありがとうございます。ところでこの鯛にふさわしい恵比須さん役の人もいるのでしょうか？

■鯛・・・? 投稿者:三友亭主人gatayan 投稿日:2010年2月7日(日)10時30分5秒 返信・引用

ここんとこの三友亭日記で紹介していた恵比須神社の境内に突然出現した巨大な鯛？  
見れば見るほど愛嬌のある顔をしています。  
まあ・・・恵比須さんと言えば鯛というのがおきまりですから・・・



■Re: (無題) 投稿者:三友亭主人gatayan 投稿日:2010年2月3日(水)22時09分35秒 返信・引用

> No.692[元記事へ]

薄氷堂さん

> こんなもんでしたか？

そうですね……

大和では山間部は別として、薄氷堂さんのお写真ぐらいの雪が精一杯でしょうか……

それを、

我が里に 大雪降り 大原の 古りにし里に、降らまくは後

なんて詠んでいた天武天皇は、まあ……のんびりとしたもんですねえ。

でも、こんな事って出来るんですね。

■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年2月3日(水)20時21分51秒 返信・引用  
> No.691[元記事へ]

三友亭主人gatayanさん

> 今朝の具合はこんなモンです。



こんなもんでしたか？

■(無題) 投稿者:三友亭主人gatayan 投稿日:2010年2月2日(火)21時40分47秒 返信・引用

いやあ、夕べお知らせした頃はどんどんと雪が降り続けてましてねえ・・・  
もうちょっと降るかと思ったんですが。  
今朝の具合はこんなモンです。



■Re: (無題) 投稿者:三友亭主人gatayan 投稿日:2010年2月1日(月)22時21分7秒 返信・引用

> No.689[元記事へ]

薄氷堂さん

)、山の神さまに敬意を表して、電柱と電線をバツサリ消してみました。

へえ・・・こんな事が出来るんですね。

ありがとうございました。

■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年2月1日(月)21時27分56秒 返信・引用  
編集済

> No.688[元記事へ]

> 三友亭主人gatayanさん

おお、これはなかなかすばらしい景色ではありませんか。神々しい感じのする朝靄だと思います。

カメラを持ち歩くとこういうことがあるからやめられません。

それにしてもわが国は景観に無頓着ですから、あちこちで電線が眺めをぶちこわしにしていますね。



ぼくは基本的にリアリストなんですけど(笑)、山の神さまに敬意を表して、電柱と電線をバツサリ消してみました。

■(無題) 投稿者:三友亭主人gatayan 投稿日:2010年 1月 31日(日)22時 30分 28秒 返信・引用

朝職場に向かう途中、思わず車を降りて、ポケットにあるデジカメ携帯で撮影してしまいました。腕と審美眼には自信が……もちろんあるはずもないので、あとは薄氷堂さんの想像力の逞しさをご期待申し上げます。



■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年1月23日(土)21時06分54秒 返信・引用  
> No.685[元記事へ]

> 三友亭主人gatayanさん

> よそではあちらこちらで満開になっているのですが、なぜか我が家の庭の水仙は昨日が咲き初め・・・

満開もなにも、こちらでは今の時期花屋さんへ行かなくちゃこういう花を見ることはできません。

見渡せば枯木ばかりの道凍り転ばぬ先の杖も突きかね 薄氷堂

といった有様で、ワビもサビも風流もあつたものではありませんから、

> 例年こうなんですよね。

> 日当たりも悪くないし・・・なぜなのでしょうね？

なんてゼイタクをおっしゃっちゃいけません。咲くだけでも感謝しなくては。

■Re: 厳寒のけあらし 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年1月23日(土)20時51分33秒 返信・引用  
> No.684[元記事へ]

> くしろーOBさん

今年もよろしく願いいたします。

> 酷寒の港、久々に思い出します。

気嵐の港、なつかしいでしょう。

> 御地、例年にない大雪とのこと、

> どうぞ、電子記事と美酒に今年もお励みください！

ありがとうございます。

何度も雪かきをさせられたのには参りました。去年はどうだったかと思い、ファイルを調べてみたら、1月10日から11日にかけて降っているんですが(写真)、道路の状態は今年ほどひどくなかったですね。



また降らなきやいいんですが……

■(無題) 投稿者:三友亭主人gatayan 投稿日:2010年1月23日(土)09時10分7秒 返信・引用

やっと咲いてくれました。

よそではあちらこちらで満開になっているのですが、なぜか我が家の庭の水仙は昨日が咲き初め……



例年こうなんですよ。

日当たりも悪くないし……なぜなのでしょうね？

■厳寒のけあらし 投稿者:くしろ一OB 投稿日:2010年1月22日(金)22時11分7秒 返信・引用

酷寒の砌 お見舞い申し上げます

酷寒の港、久々に思い出します。

御地、例年になく大雪とのこと、

どうぞ、電子記事と美酒に今年もお励みください！

■Re: 畝傍駅 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年 1月10日(日)23時18分2秒  
> No.682[元記事へ]

返信・引用

>三友亭主人gatayanさん

雪かきから解放されたと思ったら、今度は部屋の片づけ。苦戦しています。

いい機会なので、日本文学史や古典文学関係の本を自分の部屋に移しました。今すぐに読もうというわけじゃありませんけれど、気分の問題です、気分の(笑)。

> 構内には皇族の方々が利用した貴賓室が・・・

ぼくは入れてもらえないんでしょうね。写真は新宿御苑内の重要文化財「旧洋館御休所」です。こちらも皇族用なのでしょう。



■畝傍駅 投稿者:三友亭主人gatayan 投稿日:2010年 1月10日(日)11時00分6秒  
信・引用

先日電車に乗ってふと降りた駅です。

我が町の三輪の駅から10分ほど。

戦前に出来たこの駅は、かつて橿原神宮参拝の玄関口。

構内には皇族の方々が利用した貴賓室が・・・

下の写真の扉の向こうです・・・

無人駅となった今は閉ざされたままですが。



■Re: (無題) 投稿者:薄氷堂 投稿日:2010年1月4日(月)22時11分11秒  
> No.680[元記事へ]

返信・引用

> 三友亭主人gatayanさん

> 今年1年、三輪山を定点撮影しようと言うことで新たに一つブログを立ち上げました。

定点撮影というのはおもしろいですね。楽しみに拝見させていただきます。

ぼくも新企画をとら思っているのですが、なかなか実行に移せません。なにしろ手をつけたまま片づけていないシリーズもいくつかあるものですから……

■(無題) 投稿者:三友亭主人gatayan 投稿日:2010年1月4日(月)12時16分35秒 返  
信・引用

今年1年、三輪山を定点撮影しようと言うことで新たに一つブログを立ち上げました。  
写真はご存じの通り貧弱なものではございますが、よろしければ、ときどき御覧下さい。



・・・定点は箸墓の北西100m程のところですよ。

なお、最近私の家の受験生がこんな時期だというのに、この teacup にてブログを始めてしまいまして、その関係で私の投稿に奇態なイメージ画像が張り付くようになってしまいました。

どうかお気になさらずに・・・